福岡市埋蔵文化財調査報告書第892集

博 多 106

── 博多遺跡群第147次調査の報告 ──

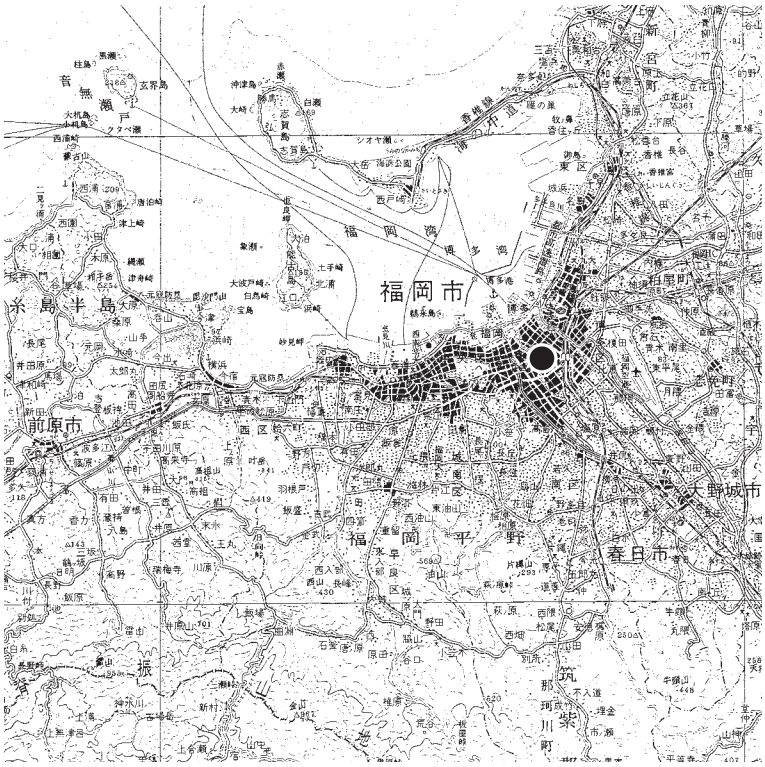
2 0 0 6

福 岡 市 教 育 委 員 会

博 多 106

―博多遺跡群第147次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第892集



遺跡調査番号	0426		遺跡略号	HKT －147	
地番	博多区祇園町４－９		分布地図番号	天神　49	
開発面積	543.91㎡	調査対象面積	588.6㎡	調査面積	588.6㎡
調査期間	平成16年６月４日～12月16日				

２００６

福岡市教育委員会

序　　文

玄界灘に面して広がる福岡市は、古くから大陸との玄関口として発展し、市内には豊かな自然と多くの遺跡が残されています。これらは私たちの暮らしに潤いを与え、豊かな生活環境を作り出しています。私たちはこれらの遺跡を後世に伝えていくことを願い、さまざまな形で遺跡の保護・活用に取り組んでいます。

その一方で、最近の都市の発展により新しい開発事業が数多く手がけられ、そのために重要な遺跡が破壊され、失われつつあるという厳しい現実があります。当教育委員会ではこれらの遺跡についてはあらかじめ事前に発掘調査を行い、先人の足跡を後世に残せるよう、その記録保存に努めています。

本書は博多区祇園町地内における博多遺跡群第147次調査の成果を報告するものです。この調査により、古墳時代から中世にかけての重要な遺構、遺物を確認することができました。特に、中国の古代鏡や貨幣、大量の鉄器が出土したことは特筆すべきもので、この地域での貴重な資料を得ることができました。

本書が文化財保護への理解と協力を得られる一助となるとともに、学術研究の資料として御活用いただけましたら幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行に至るまで費用負担など多くのご協力を頂いた宗教法人覚永寺をはじめとする関係者の方々に対し、心より謝意を表します。

平成18年３月31日

福岡市教育委員会

教 育 長　植　木　とみ子

例　　言

1．本書は共同住宅建設に先立って福岡市教育委員会が平成16年６月４日から平成16年12月16日にかけて行った博多遺跡群第147次調査の調査報告書である。
2．本書に掲載した遺構実測図の作成は、大塚紀宜のほか、野中理加、奈良尚美、藤島志考、井上玲那が行った。
3．本書に掲載した遺物実測図の作成は大塚、藤島、榊原俊行が行った。
4．本書に掲載した写真の撮影は大塚が行った。
5．本書に掲載した挿図の整図は大塚、藤島が行った。
6．本書で用いた方位は磁北で、真北から６°21′西偏する。
7．本書で用いた座標は国土座標第Ⅱ系を使用している。座標北は真北から０°19′西偏する。
8．本書で使用した遺構の呼称は、竪穴住居をSC、溝状遺構をSD、井戸・井戸状遺構をSE、土坑をSK、柱穴・ピットをSP、不明遺構をSXと略号化している。
8．遺構番号は基本的に通し番号で、重複はなく、一部欠番が生じる。遺構番号と各調査区・遺構面の関係は以下の通りである。

1001～1100　１区第１面
1101～1200　２区第１面
1201～1300　３区第１面
2001～2200　１区第２面
2201～2400　２区第２面
2401～2600　３区第２面
3001～3100　１区第３面
3101～3200　２区第３面
3201～3300　３区第３面
4001～4100　１区第４面
4101～4200　２区第４面
4201～4300　３区第４面

また、遺物番号は各遺構ごとに設定している。
9．本書に関わる記録・遺物などの資料は福岡市埋蔵文化財センターに保管される予定である。
10．本書の執筆は大塚が行い、(6) １）動物遺存体については屋山洋が執筆を行なった。また執筆段階で以下の各項目について各位からの教示・協力を受けている。

古墳時代遺物：常松幹雄（福岡市埋蔵文化財センター）
久住猛雄（福岡市教育委員会埋蔵文化財課）
榊原俊行（九州大学大学院）
動物遺存体　：屋山洋（福岡市教育委員会埋蔵文化財課）
鉄器・鉄製品：長家伸（福岡市教育委員会文化財整備課）
比佐陽一郎（福岡市埋蔵文化財センター）
銭貨　　：片多雅樹（福岡市埋蔵文化財センター）

11．本書の編集は大塚が行った。

目　　次

第１章　はじめに……１
　１．調査に至る経緯……１
　２．発掘調査の組織……１
第２章　調査の報告……２
　１．調査概要……２
　２．各遺構面の調査概要……５
　(1) 第４面（弥生時代・古墳時代）……５
　　１）弥生時代の遺構・遺物……５
　　２）竪穴住居……９
　　３）その他の遺物……18
　(2) 第３面（11世紀後半～12世紀前半）……27
　　１）井戸……27
　　２）方形竪穴遺構……30
　　３）土坑……33
　(3) 第２面（12世紀中頃～12世紀後半）……34
　　１）井戸……34
　　２）土坑・その他の遺構……39
　(4) 第１面（13世紀前半～13世紀後半）……43
　　１）土器溜……43
　　２）土坑……45
　(5) 包含層出土遺物……52
　(6) その他の遺構・遺物……52
　　１）動物遺存体……52
　　２）古墳時代の鉄器・鉄製品・銅鏡……53
　　３）ガラス製品・玉製品……53
　　４）銭貨……54
第３章　小結……54

図版目次

図版１　１．１区１面全景（南から）
　　２．１区２面全景（南から）
　　３．１区３面全景（南から）
　　４．１区４面全景（南から）
図版２　１．２区１面全景（南から）
　　２．２区２面全景（南から）
　　３．２区３面全景（南から）
　　４．２区４面全景（南から）
図版３　１．３区１面全景（南から）
　　２．３区２面全景（南から）
　　３．３区３面全景（南から）
　　４．３区４面全景（南から）
図版４　１．ST-4001（南から）
　　２．ST-4018（西から）
　　３．SX-4002（南から）
図版５　１．SC-4007（南から）
　　２．SC-4009土器検出状況（東から）
　　３．SC-4009完掘状況（南から）
　　４．SC-4101（北から）
　　５．SC-4102土器検出状況（東から）
　　６．SC-4102土器検出状況（西から）
図版６　１．SC-4102完掘状況（東から）
　　２．SC-4202（東から）
　　３．SC-4204（南から）
　　４．SE-3006（北から）
　　５．SE-3048（南から）
　　６．SE-3052（南東から）
図版７　１．SE-4203（東から）
　　２．SK-3006（東から）
　　３．SK-3049（東から）
　　４．SE-2206（南から）
　　５．SE-2055（北から）
　　６．SK-2001（南西から）
図版８　１．SK-2052（東から）
　　２．SK-1020（東から）
　　３．SK-1029（東から）
　　４．SD-1102（南から）
　　５．SD-1102南側（南から）
　　６．SD-1102断面（南から）
図版９　出土遺物１
図版10　出土遺物２
図版11　出土遺物３
図版12　墨書土器
図版13　１．SK-3202獣骨出土状況
　　２．SK-1201獣骨出土状況（西から）
　　３．SK-2054獣骨出土状況（北から）
　　４．SK-2056獣骨出土状況（南から）
　　５．SE-2401馬骨出土状況・上層（西から）
　　６．SE-2401馬骨出土状況・下層（西から）
図版14　出土動物骨
図版15　出土銭貨
図版16　出土銅鏡

挿図目次

Fig. 1　調査地点位置図（１/25,000）……１
Fig. 2　調査区位置図（１/1,000）……２
Fig. 3　第１面・第２面遺構配置図（１/200）…３
Fig. 4　第３面・第４面遺構配置図（１/200）…４
Fig. 5　ST-4001遺構実測図（１/30）……５
Fig. 6　ST-4001出土甕棺実測図（１/６）……５
Fig. 7　SX-4002遺構実測図（１/30）……６
Fig. 8　SX-4002出土遺物実測図（１/３）……６
Fig. 9　SK-4005遺構実測図（１/40）……６
Fig. 10　SK-4005出土遺物実測図（１/４）……６
Fig. 11　ST-4018遺構実測図（１/30）……７
Fig. 12　ST-4018出土甕棺実測図（１/６）……７
Fig. 13　SC-4004遺構実測図（１/50）……７
Fig. 14　SC-4004出土遺物実測図
　（１：１/３　２・３：１/４）……７
Fig. 15　SC-4007遺構実測図（１/50）……８
Fig. 16　SC-4007出土遺物実測図（１/３）……８
Fig. 17　SC-4009遺構実測図（１/50）……８
Fig. 18　SC-4009出土遺物実測図１（１/３）…９
Fig. 19　SC-4009出土遺物実測図２（１/３）…10
Fig. 20　SC-4009出土遺物実測図３（１/３）…11
Fig. 21　SC-4009出土遺物実測図４（１/３）…12
Fig. 22　SC-4009出土遺物実測図５（１/５）…13
Fig. 23　SC-4009出土遺物実測図６（１/４）…14
Fig. 24　SC-4010遺構実測図（１/50）……14
Fig. 25　SC-4010出土遺物実測図（１/３）……14
Fig. 26　SC-4011遺構実測図（１/50）……15
Fig. 27　SC-4011出土遺物実測図
　（１：１/３　２・３：１/４）……15
Fig. 28　SC-4013遺構実測図（１/50）……16

Fig. 29　SC-4013出土遺物実測図
（1：1／3　2：1／4）……16
Fig. 30　SC-4101遺構実測図（1／50）……17
Fig. 31　SC-4102遺構実測図（1／50）……17
Fig. 32　SC-4102出土遺物実測図1（1／3）…18
Fig. 33　SC-4102出土遺物実測図2（1／3）…19
Fig. 34　SC-4102出土遺物実測図3（1／3）…20
Fig. 35　SC-4102出土遺物実測図4（1／3）…21
Fig. 36　SC-4102出土遺物実測図5（1／4）…21
Fig. 37　SC-4105遺構実測図（1／50）……22
Fig. 38　SC-4204遺構実測図（1／50）……22
Fig. 39　SC-4204出土遺物実測図（1／3）……22
Fig. 40　古墳時代遺物実測図1（1／3）……23
Fig. 41　古墳時代遺物実測図2（1／3）……24
Fig. 42　古墳時代遺物実測図3（1／3）……25
Fig. 43　古墳時代遺物実測図4（1／3）……26
Fig. 44　古墳時代遺物実測図5（1／3）……27
Fig. 45　古墳時代遺物実測図6（1／3）……28
Fig. 46　古墳時代遺物実測図7
（1・2：1／4　3・4：1／3）……29
Fig. 47　古墳時代遺物実測図8（1／3）……29
Fig. 48　SE-3003遺構実測図（1／60）……30
Fig. 49　SE-3003出土遺物実測図
（1・2：1／3　3：1／4）……30
Fig. 50　SE-3004遺構実測図（1／60）……30
Fig. 51　SE-3004出土遺物実測図（1／3）……30
Fig. 52　SE-3005遺構実測図（1／60）……30
Fig. 53　SE-3005出土遺物実測図（1／3）……31
Fig. 54　SE-3048遺構実測図（1／60）……31
Fig. 55　SE-3052遺構実測図（1／60）……31
Fig. 56　SE-3048出土遺物実測図（1／3）……31
Fig. 57　SE-3052出土遺物実測図（1／3）……31
Fig. 58　SE-3104遺構実測図（1／60）……32
Fig. 59　SE-3104出土遺物実測図（1／3）……32
Fig. 60　SE-4203遺構実測図（1／60）……32
Fig. 61　SK-3006遺構実測図（1／60）……32
Fig. 62　SK-3006出土遺物実測図
（1～7：1／3　8・9：1／4）……32
Fig. 63　SK-3049遺構実測図（1／60）……33
Fig. 64　SK-3049出土遺物実測図（1／3）……33
Fig. 65　SK-3102遺構実測図（1／3）……33
Fig. 66　SK-3102出土遺物実測図（1／3）……33
Fig. 67　SK-3001出土遺物実測図
（1～4：1／3　5：1／4）……34
Fig. 68　SK-3001遺構実測図（1／40）……34
Fig. 69　SK-3026遺構実測図（1／40）……34
Fig. 70　SK-3026出土遺物実測図（1／3）……34
Fig. 71　SK-3035遺構実測図（1／40）……34
Fig. 72　SK-3035出土遺物実測図（1／3）……34
Fig. 73　SE-2055出土遺物実測図
（1～4：1／3　5：1／4）……35
Fig. 74　SE-2055遺構実測図（1／60）……35
Fig. 75　SE-2203遺構実測図（1／60）……35
Fig. 76　SE-2203出土遺物実測図（1／3）……35
Fig. 77　SE-2206遺構実測図（1／60）……36
Fig. 78　SE-2206出土遺物実測図（1／3）……36
Fig. 79　SE-2207遺構実測図（1／60）……36
Fig. 80　SE-2207出土遺物実測図（1／3）……36
Fig. 81　SE-2275出土遺物実測図
（1～8・10：1／3　9：1／4）……37
Fig. 82　SE-2319遺構実測図（1／60）……37
Fig. 83　SE-2319出土遺物実測図（1／3）……37
Fig. 84　SE-2401遺構実測図（1／60）……38
Fig. 85　SE-2401出土遺物実測図（1／3）……38
Fig. 86　SX-2001遺構実測図（1／40）……38
Fig. 87　SX-2001出土遺物実測図（1／3）……38
Fig. 88　SK-2052出土遺物実測図（1／3）……38
Fig. 89　SK-2052遺構実測図（1／40）……38
Fig. 90　SK-2054出土遺物実測図（1／3）……39
Fig. 91　SK-2054遺構実測図（1／40）……39
Fig. 92　SK-2057遺構実測図（1／40）……39
Fig. 93　SK-2057出土遺物実測図
（1～8：1／3　9：1／4）……39
Fig. 94　SK-2131遺構実測図（1／40）……40
Fig. 95　SK-2131出土遺物実測図（1／3）……40
Fig. 96　SK-2138遺構実測図（1／40）……40
Fig. 97　SK-2138出土遺物実測図（1／3）……40
Fig. 98　SK-2204遺構実測図（1／40）……40
Fig. 99　SK-2204出土遺物実測図（1／3）……41
Fig. 100　SK-2205遺構実測図（1／40）……41
Fig. 101　SK-2205出土遺物実測図（1／3）……41
Fig. 102　SK-2315出土遺物実測図（1／3）……41
Fig. 103　SK-2315遺構実測図（1／40）……41
Fig. 104　SD-1102遺構実測図（1／60）……42
Fig. 105　SD-1102出土遺物実測図（1／3）……42
Fig. 106　SK-1020遺構実測図（1／40）……42
Fig. 107　SK-1020出土遺物実測図
（1～12：1／3　13：1／4）……42
Fig. 108　SK-1029遺構実測図（1／40）……43
Fig. 109　SK-1029出土遺物実測図（1／3）……43
Fig. 110　SK-1001遺構実測図（1／60）……43
Fig. 111　SK-1001出土遺物実測図（1／3）……43
Fig. 112　SK-1011遺構実測図（1／40）……43
Fig. 113　SK-1011出土遺物実測図
（1～4・7：1／3　5・6：1／4）
……44
Fig. 114　SK-1012遺構実測図（1／40）……44
Fig. 115　SK-1012出土遺物実測図（1／3）……44
Fig. 116　SK-1115遺構実測図（1／40）……44
Fig. 117　SK-1115出土遺物実測図（1／3）……45
Fig. 118　SK-1118遺構実測図（1／40）……45
Fig. 119　SK-1118出土遺物実測図（1／3）……45
Fig. 120　SK-1201遺構実測図（1／40）……45
Fig. 121　SK-1201出土遺物実測図（1／3）……46
Fig. 122　SK-1203遺構実測図（1／40）……46
Fig. 123　SK-1203出土遺物実測図（1／3）……46
Fig. 124　包含層出土遺物実測図1
（1～4：1／3　5・6：1／4）…46
Fig. 125　包含層出土遺物実測図2（1／3）…47
Fig. 126　SE-2401馬骨実測図（1／20）……47
Fig. 127　古墳時代鉄器・鉄関連遺物実測図1
（1／2）……50
Fig. 128　古墳時代鉄器・鉄関連遺物実測図1
（62～84・86～92：1／2，85・
93～99：1／3）……51
Fig. 129　玉・ガラス・銅製品実測図（1／2）…52
Fig. 130　五銖銭出土状態実測図（1／1）　図版15
Fig. 131　銭貨拓本（1／1）……図版15
Fig. 132　破鏡実測図（1／1）……図版16

第１章　はじめに

１．調査に至る経緯

2003年（平成15年）７月30日付けで、宗教法人覚永寺　住職栗山俊行氏より福岡市博多区祇園町４－９における本堂・庫裡建設にともなう埋蔵文化財の有無についての照会が申請された。これをうけて埋蔵文化財課では申請地が周知の遺跡である博多遺跡群の範囲内に位置することから、平成16年５月７日に試掘調査を実施した。その結果、同地内で弥生時代から中世の遺構が遺存していることを確認した。この結果をもとに埋蔵文化財課では関係者と協議を重ねた結果、建物の建築予定部分については建物基礎が遺構面に影響を与えることから建築部分について発掘調査による記録保存を図ることとし、平成16年６月から12月にかけて発掘調査を実施した。

調査は調査区全体を３つに区画し、１区から重機で表土を除去して遺構面の調査を開始し、４面の遺構面について調査を行い、その区の調査が終了次第順次埋め戻して次の区の調査を開始する手順で進められた。調査区別の期間は、１区が６月４日～９月６日、２区が９月８日～10月28日、３区が10月29日～12月16日である。

発掘調査の実施にあたっては、宗教法人覚永寺をはじめ、関係者の方々に多大な御理解と御協力をいただきました。また調査期間中に様々な方からの御指導、助言をいただきました。ここに記して感謝いたします。

２．発掘調査の組織

事業主体　宗教法人覚永寺
調査主体　福岡市教育委員会
調査総括　埋蔵文化財課　課長　山口譲治
庶務担当　文化財整備課　御手洗清（平成16年度）　鈴木由喜（平成17年度）
事前審査　埋蔵文化財課事前審査係　久住猛雄
調査担当　埋蔵文化財課調査第２係　大塚紀宜
調査作業　石川洋子　伊藤美伸　乾俊夫　桑原美津子　柴田博　田中トミ子　鍋山治子　濱地静子　林厚子
播磨千恵子　平井武夫　吹春憲治　北條こず江　水野由美子
藤島志考　井上玲那（福岡大学文学部）
野中理加（東海大学文学部、現東京大学大学院）　奈良尚美（東海大学文学部）
整理作業　土斐崎孝子　篠原明美　古城恭子
榊原俊行（九州大学大学院比較社会文化研究室）　藤島志考（福岡大学文学部）

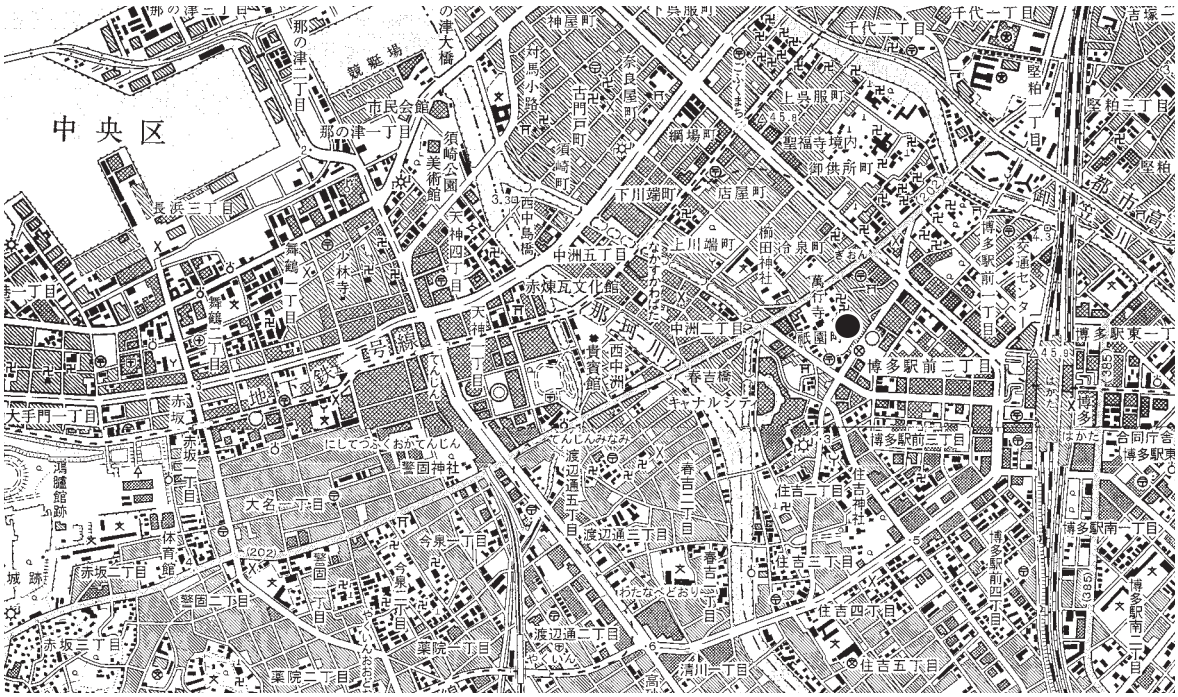


Fig.1　調査地点位置図（１/25,000）

第２章　調査の報告

１．調査概要

調査地点は福岡市博多区祇園町４－９に位置する。博多遺跡群全体のうち南端の部分に位置する。現況の標高は６ｍ前後を測る。調査面積は588.6㎡である。

現地の基本層序の大略は、表土下の第１面以下で暗褐色土、暗褐色砂質土、明褐色砂質土となる。各層は一枚の厚さが厚く、人為的に細かく造成した整地層はない。各遺構面の設定は、第１面が標高５ｍ付近、第２面は標高4.5m、第３面は標高4.0～4.2m前後、第４面は地山土である明褐色砂層上面で、標高2.6～3.0m付近である。各区での遺構面設定に若干高低差があり、3面と４面は遺構面自体が南へ傾斜することから、同一遺構面でも各遺構の検出レベルに差が生じる。

なお、以下の記述では調査実施順とは逆に下層の遺構面から時代を追って記述をおこない、鉄関連遺物や動物遺存体、銭貨などの特記すべき遺物は後半でまとめることとする。

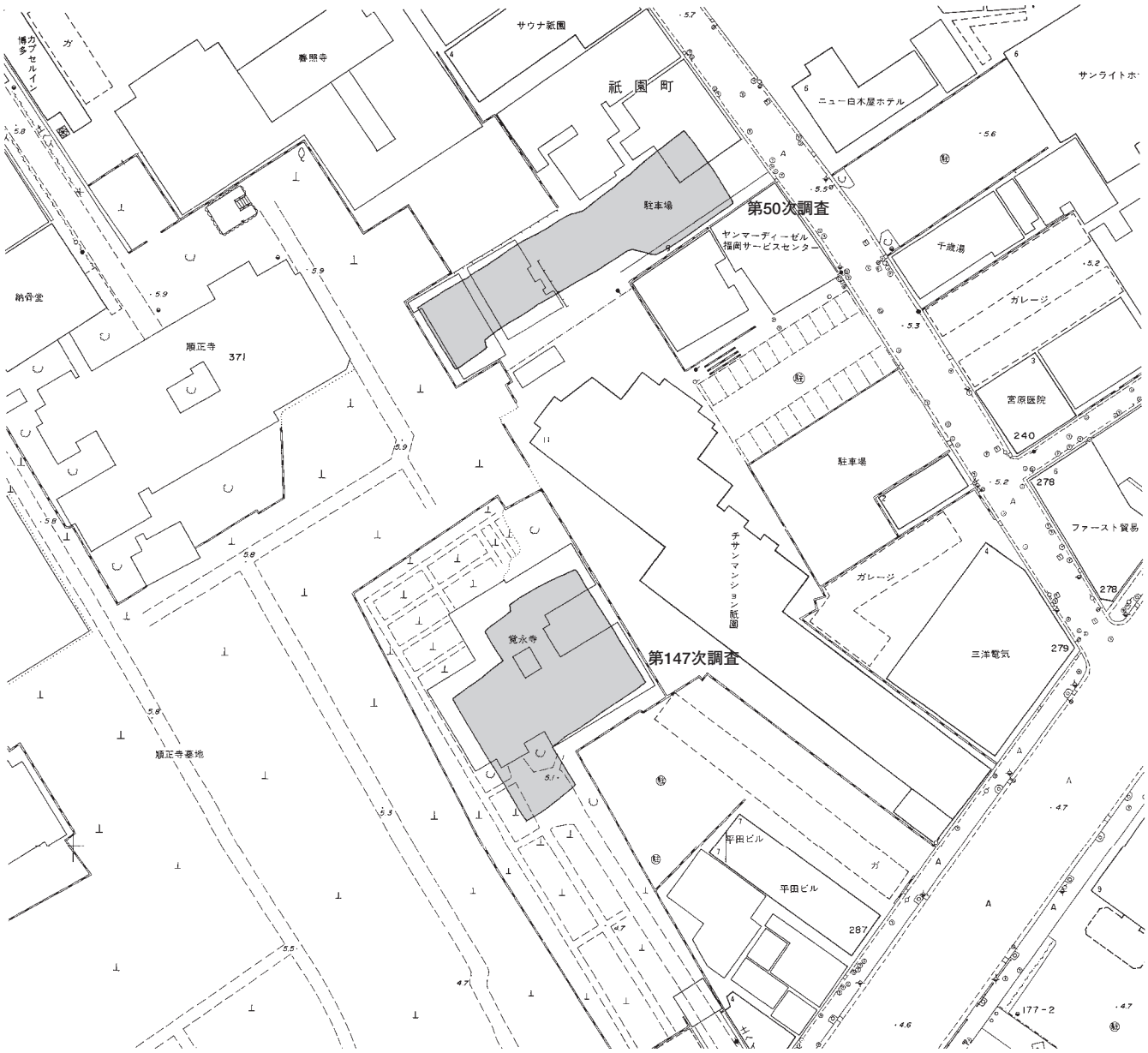


Fig.2　調査区位置図（１/1,000）

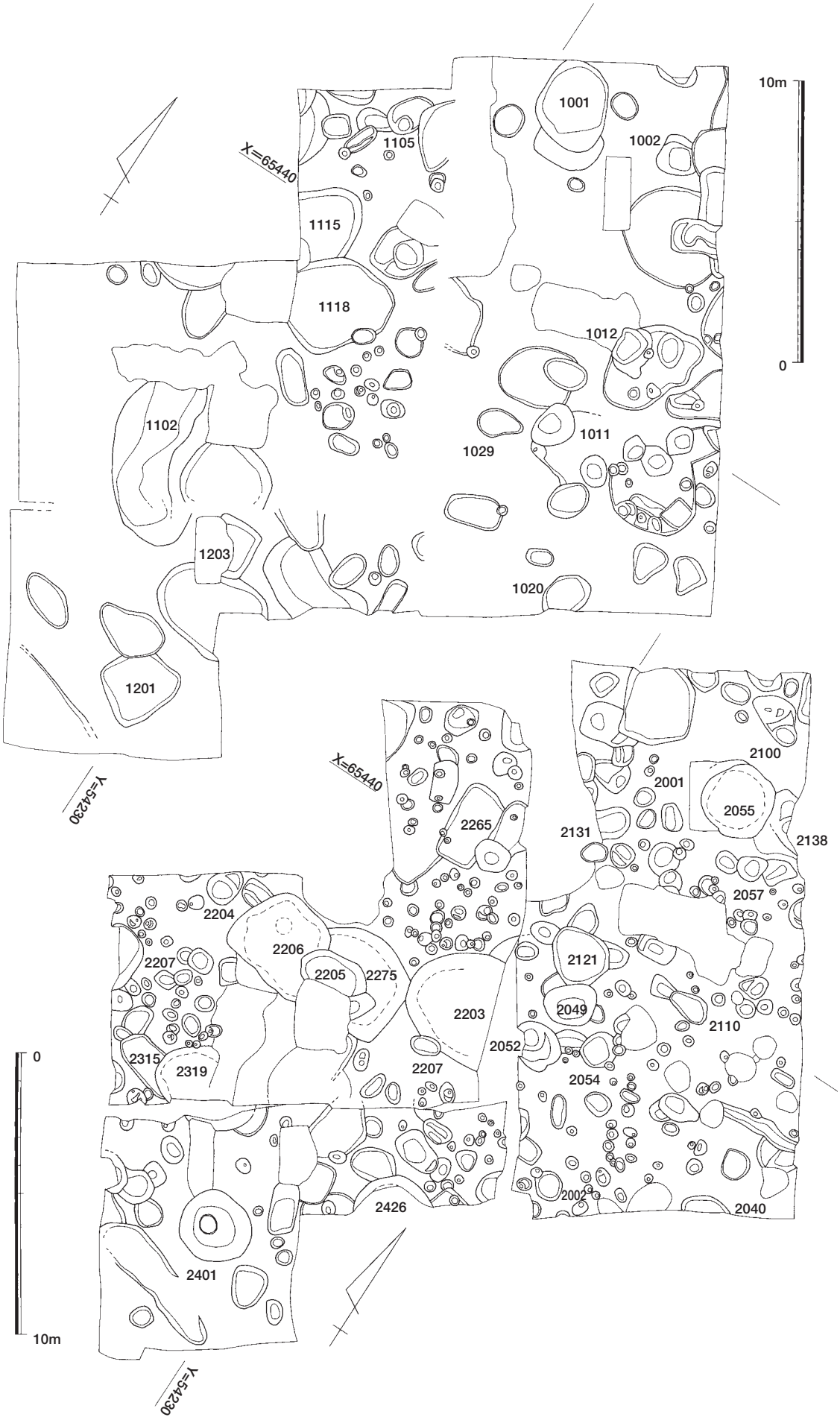


Fig.3　第１面・第２面遺構配置図（１ /200）

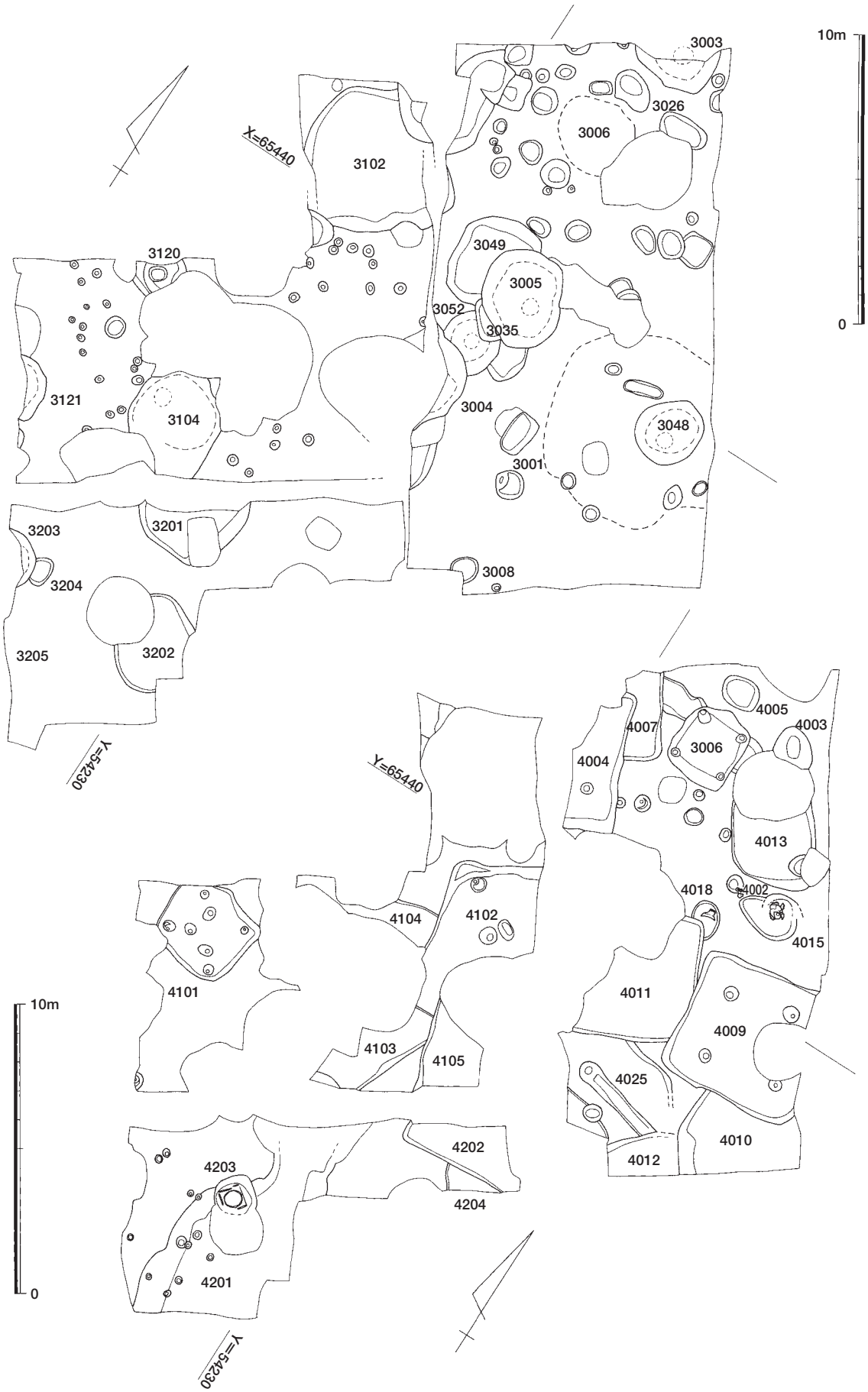


Fig.4　第 3 面・第 4 面遺構配置図（1 /200）

２．各遺構面の調査概要

(1) 第４面（弥生時代・古墳時代）

１）弥生時代の遺構・遺物

ST－4001（Fig. 5）４面の明褐色砂質土上面への掘り下げ中に検出された甕棺墓で、包含層切り下げ中であったため墓壙南側は検出できていない。甕棺の埋置状況からみてほぼ原位置と思われる埋置状態で、上下合口埋葬で上甕は下甕内に完全に落ち込んだ状態で、下甕は上部が割れて落ち込んだ状態で検出される。墓壙は北側のみ確認でき、床面は傾斜して壁面は緩く立ち上がるなど、砂丘甕棺特有のゆるい墓壙形を呈する。下甕は北側に口を向けた状態で斜位埋置されており、傾斜角度から見てほぼ旧況をとどめているとみられる。上甕は底部が上を向いた状態で確認できる他はほとんどが破片で原形をとどめない。副葬品などは検出できなかった。

出土遺物（Fig. 6）１は上甕で、胴部の一部を欠き、底部と胴中部に分かれる。復元高50.2cm、胴最大径55.9cm で、頸部と胴部の境界に断面三角形突帯を貼付し、突帯上端で打ち欠く。胴部は球形で、底部はやや上げ底気味である。外面は縦方向のハケ目、内面は上部と底部付近に横ミガキが残る。2 は下甕で、頸部上部で口縁を打ち欠いている。頸部

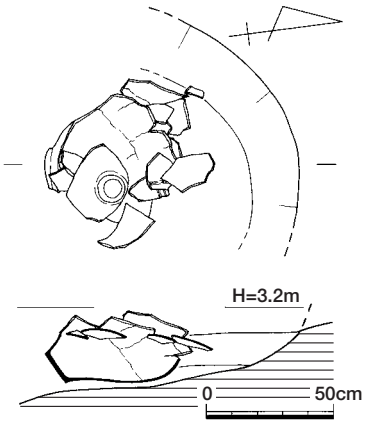


Fig.5　ST-4001遺構実測図（１/30）

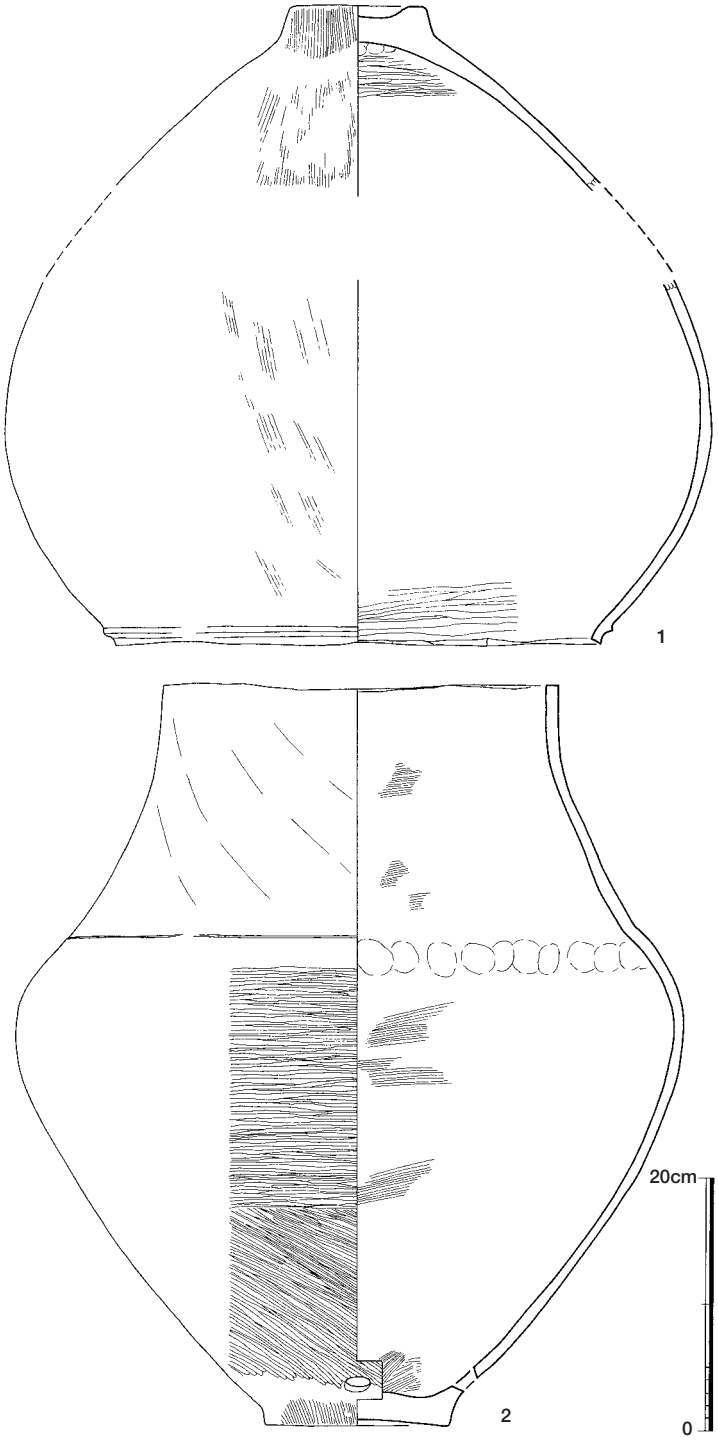


Fig.6　ST-4001出土甕棺実測図（１／６）

は内傾し、外面に整形痕とみられる斜め方向の緩い微妙な凹凸が残る。胴部は肩が張り、頸部と胴部の境界に段を持ち、底部付近に穿孔が１ヶ所ある。胴部外面は胴中位で横方向ミガキ、胴下位で斜め方向のミガキ、底部付近にハケ目が残る。内面は所々横ハケが残り、胴部と頸部の境界付近には指圧痕が残る。上下甕の口径などから、上下甕の組み合わせ形態は覆口式と推定される。

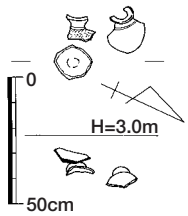


Fig.7　SX-4002遺構実測図（１ /30）

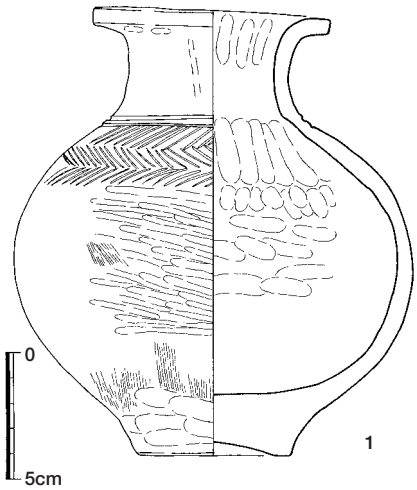


Fig.8　SX-4002出土遺物実測図（１ / ３）

SX－4002（Fig. 7）ST-4001の西側に隣接して検出した小型壺形土器の出土状況を以てSX-4002とする。ST-4001と同様、包含層切り下げ中であったため土器のみ検出でき、土器が伴う土坑などの掘り込みは検出できなかった。そのため、土器が埋没した状況や、遺構の性格などは不明である。土器は３つの破片に大きく割れており、破片の配置から埋没後に土圧などで割れたものではなく、埋没以前に割れたものが投棄されたか、埋没後に原位置から動いた際に割れたとみられる。

出土遺物（Fig. 8）出土した３つの破片は接合の結果、１個体に復元できた。１は弥生前期の小型壺形土器で、球形の胴部に直立した頸部、短く外反した口縁をもつ。底部は上げ底。頸部と胴部の境界に２条の沈線を回し、胴部上位に無軸羽状文を施文する。外面は縦ハケ後横ミガキ、内面や外面底部付近には成形の際の指圧痕が残る。副葬小壺とみられるが、副葬された墓葬主体部は特定できない。

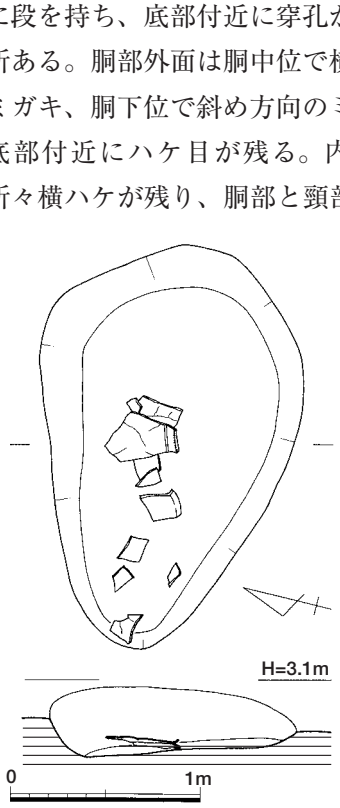


Fig.9　SK-4005遺構実測図（１ /40）

SK－4005（Fig. 9）楕円形の土坑で、ST-4001の直下に位置する。遺構内から弥生土器の破片が散布した状態で出土した。検出時の段階でごく浅い土坑で、遺物のいくつかはST-4001とほとんど検出レベル差のない状態で出土している。

出土遺物（Fig. 10）出土した破片は接合の結果１個体に復元できた。１は弥生前期の甕形土器で、口縁部は短く外反し、口唇部下端に刻目を施す。口

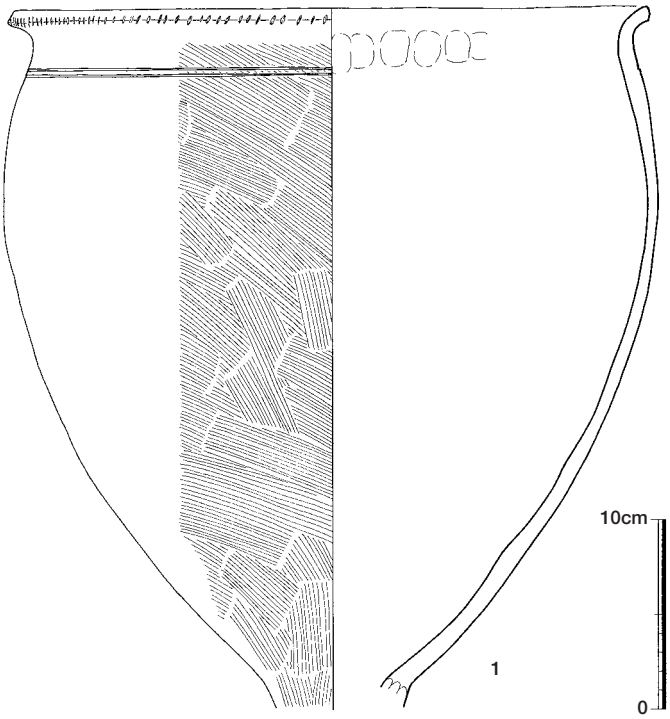


Fig.10　SK-4005出土遺物実測図（１ / ４）

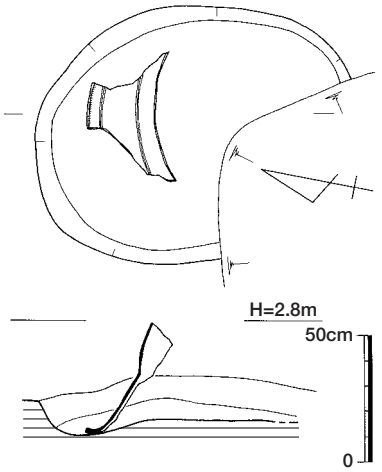


Fig.11　ST-4018遺構実測図（１ /30）

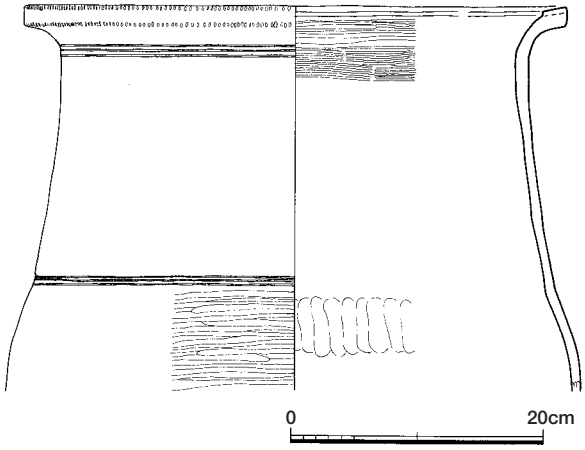


Fig.12　ST-4018出土甕棺実測図（１ / ６）

縁直下に２状の沈線を回す。胴部は横に張り、器高に対し胴最大径が大きくなる。外面は左上がりのハケ目、内面はナデで、底部付近には整形時の指圧痕が残る。本来小児棺の可能性もある。また、遺構上面から五銖銭が２枚重なった状態で出土している。（図版15参照）出土した弥生前期土器とは時代が全く合わないことから、五銖銭が単独で流れ込んだか、土器ともども流れてきたものとみられる。これ以外の遺物は検出されていない。

ST－4018（Fig. 11）楕円形の土坑内に甕棺の大破片が倒置した状態で検出されており、埋置状況に不可解な点もあるが甕棺墓としておく。古墳時代の竪穴住居 SC-4011 に切られているが遺構の全体像は推定可能で、土坑長軸に沿って甕棺破片がやや南に傾斜した状態で倒置している。墓壙内に図示した甕棺の他の破片

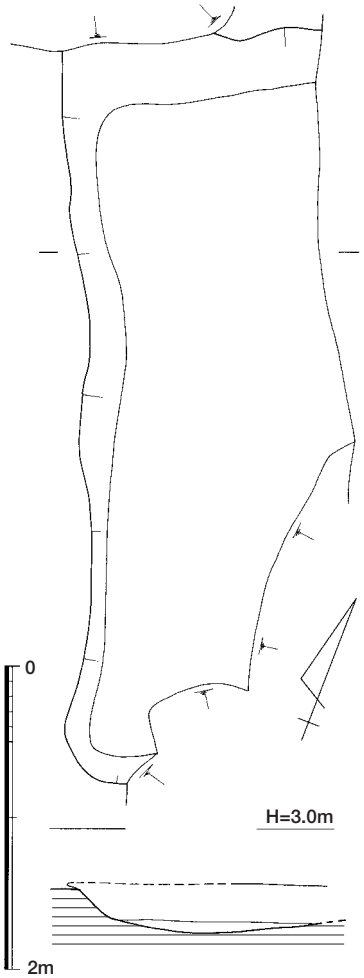


Fig.13　SC-4004遺構実測図(1/50)

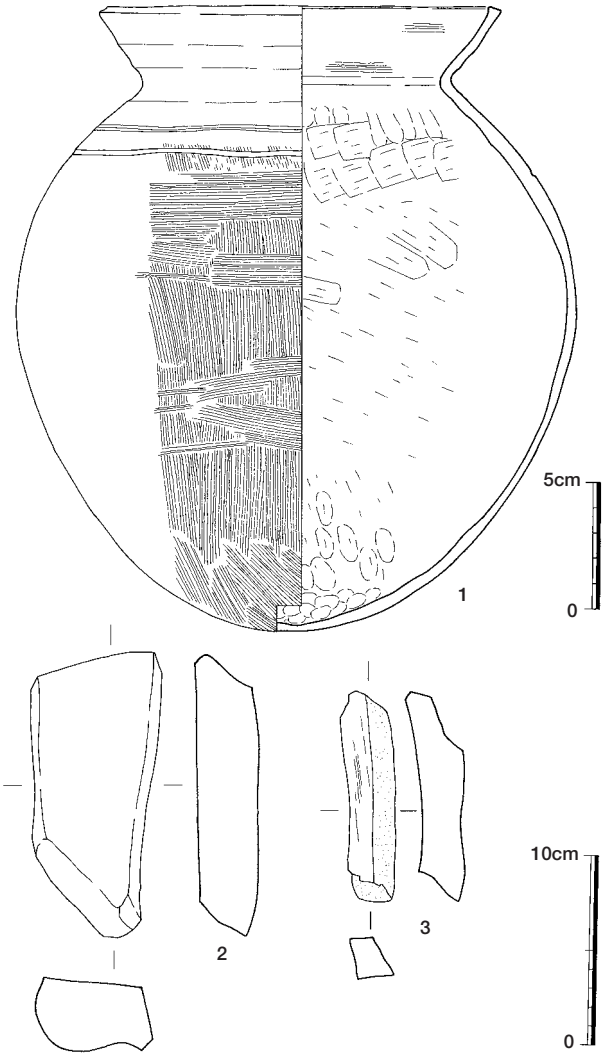


Fig.14　SC-4004出土遺物実測図(1：1/3　2・3：1/4)

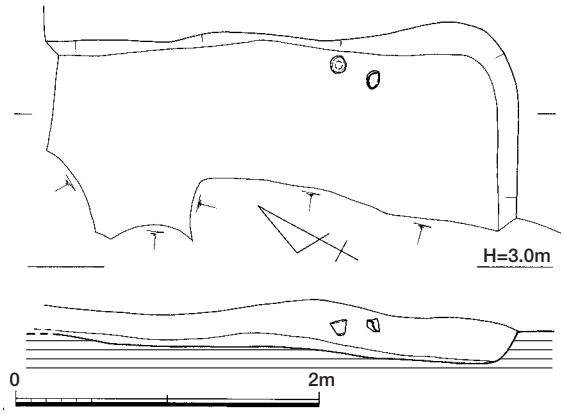


Fig.15　SC-4007遺構実測図（１ /50）

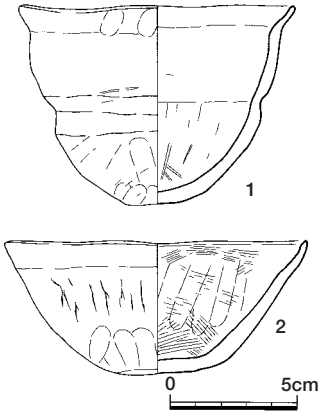


Fig.16　SC-4007 出 土 遺 物
実測図（１ / ３）

や他の遺物はみられず、甕棺破片のみ埋置または投棄・流入したものとみられる。

出土遺物（Fig. 12）

大型棺で、胴部中位以下を欠く。頸部は外反し、口縁上面に粘土帯を貼り付けて肥厚させる。口唇部の上端と下端に刻み目を施す。口縁と頸部の境界に３条の沈線を回し、頸部と胴部の境界にも３条の沈線を施文する。頸部と胴部の境界は沈線の他に明瞭な屈曲があり、両者の区別を明確にしている。内外面はナデ、胴部外面に横ミガキが残る。内外面に鼠の囓り痕が残る。

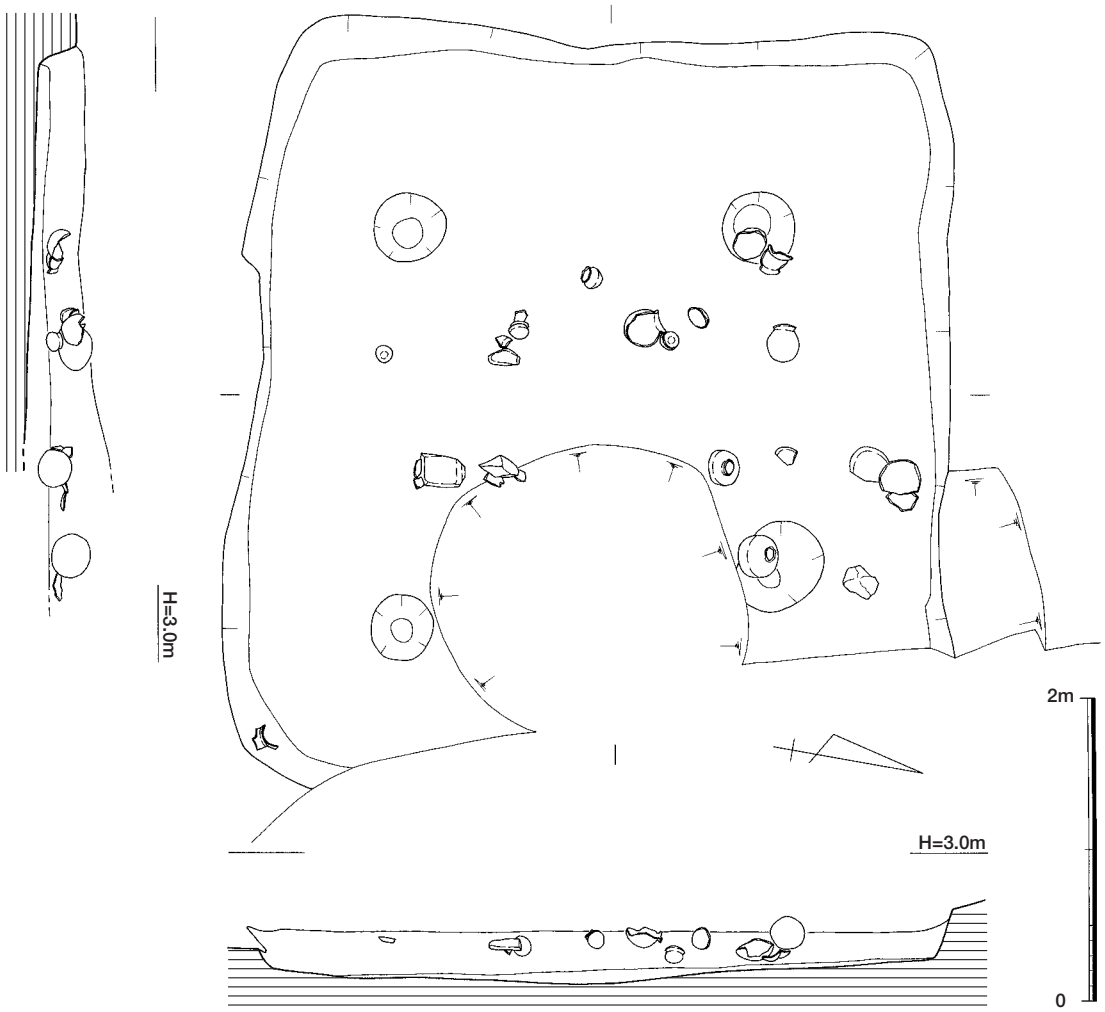


Fig.17　SC-4009遺構実測図（１ /50）

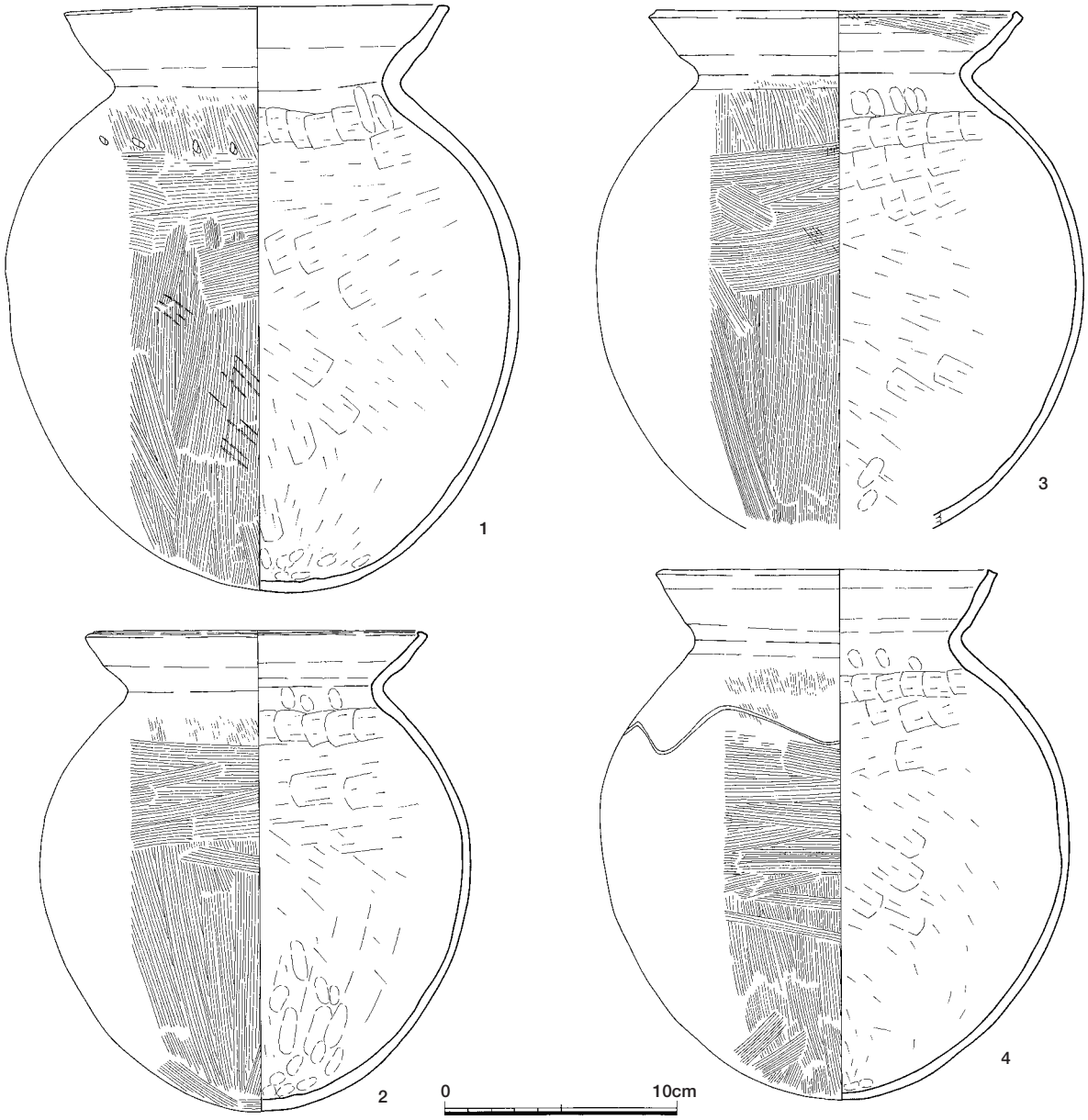


Fig.18　SC-4009出土遺物実測図１（１／３）

２）竪穴住居

SC－4004（Fig. 13）方形の竪穴住居で、東側の一部のみ確認できた。平面形は一辺６ｍの正方形と推定される。主柱穴とみられる柱穴を１基確認し、主柱穴は全部で４本だったと推定できる。屋内に炉や竈などの構築物は見られない。

出土遺物（Fig. 14）１は土師器甕。布留系で、球形の胴部で、口縁は内湾し端部はやや凹む。肩に沈線を回す。外面は縦ハケ後肩部に回転的な横ハケを施す。内面胴部はケズリで底部に指圧痕が残る。２・３は砥石。２面の研磨面が確認できる。石材は泥岩質できめ細かい。３は玄武岩質で、裏表２面の研磨面がある。表面に鉄分とみられる黒色の付着物がある。

SC－4007（Fig. 15）方形の竪穴住居の隅角部分のみ検出する。SC-4004を切り、床面レベルもSC-4004より高い。主柱穴や屋内構築物の有無は検出範囲からは看取できない。

出土遺物（Fig. 16）１・２は床面やや上から出土する。１は鉢で、布留系小型丸底壺の模倣品。胴部に溝状の段がつき、歪んだ器形である。外面は胴部はタタキ、底部付近はケズリ。内面下位はケズ

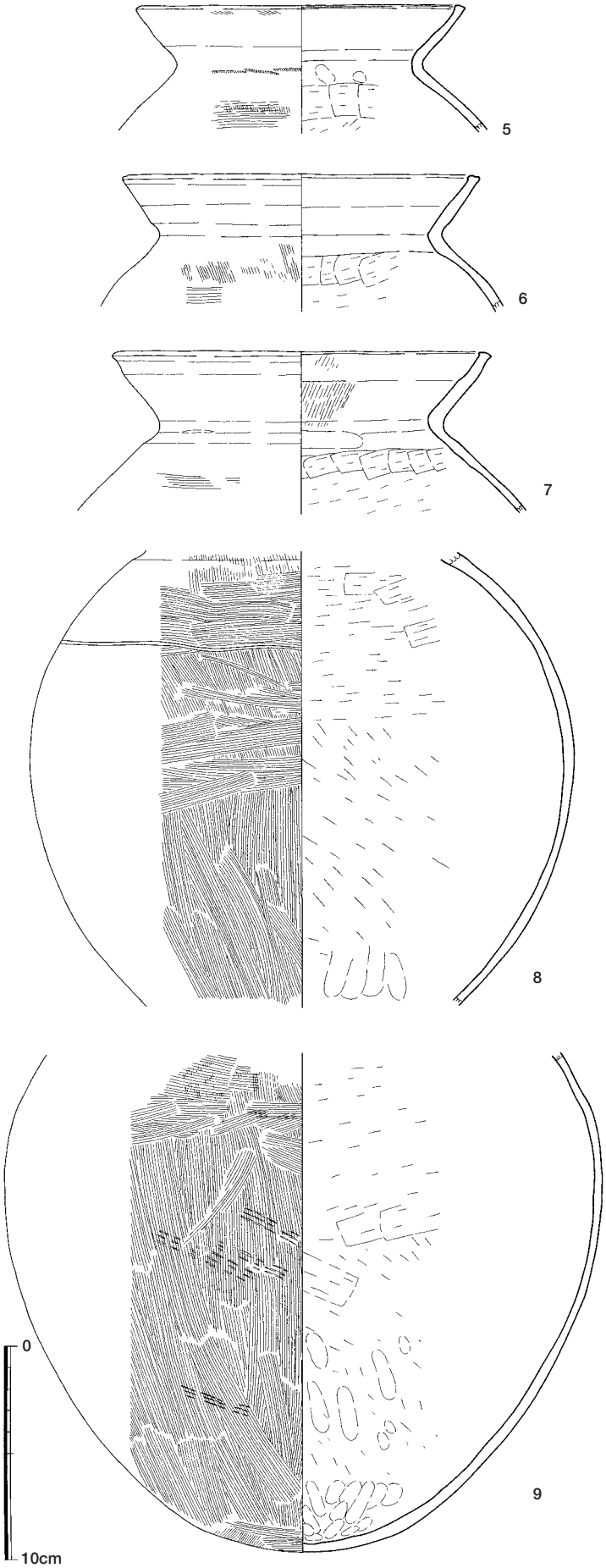


Fig.19　SC-4009出土遺物実測図２（１／３）

リ後ナデ。２はＶ様式系の鉢。内面底部に螺旋状のハケを施す。

SC－4009（Fig. 17）方形の竪穴住居で、住居の全体像はほぼ看取できる。南北方向幅5.6m、東西方向幅6.2mでやや横長の形になる。主柱穴は４本で、柱間は2.7～3.2mを測る。床面は平坦で、北側が若干高くなる。住居内に竈や炉などの構築物は検出されず、粘土などの構築材も出土していないが、覆土内に散漫に焼土粒が含まれている。覆土のうち焼土が多く含まれる砂を水洗したが、覆土中に鍛造剥片や砂鉄など鉄関連の遺物はほとんど含まれない。

出土遺物（Fig. 18～23）床面直上から大量の完形に近い土器や台石・砥石が出土している。１～７は布留系甕。１は球形の胴部で口縁は内湾し、口縁端部は面取りする。肩部に刺突文が５ヶ所ある。胴部外面はタタキ後縦ハケで肩部に断続的な横ハケを施す。２は口縁端部を凹線状に面取りし、粘土の返りが端部内側に突出する。外面胴部上位に回転的な横ハケを施す。３は球形の胴部と内湾気味の口縁をもつ。口縁端部は凹線状の横ナデで端部内側に粘土が返る。肩の部分に焼成後穿孔がみられる。胴部上位に回転的横ハケを施す。４は球形の胴部で口縁は直線的に開き、端部は凹線状の横ナデ。胴部上位に回転的横ハケを施す。

５は口縁端部が凹線状横ナデで内面に粘土が返る。６は口縁が直線的に開き、端部は凹線を入れる。５・６とも胴部外面は縦ハケ後横ハケ。７は口縁は内湾気味で、端

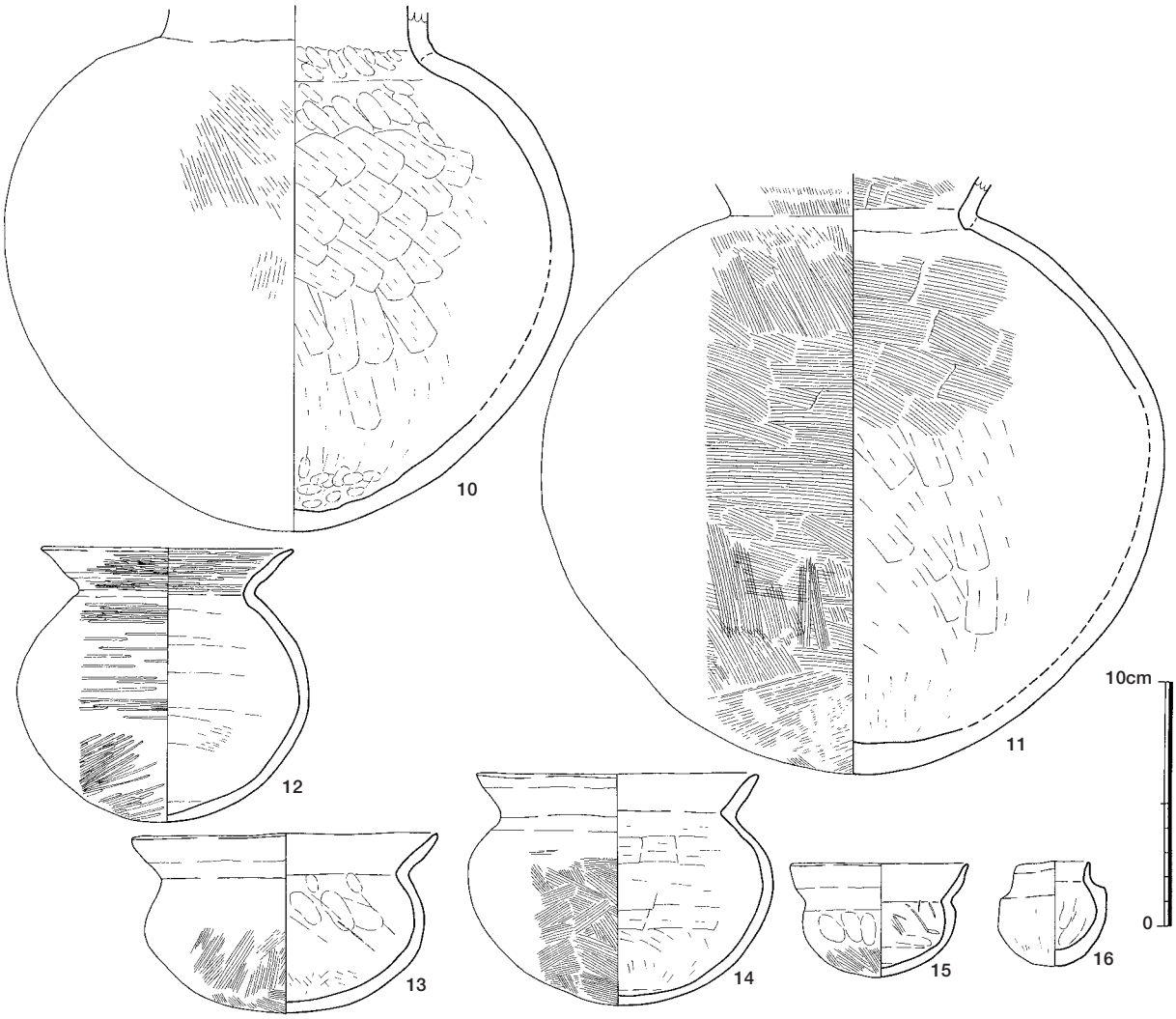


Fig.20　SC-4009出土遺物実測図３（１／３）

部は面取りする。胴部外面は横ハケ後ナデ。８は布留系甕もしくは山陰系壺の胴部。外面は縦ハケの上から胴部上位に回転横ハケ、中位に断続横ハケを施す。９は布留系甕か直口壺もしくは山陰系壺の胴部。外面はタタキ後縦ハケで部分的に断続的な横ハケもみられる。

10・11はＶ様式系二重口縁壺。10は球形の胴部で底部がやや尖る。頸部屈曲部外面に器壁剥落部があり、突帯があったとみられる。11は胴が横に張る。頸部は外側に開く。胴部下位に横長の焼成後穿孔がある。他にSC-4009で出土した二重口縁壺をＰ．27　Fig．44に掲載している。12～15は小型丸底壺。12は精製土器で、胴部は横に張る。底部付近に焼成後穿孔がある。13は扁平な胴部で、口縁端部は丸く仕上げる。胎土は精良でない。14は扁球形の胴部で口縁は短い。頸部内面に明瞭な稜がある。胎土は精良でない。15はミニチュア土器の可能性もある。体部はやや扁平で、頸部は締まらず、口縁は内湾気味に立ち上がる。内面に棒状工具の擦痕がある。16はミニチュアの壺形土器で胴部は不整形、頸部はやや絞って、口縁は直立する。胴部外面はケズリ後ナデ。

17～20は高坏。17は布留系高坏で古墳前期でもやや新しいもの。坏底部と口縁の間に段を作る。柱状部は下部で緩く膨らみ、脚端部はナデて面取りする。18も17とほぼ同形で口縁端部が細く尖る。柱状部と脚部の境界は明瞭で、内外面に稜をつくる。19は坏底部から口縁が緩く開き、端部は外反し細

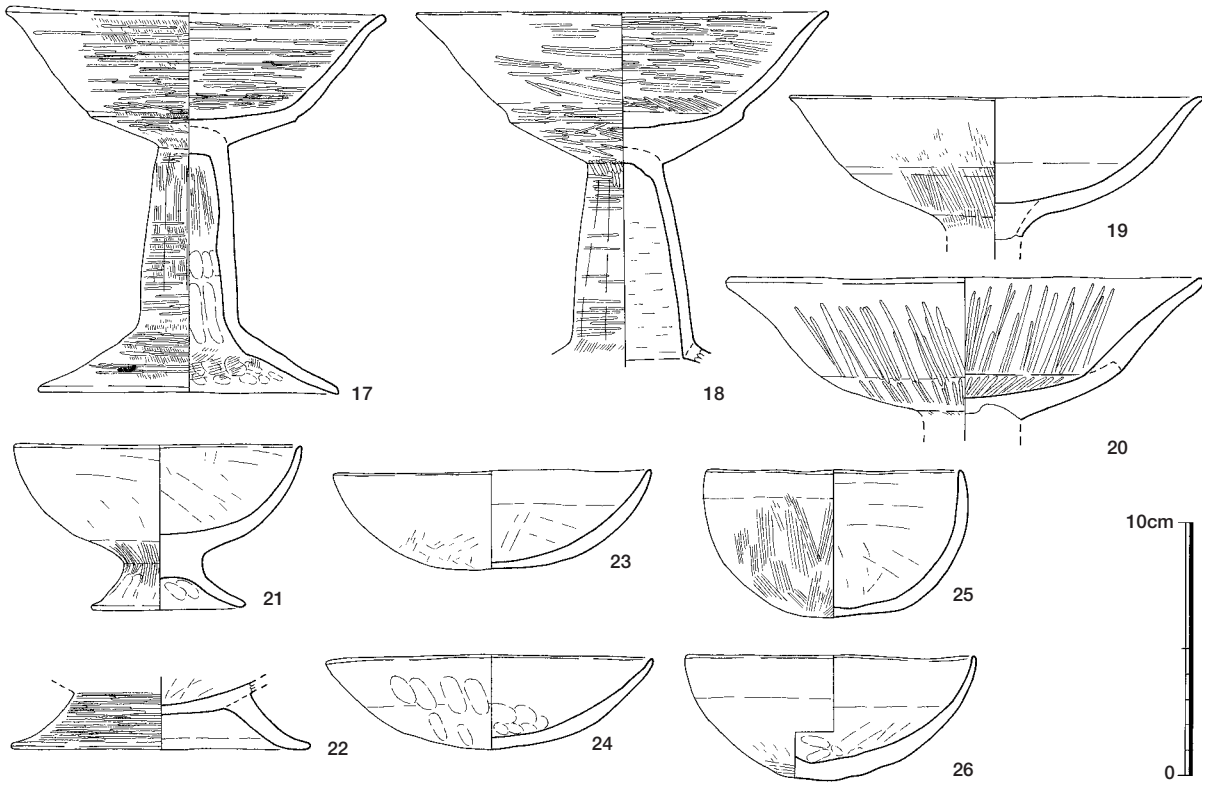


Fig.21　SC-4009出土遺物実測図４（１／３）

く尖る。坏部と柱状部の境界も甘く、稜はない。20は在地系とみられ、口縁は坏底部から外湾し、端部は沈線状に面取りする。21・22は台付鉢。22は精製土器。23～26は鉢。23は底部にケズリを入れる。25はＶ様式系とみられ、体部は丸く、底部は平底気味。内面は板ナデ。26はＶ様式系で、底部は輪台充填。外面はナデで絞り痕が残り、底部は棒状工具でナデる。

27～29は台石。住居床面直上で検出した状況からみて原位置を留めているとみられる。27は重量9.0kg、砂岩製で上下面と側面が研磨面である。上面には鉄分が滴状に付着する。28は重量8.5kg、玄武岩製で上下面が研磨面である。上面中央部に敲打痕がある。29は重量14.5kg、安山岩製であろう。上下面が研磨面で上面に敲打痕が残る。

30～33は砥石。30は玄武岩製の角柱状で４面の研磨面が確認できる。31は平たい形で上下面が研磨面である。32は花崗岩製で台石破片ともみられる。上面が研磨面である。33は玄武岩製の破片で研磨面は１面確認できる。表面には擦痕が残る。

SC－4010（Fig. 24）SC-4009南側で住居状の落ち込み部分を検出し、住居とみて掘り下げたところ、床面と西側壁を確認した。壁が屈曲しているため、２軒以上の住居を重複して検出した可能性もある。床面はほぼ平坦で東にわずかに傾斜する。壁は床面から緩く立ち上がる。住居内から柱穴や構築物は検出しなかった。

出土遺物（Fig. 25）１はタコ壺。紡錘形に近い形で、口縁部は内傾し面取りする。外面はナデ、内面は縦方向ナデ。２は山陰系壺の口縁部。頸部は短く外反し、口縁部は外反気味に開く。口縁と頸部は内外面とも横ナデ。胴部は外面縦ハケ、内面はケズリ。

SC－4011（Fig. 26）方形の竪穴住居で、SC-4009に切られる。南北幅5.3mでSC-4009とほぼ同形同大とみられる。床面は平坦でやや南に傾斜し、壁は床から直立する。住居内で柱穴や竈・炉などは検出

されず、覆土に粘土塊なども含まれない。出土遺物（Fig. 27）1は住居北側床面直上で検出された布留系甕。胴部は倒卵形で器壁が薄く、口縁部は直線的に開く。口縁端部は凹線状に面取りし、端部内側に粘土が返る。外面胴部上位に回転的横ハケを施し、外面にタタキ痕が残る。内面底部に指圧痕が残る。2は砥石。石材は泥岩で表面は滑らか。角柱状で4面の研磨面を確認する。3は敲石。上下面に敲打痕が残る。

SC－4013（Fig. 28）不整形で小型の竪穴住居。東西幅3.6m。コーナー部分は不明瞭で、全体に丸味を帯びた平面形である。床面は北に傾斜する。住居内で柱穴などは検出されず、住居として確定する要素には若干欠ける。

出土遺物（Fig. 29）1は器台。在地系で、口縁は外反し、端部を面取りする。台部は直線的に開き、脚端部を丸める。外面はタタキ後縦ハケ。2は擦石あるいは砥石。研磨面は1面で、裏側は手擦れ痕があり、裏側を手で持って使用したとみられる。端部には敲打痕がある。

SC－4101（Fig. 30）方形で小型の竪穴住居。住居内に6基の柱穴が検出され、主柱穴は外側の4本あるいは内側の3本を含む4本であろう。床面は平面で、北壁中央に外側に張り出す部分があり、竈の痕跡とみられるが、粘土などの部材は見られず、焼土や熱で赤変した箇所もない。

出土遺物　遺物量はごく少量で小片が多い。土師器が主で、須恵器破片も含まれる。

SC－4102（Fig. 31）方形の竪穴住居で、南側は不明瞭で検出できなかった。規模はSC-4009と同程度とみられる。北西隅にテラス状の部分がある。床面はほぼ平坦で、住居内で3基の柱穴を検出したが、

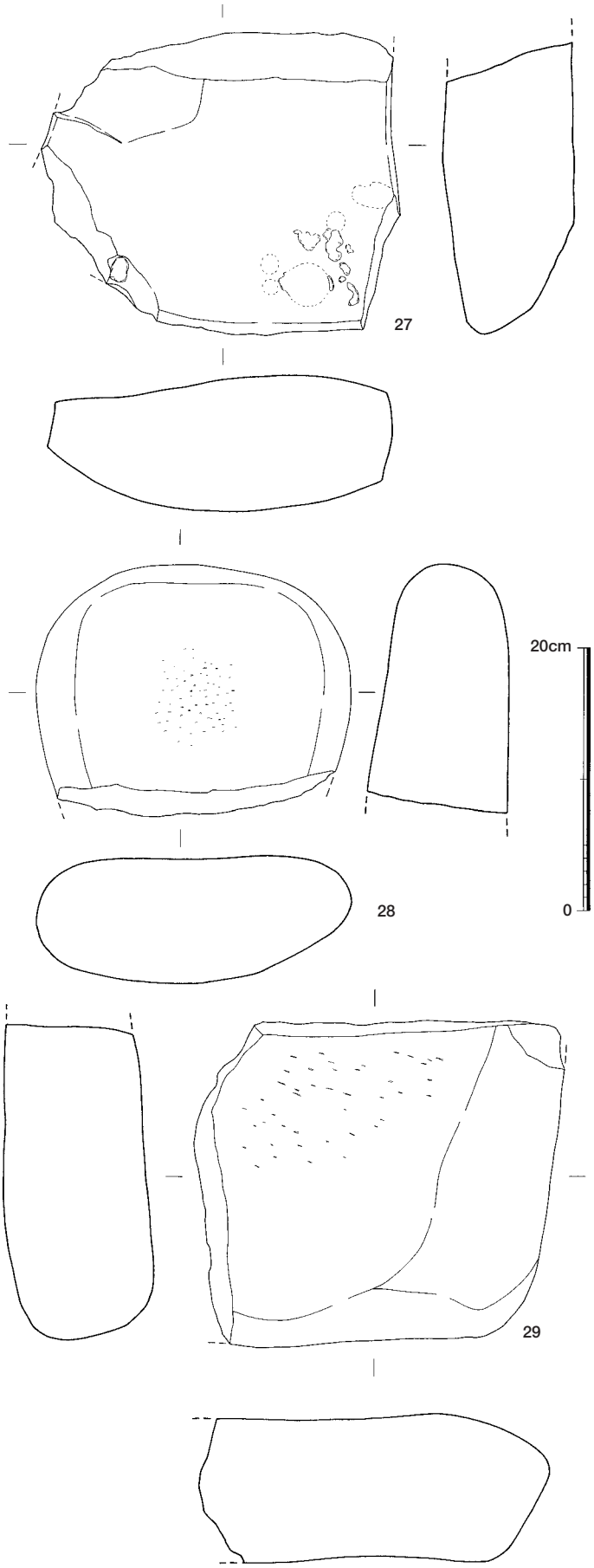


Fig.22　SC-4009出土遺物実測図5（1／5）

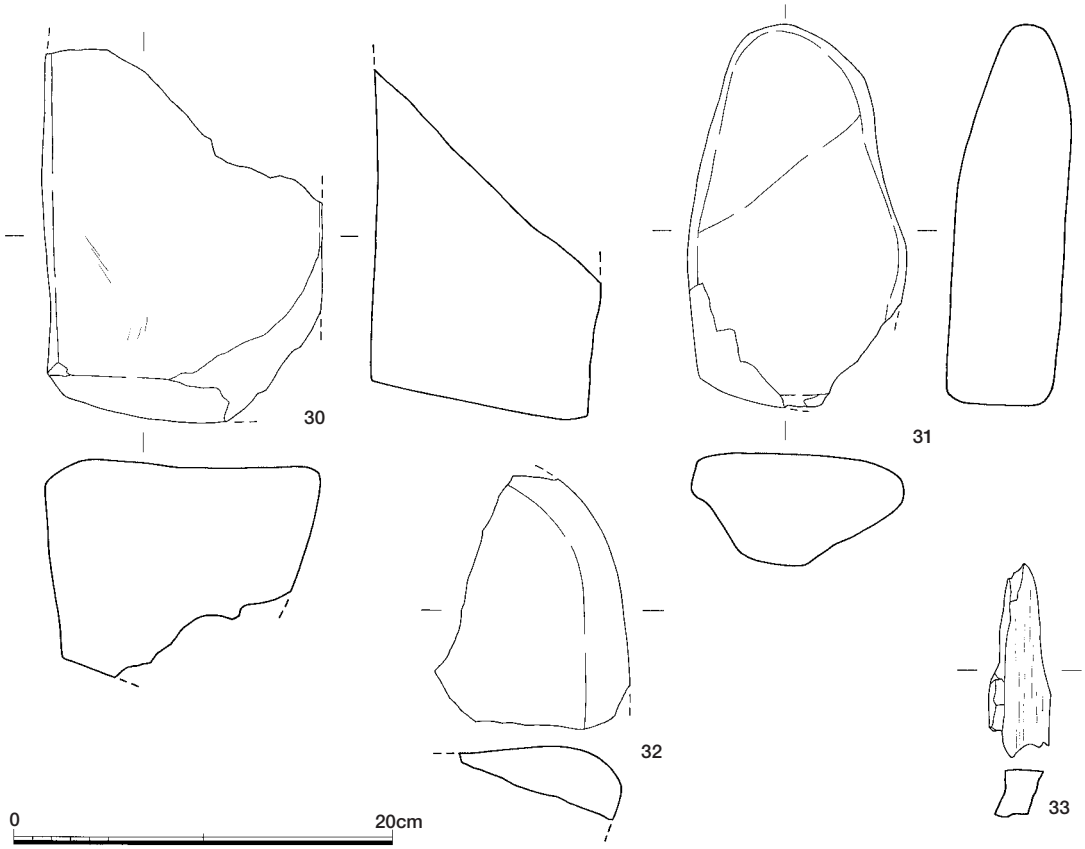


Fig.23　SC-4009出土遺物実測図６（１／４）

位置関係からいずれも主柱穴とできない。竈・炉などの構築物は検出していない。

出土遺物（Fig．32～36）床面直上から大量の土器が出土している。１～７は庄内式系甕。１は他の土器よりもやや古い様相を示す。口縁は外反しながら開き、口縁端部はツマミ上げる。胴部外面は細筋タタキ。２は胴が張り、口縁は端部で内湾気味。口唇部は凹線状横ナデ。外面は口縁部がタタキ後横ナデ、胴部はタタキ後部分的に縦ハケ。３は球形の胴部で口縁は直線的に開き、端部は内側に折り返す。頸部内面に絞り痕が残る。４は口縁が外反気味で、口縁端部は沈線状の擦痕がつき内側に粘土が返る。肩部に

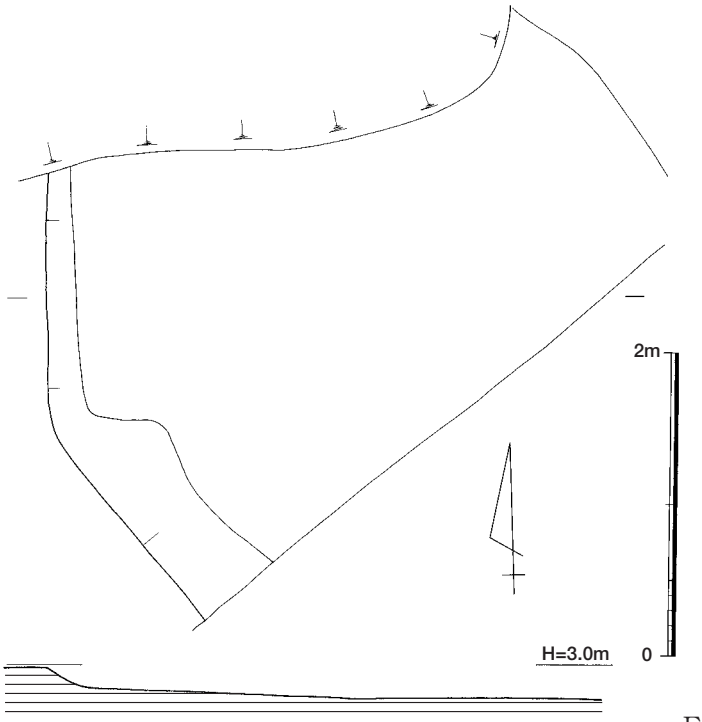


Fig.24　SC-4010遺構実測図（１/50）

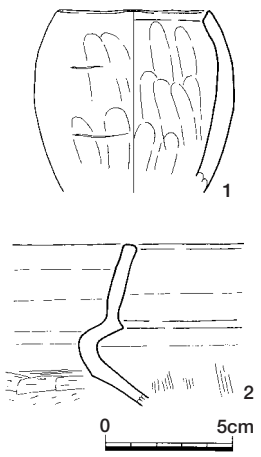


Fig.25　SC-4010出土遺物実測図（１／３）

棒状工具による波状の条痕がつく。胴部内面に棒状工具による削痕が残る。５は球形の胴部で、外面胴部はタタキで下位に部分的に縦ハケを施す。内面は頸部絞り後指オサエ、ケズリ。６はやや胴が張り、頸部が絞られる。内面は縦ケズリ後ナデで頸部に絞り痕が残る。７は胴中位以下の破片。外面はタタキ後縦ハケ。内面はケズリ。８はＶ様式系もしくは在地系の甕底部。胴部は長胴形か倒卵形とみられる。外面は縦ハケ後縦ミガキ、内面はケズリ。

９は小型甕。Ｖ様式系の製作技法による庄内系甕の模倣品とみられる。球胴で口縁は短く外反する。底部付近に焼

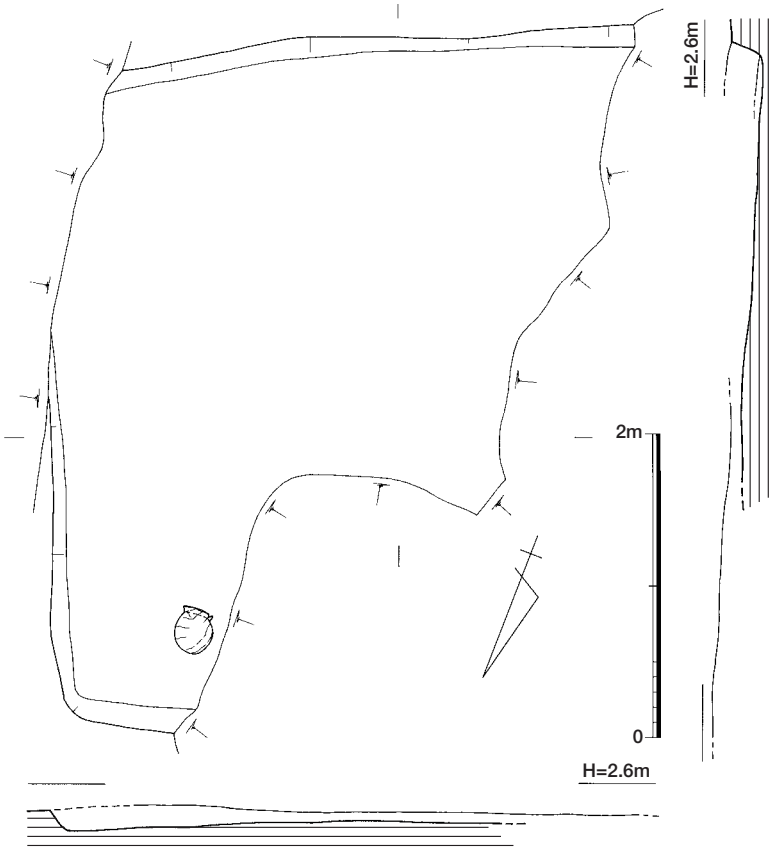


Fig.26　SC-4011遺構実測図（１/50）

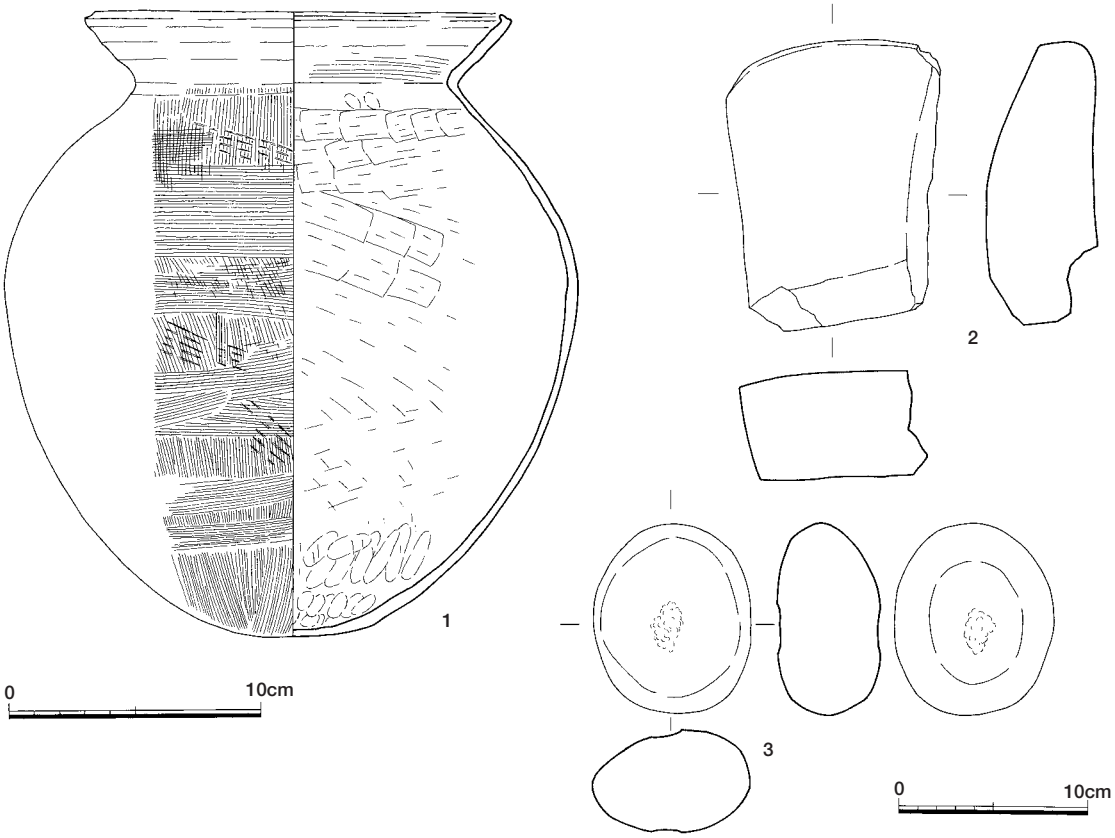


Fig.27　SC-4011出土遺物実測図（１：１/３　２・３：１/４）

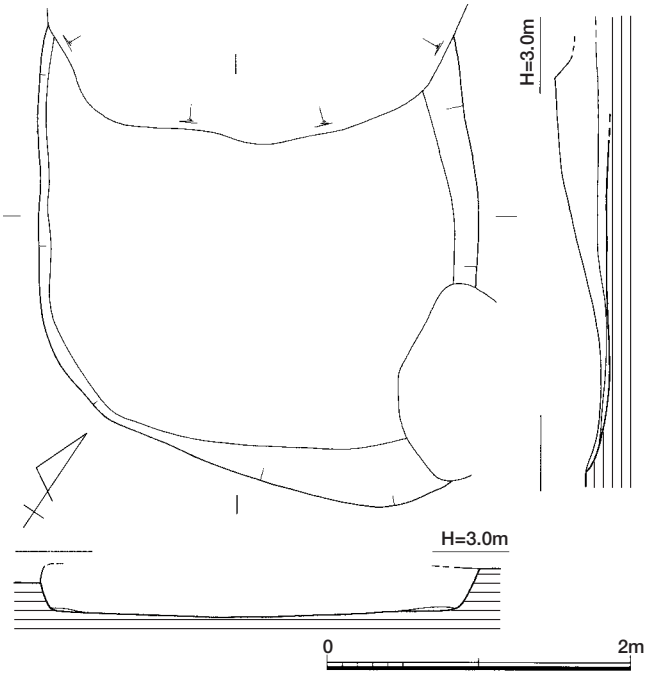


Fig.28　SC-4013遺構実測図（１ /50）

成後穿孔がみられる。10はＶ様式系二重口縁壺。頸部と胴部の屈曲、頸部と一次口縁の屈曲はそれぞれ明確で、二次口縁は外反して端部は面取りする。内面に粘土接合痕が残る。11・12はＶ様式系直口壺で、同一個体とみられる。口縁はやや外反し、端部は丸める。頸部屈曲は明瞭で、胴部は下膨れになる。底部は輪台充填が突出し、先端はわずかに凹む。内面に粘土接合痕がみられる。13はＶ様式系小型二重口縁壺の頸部。頸部と胴部の境界は明瞭に屈曲し、口縁は頸部から緩く開く。外面は口縁部と胴部が縦ハケ後横ミガキ、頸部縦ミガキ。口縁部内面は横ミガキ。14は布留系長頸壺の模倣品とみられる精製土器の頸部。15は布留系直口壺で、口縁は外反し、端部は面取りする。肩部に沈線を回す。内面は頸部に指圧痕が残り、胴部はケズリ。16は布留系長頸壺の模倣品。頸部は直線的に開く。胴部内面に指圧痕と板ナデ痕が残る。17・18は小型丸底壺で、いずれも胎土は精良でなく、頸部が締まらない。17は胴部にハケ後一部ミガキを入れる。18は口縁が内湾し、胴部は扁平。内外面胴部下半にミガキを入れる。

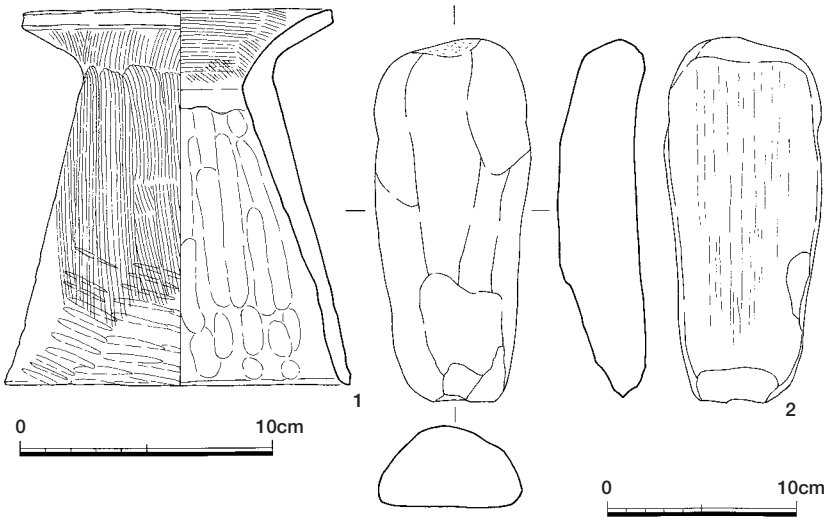


Fig.29　SC-4013出土遺物実測図（１：１／３　２：１／４）

19・20は山陰系の大型甕の破片で、同一個体の可能性がある。19は頸部が短く外反し、二次口縁は直線的に開いて端部は面取りする。肩部に線刻のような櫛描き痕がみられる。20は19とほぼ同形でなで肩。21は壺頸部～胴部破片。頸部は短く外反し、口縁部は稜を付けて立ち上がる。胴部はやや丸味をもつ。外面はケズリ後縦ハケで肩部に回転的横ハケを施す。内面は指オサエ後ケズリ。22～26はＶ様式系鉢。22は口縁端部を丸め、外面はタタキ後ケズリ、内面はケズリ後板ナデ。23は底部が輪台充填。外面はタタキ後ケズリ、ハケ。24は底部が輪台充填で口縁端部は丸める。外面はタタキ後縦ハケ、内面は簾状ハケ。25は平底で、外面はタタキ後横ナデかケズリ。26は平底で輪台充填、口縁端部は丸める。内面は螺旋状ハケ。27は鉢でＶ様式系か在地系。体部は丸く、底部は平底。内面下半は板ナデとみられる。28は有段口縁鉢。口縁は二重に屈曲して開き、内外面に明瞭な稜をもつ。外面はハケ目、内面はケズリ後ナデ。

29はＶ様式系台付鉢。鉢部と台部の境界は明瞭で、鉢部は丸い。30～32は高坏。30は布留系高坏で精製。坏底部と口縁部の境界は甘い。脚端部は面取りし、脚部に２ヶ所の透孔がある。外面は縦ハケ後回転的細密横ミガキ、坏部内面に放射状の暗文ミガキを施す。31はＶ様式系とみられる精製品。口縁端部はナデて丸める。脚部には透孔が入る。柱状部は絞り成形。32は布留系椀形高坏。精製土器で、坏部は内湾し、口縁端部は面取りする。

33～36は砥石。33は玄武岩製で上下面や側面に計５面の研磨面を認める。34は砂岩製で上下２面の研磨面がある。35・36は大型の砥石の破片でいずれも玄武岩製で２面の研磨面をもつ。37は敲石。閃緑岩製とみられ、上下面と側面に計４ヶ所の敲打痕がある。

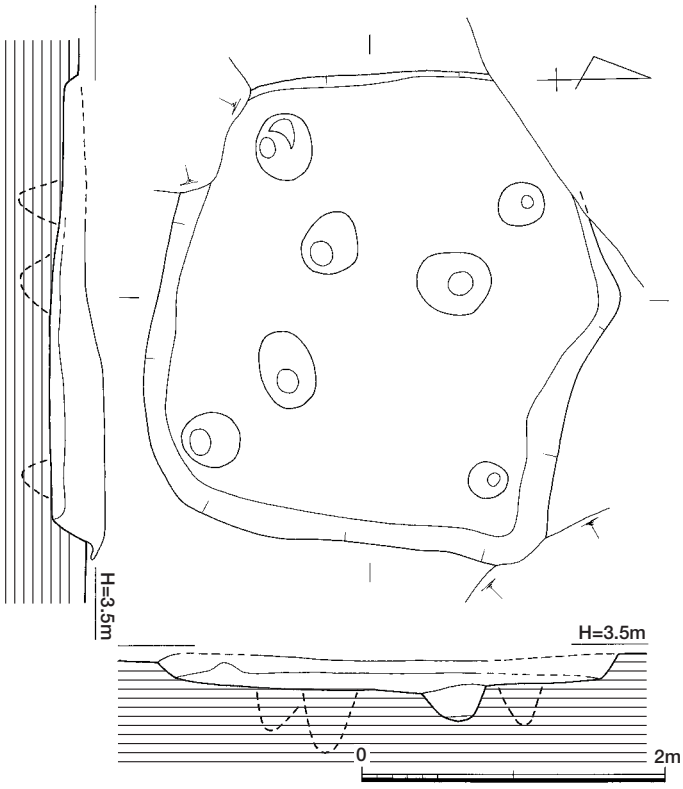


Fig.30　SC-4101遺構実測図（１/50）

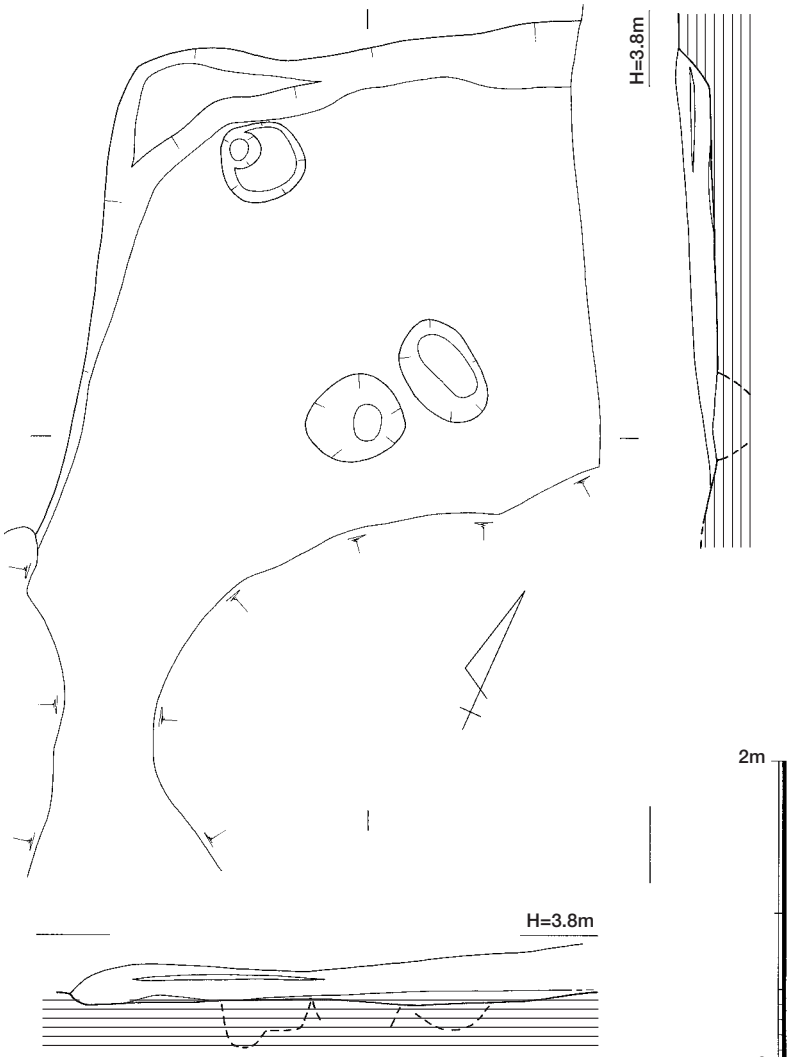


Fig.31　SC-4102遺構実測図（１/50）

SC－4105（SC-4202）（Fig．37）

２区で検出されたSC-4105と３区で検出されたSC-4202が同一遺構になる可能性があるため、単一住居として報告するが、別の遺構の可能性もある。住居全体の規模は不明。住居床面は平坦で、柱穴や構造物は検出されない。

出土遺物（Fig．39）１は小型器台。受け部は浅い坏状で端部は丸め、脚は直線的に開く。外面は受け部が横ナデ後粗いミガキ、脚部はハケ。内面は受け部がナデ後ミガキ、脚部はナデ、斜ハケ。

SC－4204（Fig．38）SC-4202に切られ、検出できた部分がごくわずかで、遺構の詳細は不明。方形の竪穴住居とみられ、床面は平坦で壁は直に立つ。

出土遺物（Fig．39）２は椀形高坏とみられる。脚部は直線的に開

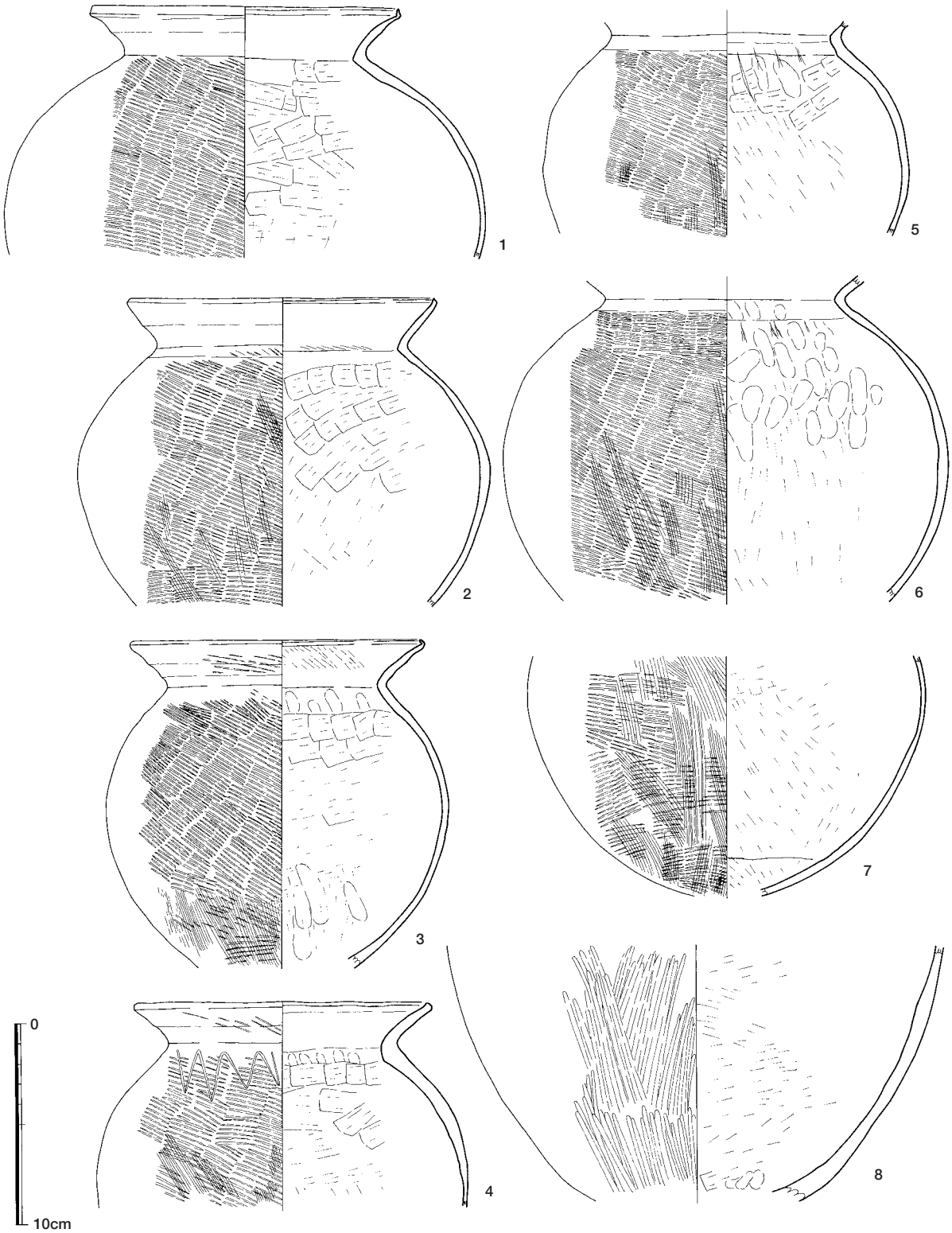


Fig.32　SC-4102出土遺物実測図１（１／３）

き、端部は面取りする。脚部に透孔が３ヶ所ある。脚部内面は簾状ハケ。３は畿内系精製二重口縁壺の口縁部。内面は放射状縦ミガキを施す。

３）その他の遺物（Fig．40～47）

以下、各遺構・包含層から出土した古墳時代の遺物を報告する。１はＶ様式系甕。胴部は球形で、

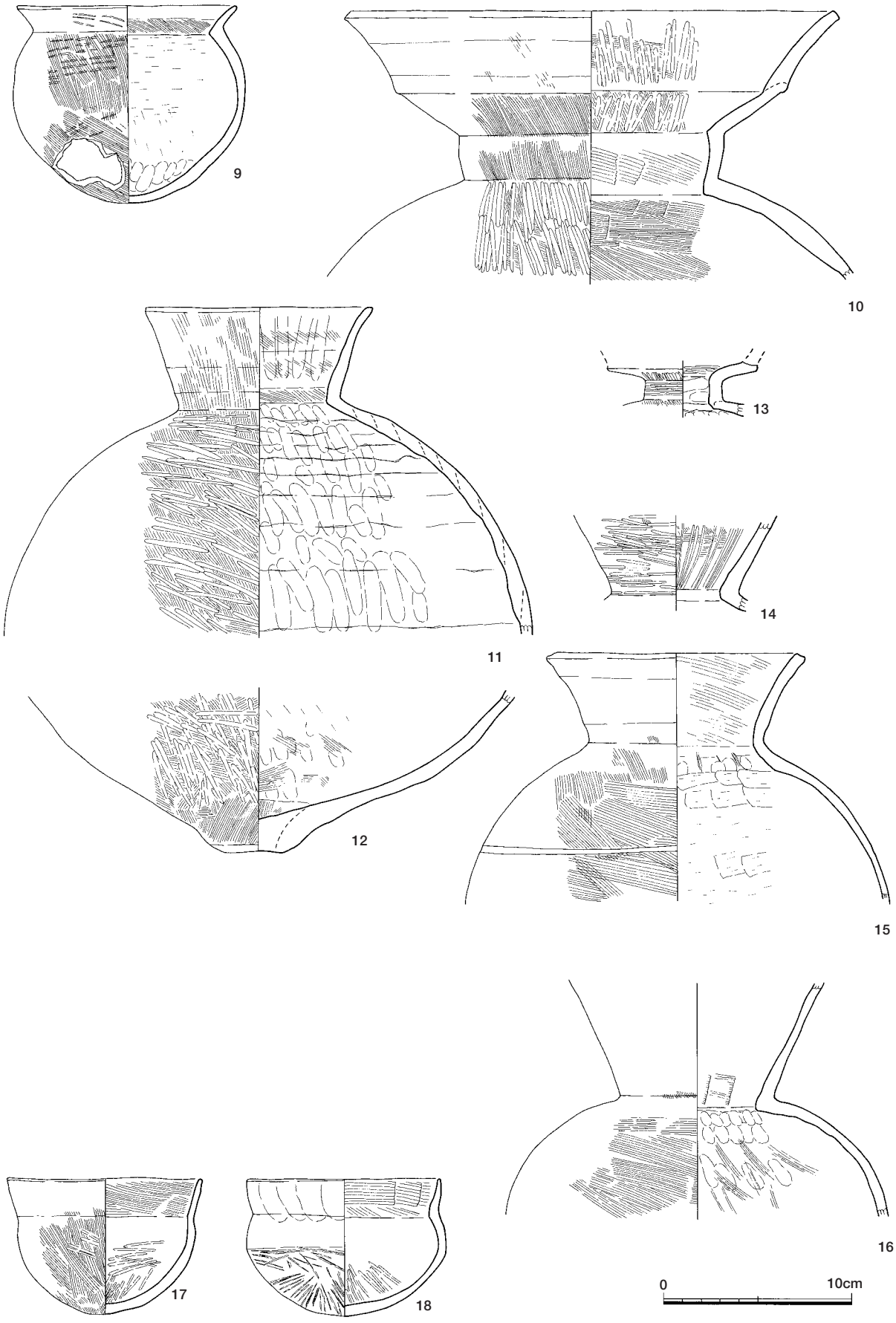


Fig.33　SC-4102出土遺物実測図２（１／３）

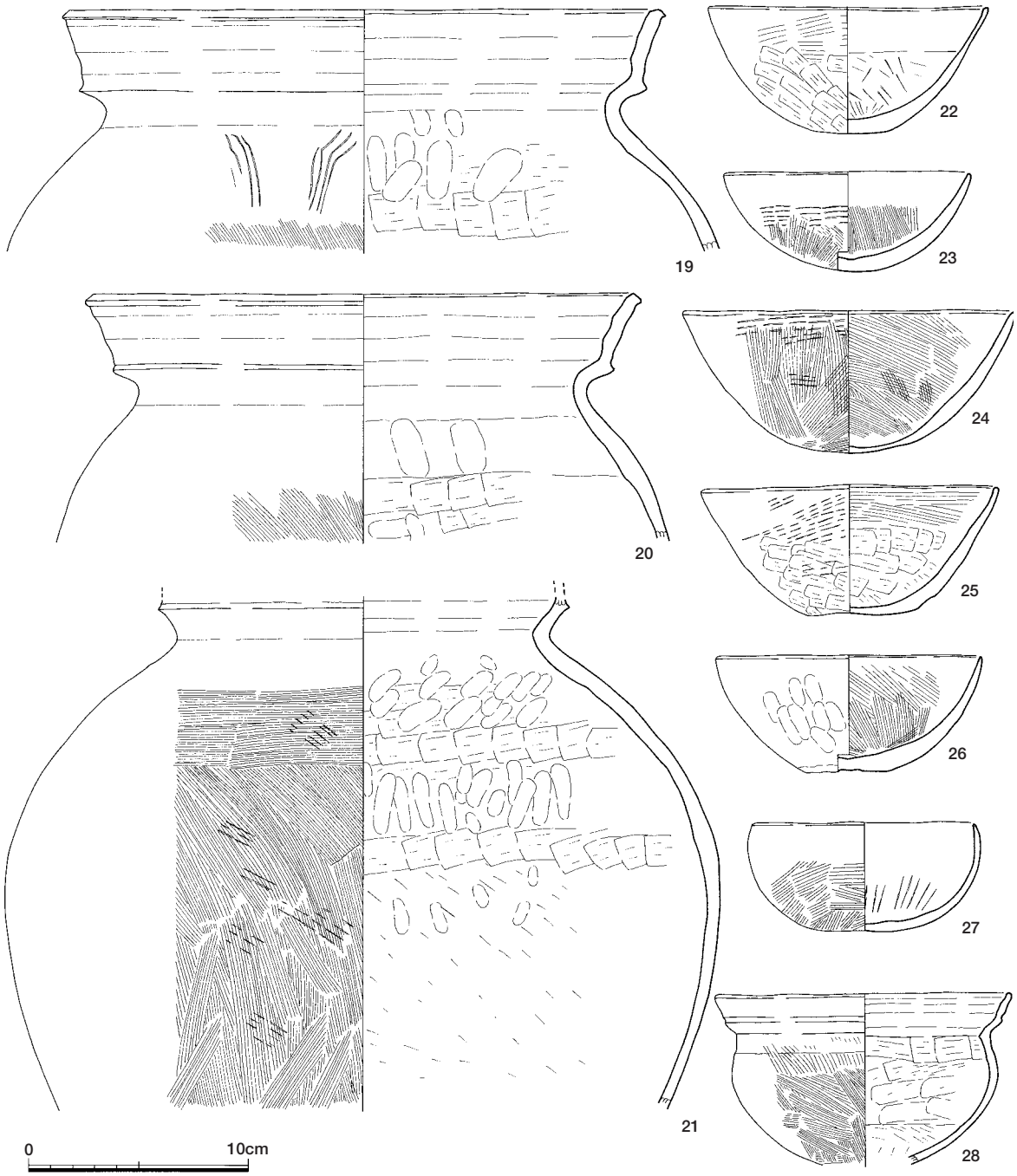


Fig.34　SC-4102出土遺物実測図３（１／３）

口縁は外反し、端部は面取りする。２～13は布留系甕。２は胴部は球形で口縁端部は面取りする。胴部外面は縦ハケ後断続的横ハケ。３は器壁が薄く、なで肩で胴が張る。肩部に波状文を施文する。外面胴部上位に回転的横ハケを施す。４はなで肩で、頸部は緩く屈曲し、口縁端部を水平に面取りする。外面胴部は縦ハケ後横ハケ。内面胴部はケズリ。各要素からやや新しいとみられる。５は口縁が内湾気味に開き端部は丸める。胴部外面はハケでタタキ痕が残る。６は胴部は倒卵形でややなで肩。口縁端部は面取りする。肩部に横方向沈線が回る。外面胴部上位に回転的横ハケを施す。胴部内面はケズリで底部付近は指圧痕が残る。７は球形の胴部で口縁端部は面取りし、口縁外面に沈線状の文様が入る。外面胴部上位に回転横ハケを施す。胴部内面底部には指圧痕が残り、炭化物が付着する。８はな

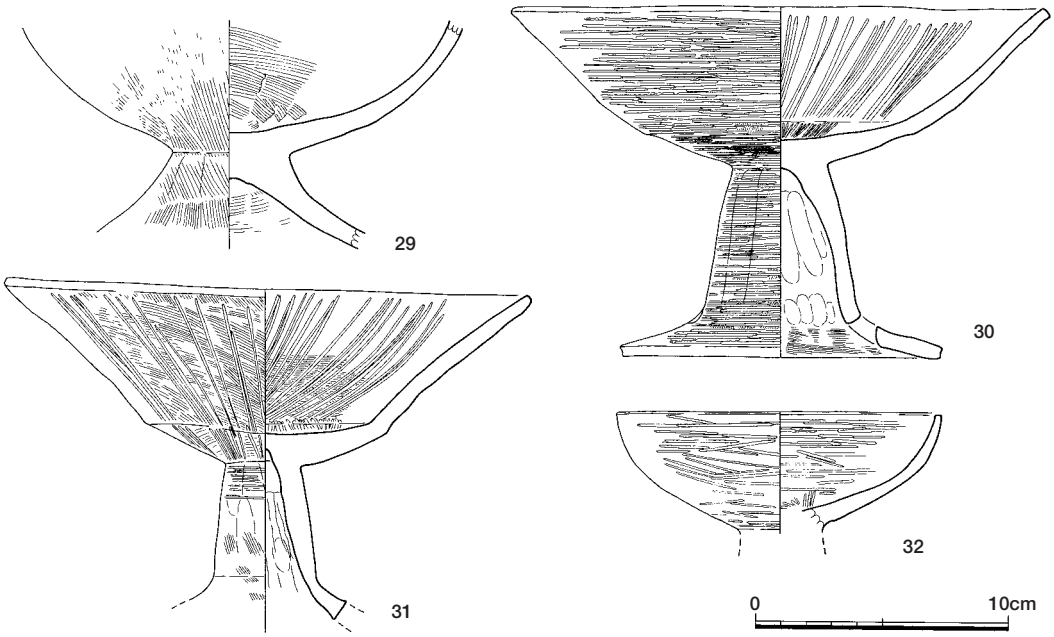


Fig.35　SC-4102出土遺物実測図４（１／３）

で肩で、頸部は緩く屈曲し、外面肩部に沈線が回る。９は口縁が直線的に開き、端部は面取りする。外面胴部は縦ハケ後回転的横ハケ。10は頸部が緩く屈曲し、口縁端部は面取りする。胴部外面は縦ハケ後回転的横ハケ。

11は胴部は球形で口縁は直線的に開き、端部は沈線状に面取りする。肩部に沈線を波状にまわす。外面頸部にタタキ痕跡が残る。12は口縁部は内湾して端部は面取りする。外面肩部に沈線を回す。内面頸部は横ハケ、胴部はケズリ。13は外面全体に煤が付着する。胴部は倒卵形でやや長胴気味。頸部は明瞭に屈曲し、かなり締まる。外面胴部上位は縦ハケ後回転的横ハケを施し、肩部に板状工具による押圧列点を施文する。14は甕で系統不明。胴部はなで肩で頸部は緩く屈曲し、口縁は直線的に開き端部はナデて丸めるなど、全体にだれた形を呈する。

15～20は直口壺。15は畿内系で、胴部は倒卵形を呈し、口縁は軽く外反する。口縁端部は凹線状に面取りし、内外面に粘土が張り出す。外面胴部上位は縦ハケ後回転的横ハケを施す。16は畿内系で、口縁は直線的

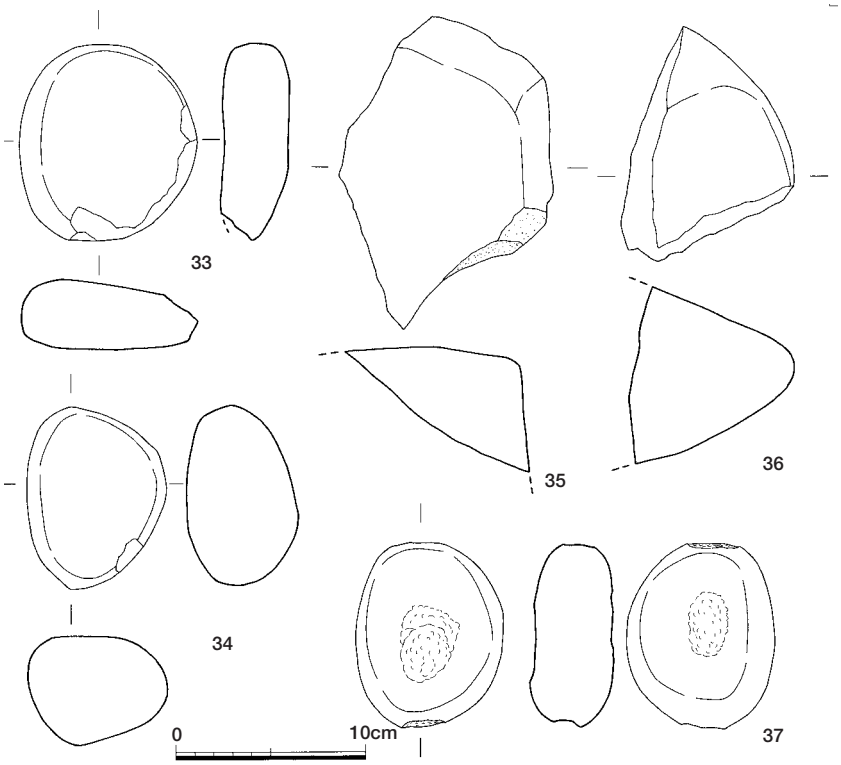


Fig.36　SC-4102出土遺物実測図５（１／４）

に開き、端部は面取りして外面に粘土が張り出す。外面胴部上半に縦ハケ後回転的横ハケを施す。17は在地系で、胴部は球胴で頸部は締まり、口縁部は直線的に開いて端部は面取りする。内面胴部はケズリで底部に指圧痕が残る。18は布留系で、口縁は外反気味に立ち上がり、端部は面取りして沈線状の条痕が残る。19は布留系で、口縁は外反して端部は凹み状に面取りする。20は畿内系で、頸部が締まり、口縁は外反する。口縁端部は面取りする。

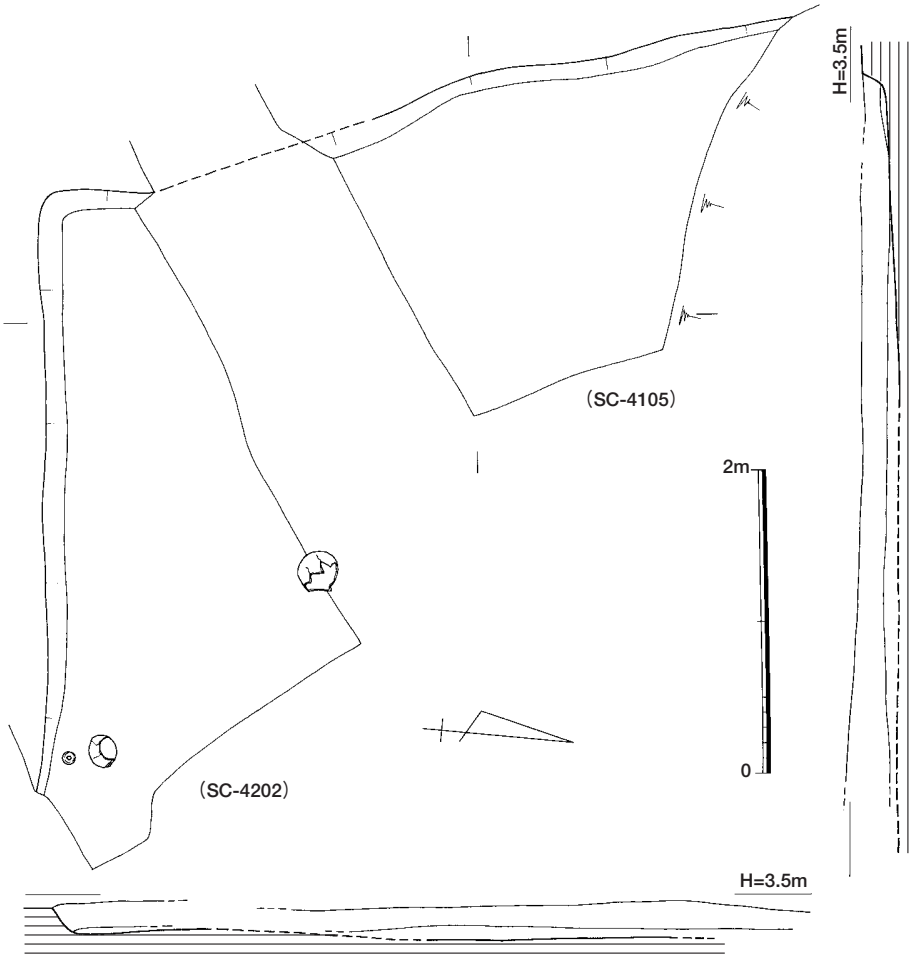


Fig.37　SC-4105遺構実測図（1 /50）

21は壺胴部で、畿内系もしくは山陰系とみられる。胴部は倒卵形でやや胴が張る。外面胴部上半に縦ハケ後回転的横ハケを施す。22は山陰系二重口縁壺で、頸部は緩く屈曲し、口縁は外反気味で口縁端部は面取りし、口縁外側に粘土が張り出す。胴部外面は縦ハケ後回転的横ハケ。

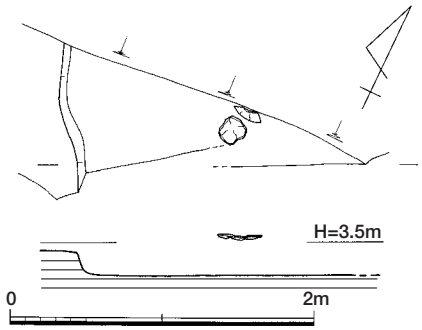


Fig.38　SC-4204遺構実測図（1 /50）

23はSC-4009出土のⅤ様式系二重口縁壺。上下2破片に分離し、図上で復元する。胴部は肩が張る倒卵形で、底部は輪台充填後タタキで丸底にする。頸部は直立し、口縁は外反して端部は太めに丸める。胴部外面はタタキ後ハケ。胴部内面はケズリ。24はⅤ様式系とみられる壺で一部布留系の技法もみられる。胴部は球形で、口縁は外反気味に開き端部は面取りする。内面頸部に指圧痕が残り、胴部上半は縦ハケ、下部はケズリ。

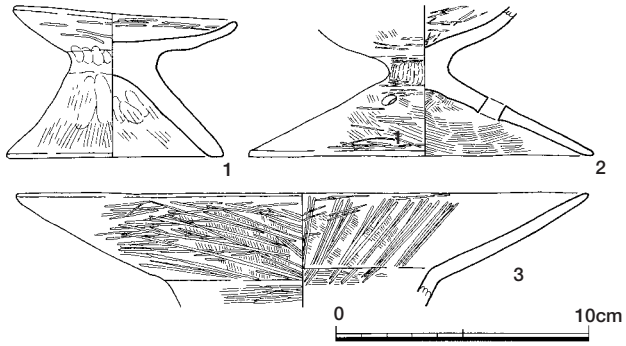


Fig.39　SC-4105・4204・出土遺物実測図（1 / 3）

25～29は高坏。25は布留系精製高坏で、坏底部と口縁部の境界は明瞭に屈曲せず、口縁部は内湾気味に開く。口縁端部は面取りし沈

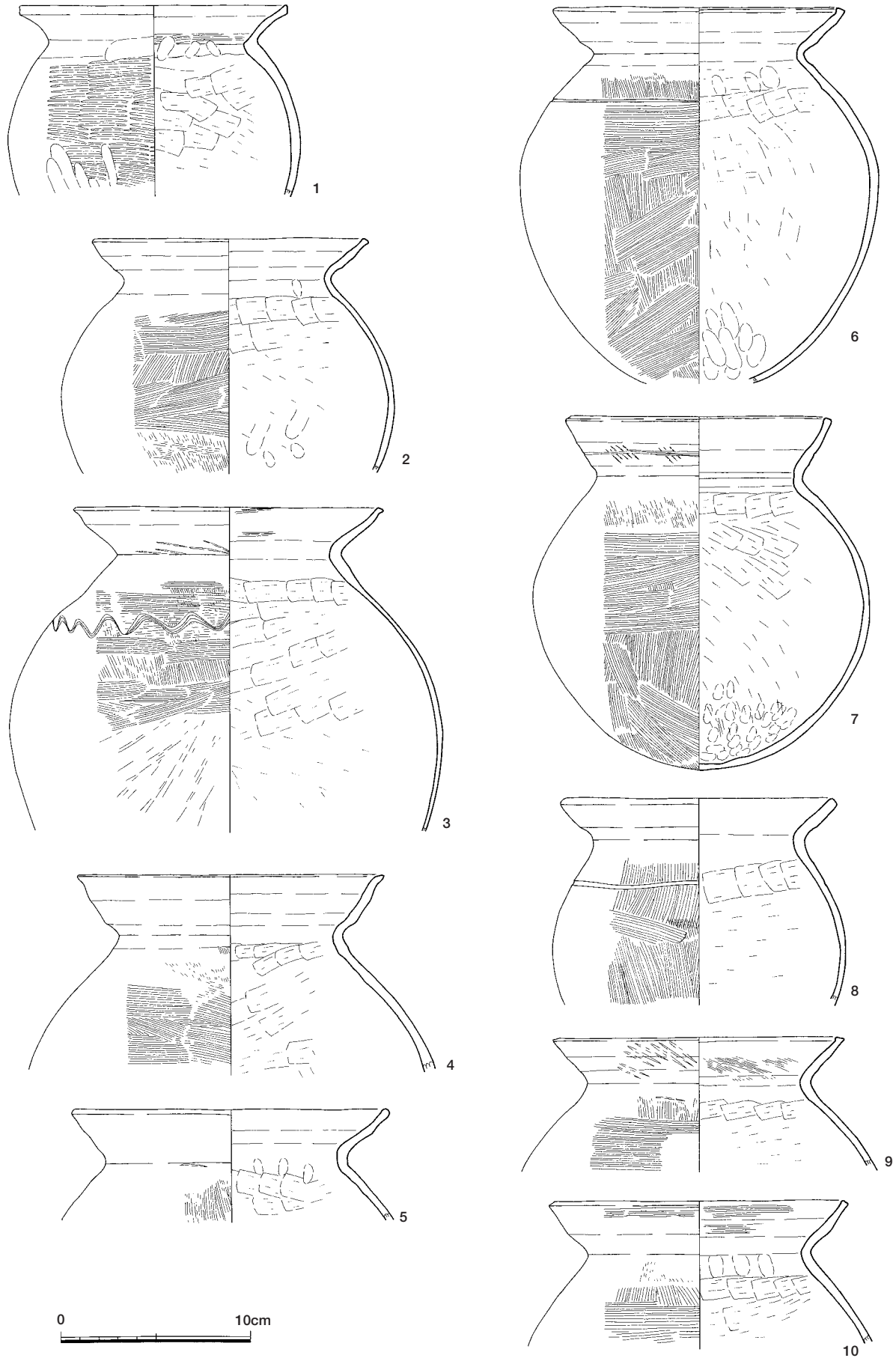


Fig.40　古墳時代遺物実測図１（１／３）

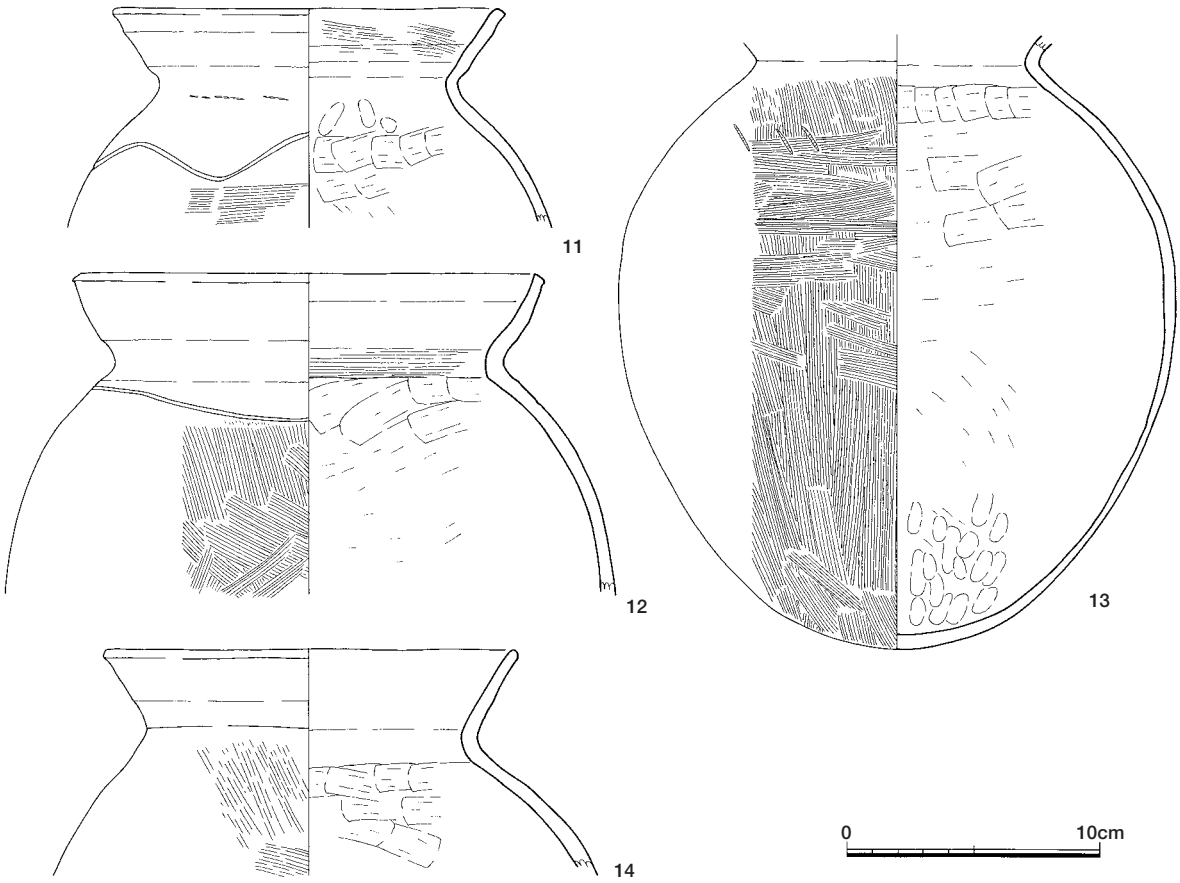


Fig.41　古墳時代遺物実測図２（１／３）

線状の擦痕が残る。外面は坏上部が縦ハケ後回転的細密横ミガキ、坏底部はケズリ後放射状ミガキ。内面は横ハケ後放射状ミガキ。26は口縁部と坏底部の間に緩い段をもつ。口縁は外反し、端部はナデて丸める。27はＶ様式系で、柱状部は円錐形に広がり、脚部は直線的に開いて脚端部は丸める。28はＶ様式系で、柱状部は下部で膨らみ、脚部は内湾して広がって端部は丸める。脚部に透孔が４ヶ所つく。29は布留系精製高坏で、新しい時期のもので脚部が高いものとみられる。坏底部と胴部の間に明瞭な段を持ち、口縁部は内湾気味に開き、端部は丸める。内外面ともハケ後細密横ミガキ。30は布留系の精製小型器台。受け部は口縁が短く外反しながら立ち上がる。外面は細密横ミガキ、内面は放射状ミガキ。31は山陰系の低脚坏で、布留系の精製技法で製作される。脚部は短く開き、端部は沈線状の凹みを作る。32は布留系の精製器台で、古墳前期でも新しい時期にあたる。受け部はやや内湾し、端部は沈線状に面取りする。脚部は直線的に開き、端部は丸める。外面と受け部内面には細かいハケ後細密横ミガキを施す。33は布留系の精製小型丸底壺で、比較的大型の部類。胴部は球形で、口縁部は直線的に開く。外面は口縁部と胴部上半が細かいハケ後細密横ミガキ、胴部下半がケズリ後細密横～斜方向ミガキ。内面が口縁部が横ハケ後回転的細密横ミガキ、胴部上半はハケ、下半はナデ。34は在地系とみられ、球形の胴部に内湾する口縁がつき、器壁が厚い。口縁端部はナデて整えるが面取りしない。外面胴部上半は縦ハケ後粗いミガキ、下半がケズリ後ナデ。35は小型丸底壺で、在地土器製作者による模倣品とみられる。胴部は球形で、口縁は直立して立ち上がり、端部は丸める。器壁は厚い。36は布留系精製小型丸底壺で搬入品の可能性がある。胴部は扁平で、口縁は直線的に開く。胎土は茶褐色で精良。37はＶ様式系のミニチュア二重口縁壺。胴下部に穿孔がある。内外面ともナデ仕上

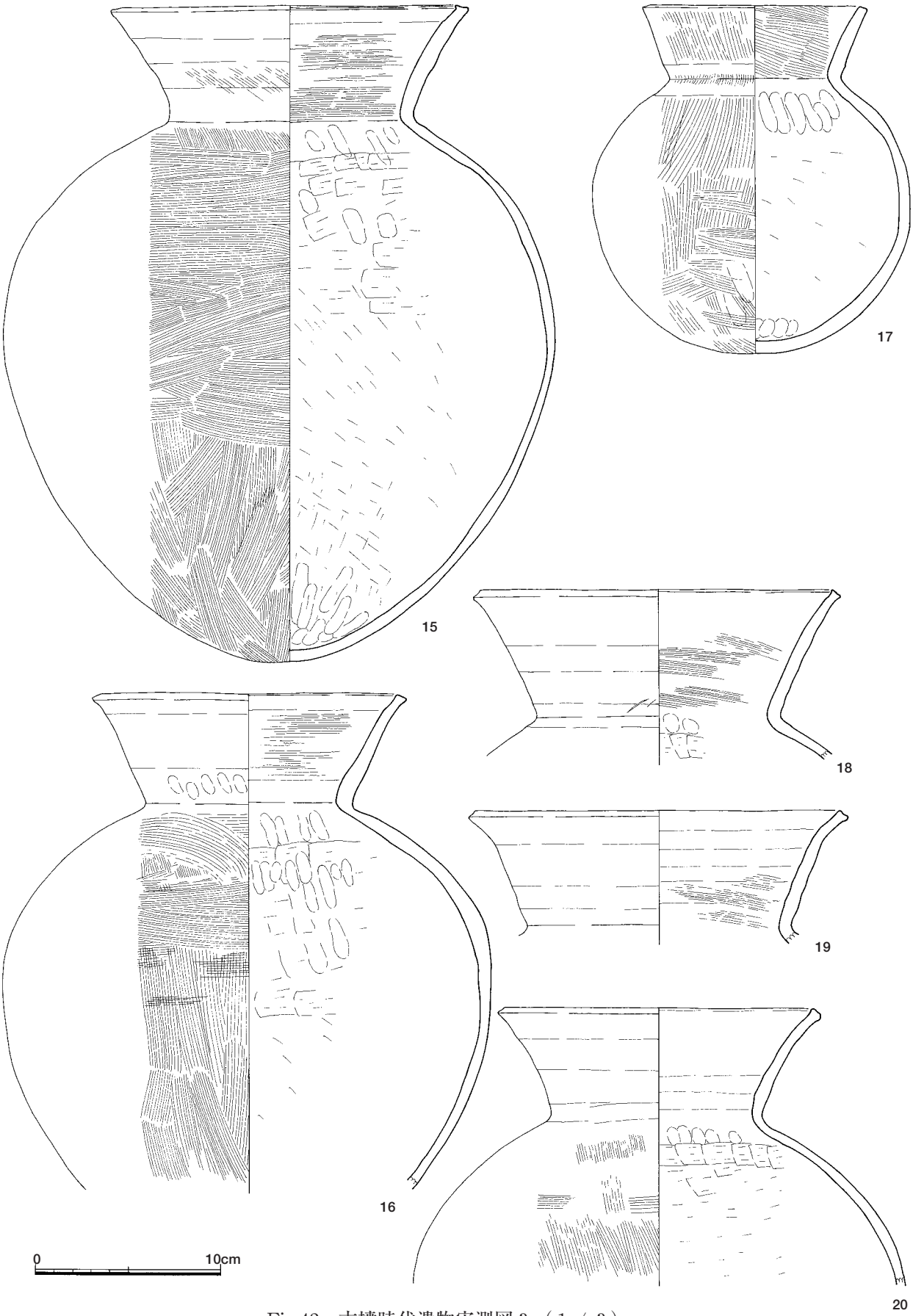


Fig.42　古墳時代遺物実測図３（１／３）

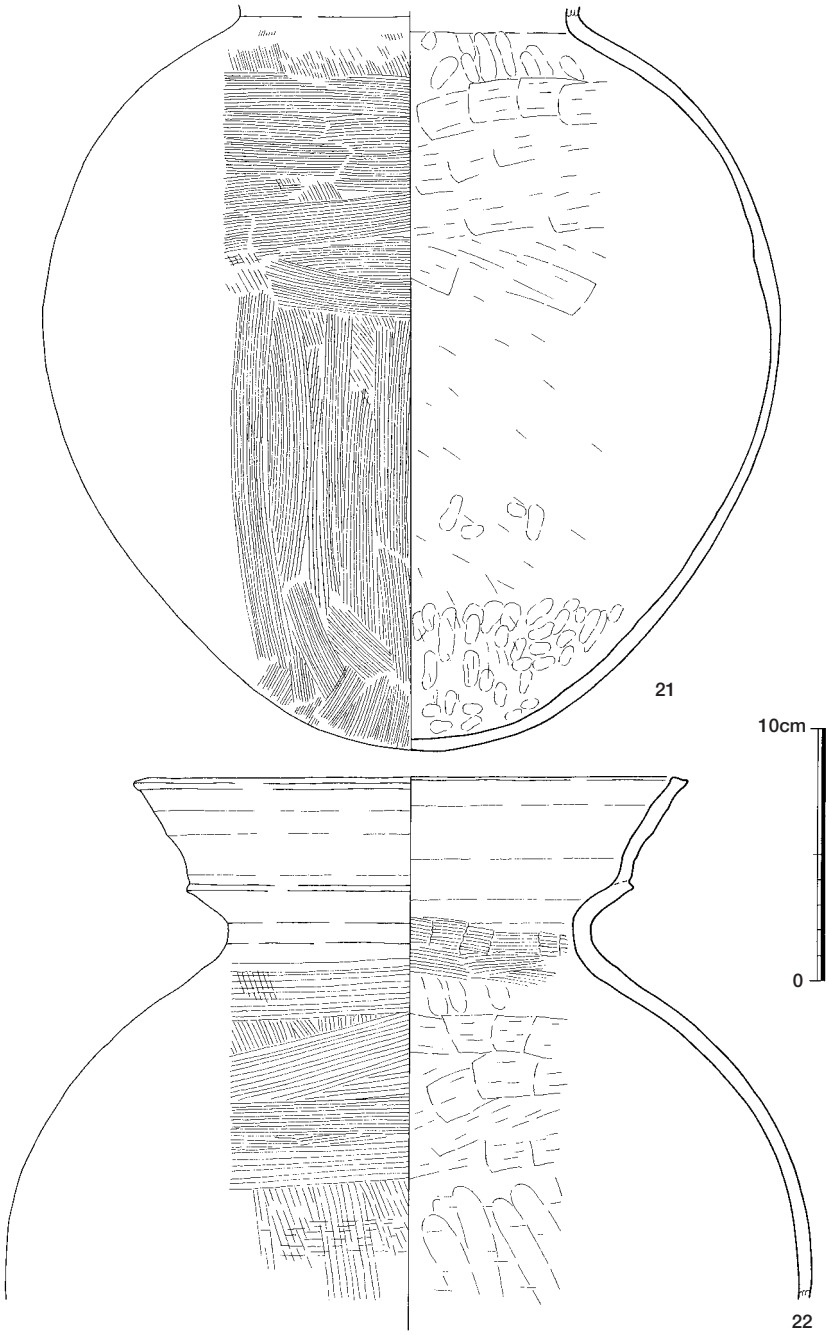


Fig.43　古墳時代遺物実測図４（１／３）

げ。38～43は鉢。38は布留系の精製鉢。扁平で外面は細密ミガキ、内面は細かいハケ後横ナデ。39はＶ様式系とみられる鉢で口縁が軽く外反する。40はＶ様式系の鉢で底部は輪台充填でタタキで丸底にする。外面はタタキ後ナデ。41は布留系有段口縁鉢で、全体に扁平で口縁は外反する。外面体部はケズリ後細密横ミガキで、段直下に工具痕がつく。内面は細密横ミガキ。42は在地系鉢。下部に刻目突帯を貼付し、体部は内湾し、口縁端部は面取りする。内外面ともハケ後ミガキ。43は管状の土製品。用途不明。全面ナデ仕上げ。44は用途不明土製品。扁平な棒状で端部に穿孔がみられる。全面ナデ仕上げ。45は土製柄杓で、杓部分は口縁がやや締まる球形を呈する。全面ナデ、指オサエ成形。46は小型の鉢形で胴部は球形で、口縁は直口する。側面に穿孔が２ヶ所と、粘土接合痕が残る。穿孔や粘土接合痕の位置からみて、那珂遺跡群第64次調査で出土している脚付き三連壺の一部と推定される。(『那珂24』福岡市埋蔵文化財調査報告書第638集　2000：Ｐ.35第33図137参照)

47は擦石で、自然石を利用したものとみられ、下面は平坦で前後方向の擦痕があり、鉄銹状の物質が付着する。上部は取っ手状の形態で、表面に手ずれ状の平滑面があり、図示した置き方で左手で持った場合、手に馴染んでしっくりくる。48～50は砥石。48は四角柱状で４面の研磨面をもつ。砂岩製。49は外面に１面の研磨面と、穿孔状の研磨面を２ヶ所認める。穿孔状の研磨面は針状の工具を製作するものと考えられる。玄武岩製。50も49と同様に穿孔状の研磨面が３ヶ所あり、外面も研磨面３面をもつ。

51は弥生前期壺形土器頸部破片。篦描き沈線２条の下に貝殻原体による無軸羽状文を施文する。52

は弥生時代前期後半、金海式甕棺口縁部破片で１区３面上包含層出土。口縁端部下端に刻み目を施し、口縁上面は外傾する。53～58は半島系陶質土器・軟質土器破片。53は３区４面上包含層出土で、三韓系軟質土器の底部付近破片。胎土は明赤褐色で外面は格子目タタキ。54は軟質土器のコブ状突起の模倣品か。外面は指ナデ成形、内面はナデでケズリ工具痕が残る。55～58は甕形の陶質土器でいずれも１区４面上包含層出土。55は胴部下位破片で、外面は破片上半は縦横揃った格子目、破片下半は不揃いな格子目。56は胴部中位破片で、外面は格子目タタキ、内面は横ナデ。57は胴部下位破片で、外面は破片上半は揃った格子目、破片下半は不揃いな格子目。58は底部破片で、外面は細かい平行タタキ、内面はナデ。59は赤褐色の硬質な胎土で、外面はタタキ後カキ目状のハケ、内面は当て具痕が残る。

(2) 第３面（11世紀後半～12世紀前半）

１）井戸

SE－3003（Fig. 48）上端平面形は隅丸長方形に近い円形とみられる。井戸枠は掘方ほぼ中央とみられ、直径60cm。掘方断面は鉢形で、壁は緩く開く。

出土遺物（Fig. 49）いずれも井戸掘方からの出土。1は白磁碗。口縁が緩く外反し、見込みに段をもつ。外面に線描による縦花弁文を施す。

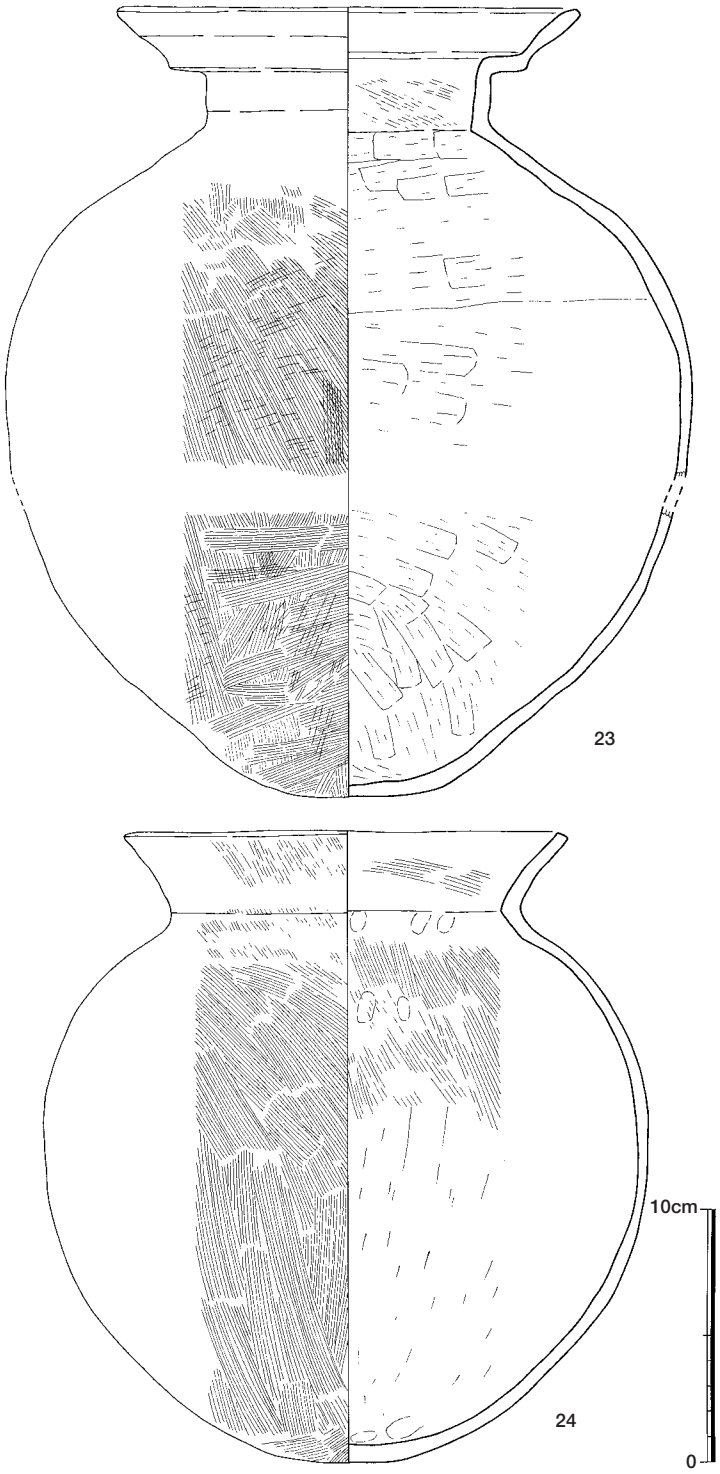


Fig.44　古墳時代遺物実測図５（１／３）

２は陶器壺。胎土は褐色で外面は露胎、内面は施釉される。３は石鍋で滑石製。胴部に断面三角形の突帯を削り出す。外面は縦ケズリで煤が付着する。

SE－3004（Fig. 50）掘方上端は円形とみられる。断面は鉢形で壁は緩く開く。調査区内で井戸枠は検出できない。

出土遺物（Fig. 51）１・２は白磁碗。1は玉縁状口縁で、胴部は直線的に開く。2は口縁端部が短く

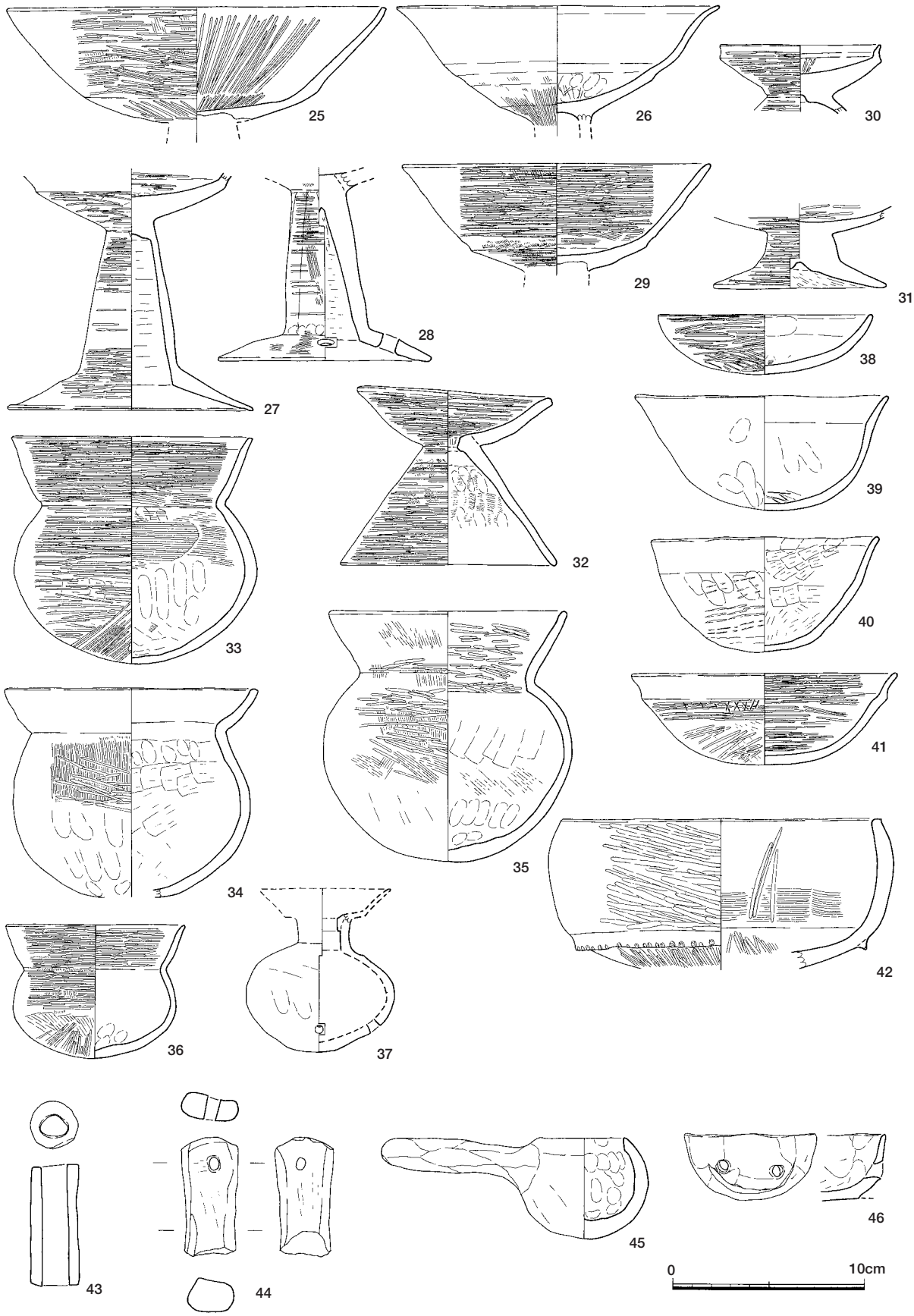


Fig.45　古墳時代遺物実測図６（１／３）

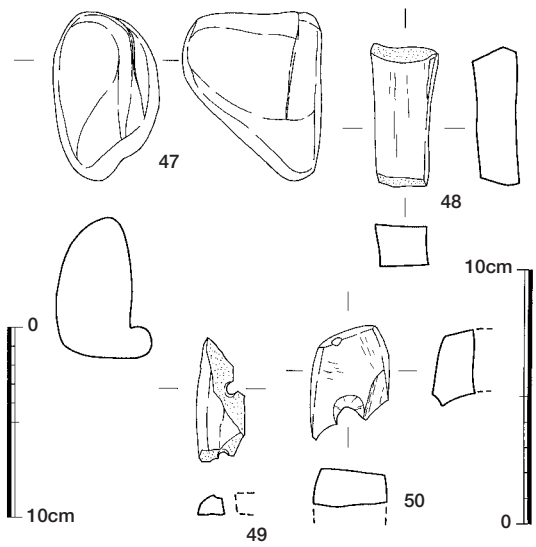
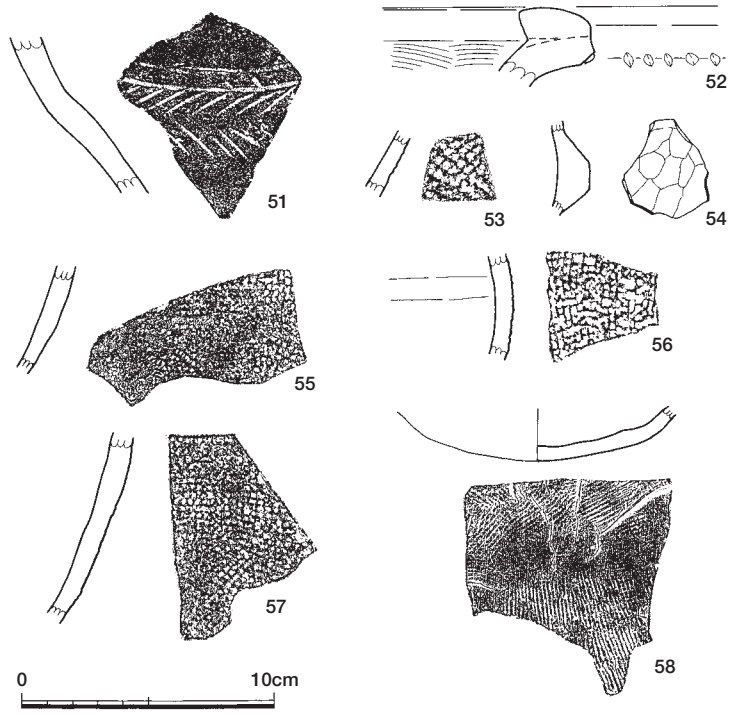


Fig.46　古墳時代遺物実測図７(1･2:1/4　3･4:1/3)



外反する。体部はやや丸く、見込みに段をもつ。

SE－3005（Fig. 52）上端平面形は隅丸長方形に近い楕円形。井戸枠は井戸掘方中心からややずれた位置にある。井戸枠直径は60cm。掘方壁面はやや角度をもって立ち上がる。

出土遺物（Fig. 53）１・２は土師器坏で底部糸切り。1は底部と体部の境界に段を持つ。井戸枠内出土。2は底部と体部境界が丸く、体部が直線的に開く。掘方出土。３～６は青磁碗。3は口縁が軽く外反する。井戸枠内出土。4は口縁が短く外反し、体部は底部から屈曲して直線的に開く。釉は厚く施釉され、畳付は露胎。井戸枠内出土。５は丸味のある体部で外面に縦櫛目文、内面に篦描文と櫛描点描文を施文する。掘方出土。6は外面に縦方向花弁文を施文する。井戸掘方出土。7は青磁水注。口縁は折り返し、全面に厚く施釉される。掘方出土。8は青磁皿。内面に櫛描文が施文され、底部に十字のような墨書がある。掘方出土。9は白磁皿。平底で扁平。口縁部の釉を剥ぐ。堀方出土。10は内面に篦描きで草木文と「正」字を施文する。掘方出土。11は土錘。小型で孔は小さい。

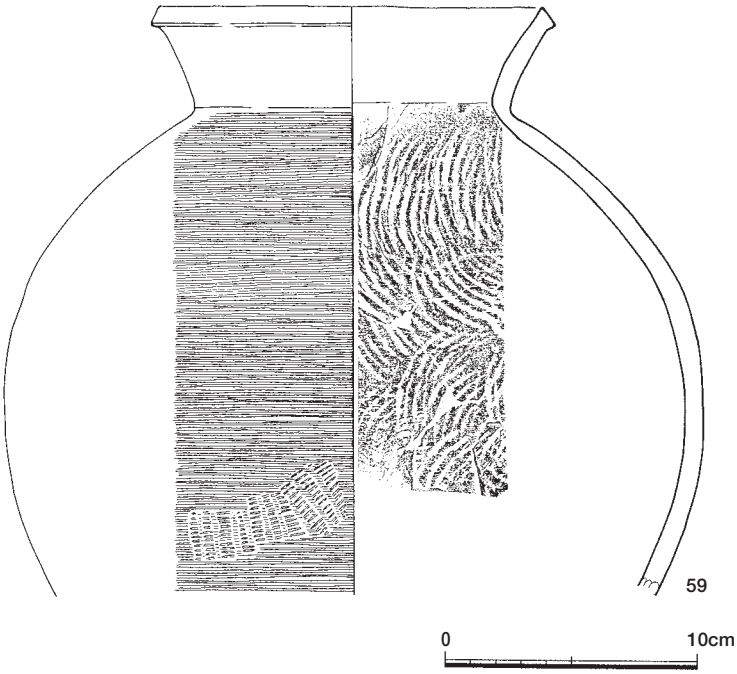


Fig.47　古墳時代遺物実測図８（１／３）

SE－3048（Fig. 54）平面形は楕円形。井戸枠は掘方中央から外れる。壁はかなり直に立ち上がる。井戸枠直径は50cm。

出土遺物（Fig. 56）１は青磁碗。底部は厚く、体部は丸く立ち上がる。全面厚く施釉され、畳付まで釉が垂れる。２は白磁皿。体部はやや内湾する。1・２とも掘方出土。

SE－3052（Fig. 55）円形の掘方で、井戸枠は掘方中央におかれる。壁はかなり角度を以て立ち上が

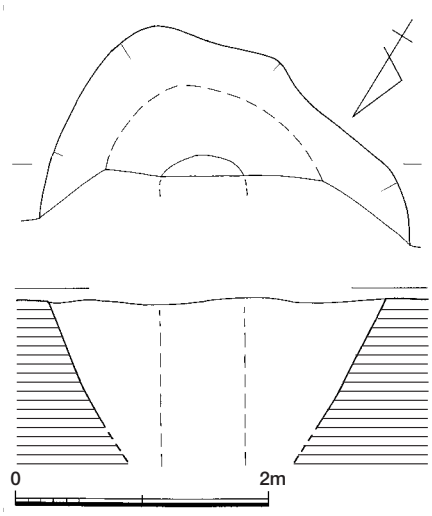


Fig.48　SE-3003遺構実測図（1 /60）

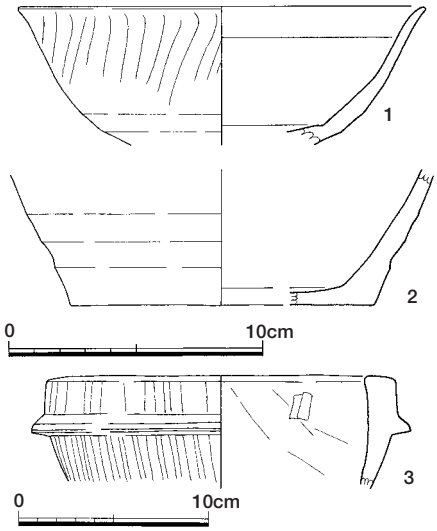


Fig.49　SE-3003出土遺物実測図
（1・2：1／3　3：1／4）

る。

出土遺物（Fig. 57）いずれも上層からの出土。1は土師器皿。底部はヘラ切り後ナデ。2は土師器坏。底部はヘラ削り後ナデ。3は白磁皿。底部は厚く、見込みに段をもつ。4は青磁碗。口縁は外反し、外面は片彫りで縦櫛文。内面は片彫りと櫛描文による花文が施文される。

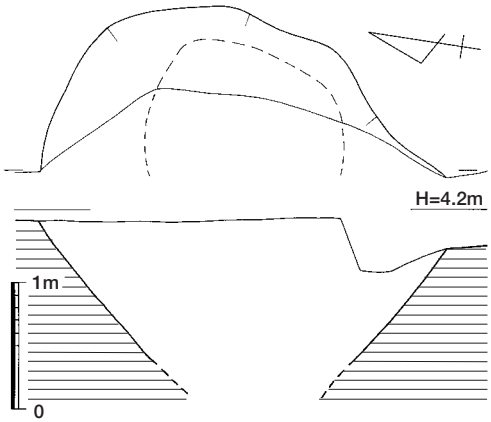


Fig.50　SE-3004遺構実測図（1 /60）

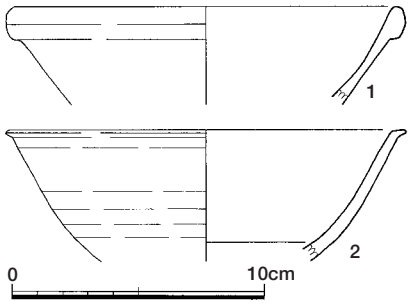


Fig.51　SE-3004出土遺物実測図（1／3）

SE－3104（Fig. 58）上端平面形は隅丸長方形に近い円形。井戸枠は掘方中央からかなり外れた位置にある。井戸枠直径は60cm。掘方断面形は鉢形を呈する。

出土遺物（Fig. 59）1は土師器皿。底部は糸切りで体部と底部の境界は丸い。井戸枠内出土。2は青磁碗。口縁は外反し、端部は面取りする。井戸枠内出土。3～11は掘方出土。3・4は白磁皿。4は内面に花文を施文する。5～7は白磁碗。5は玉縁口縁を持つ。6は口縁部が短く外反し、体部は直線的。7は体部が丸く、口縁が外反する。8は青磁碗。9は白磁合子。外面に花文を彫る。10は土師器皿。底部は糸切り。11は滑石製石製品。石鍋破片加工品で、方形に研磨整形する。

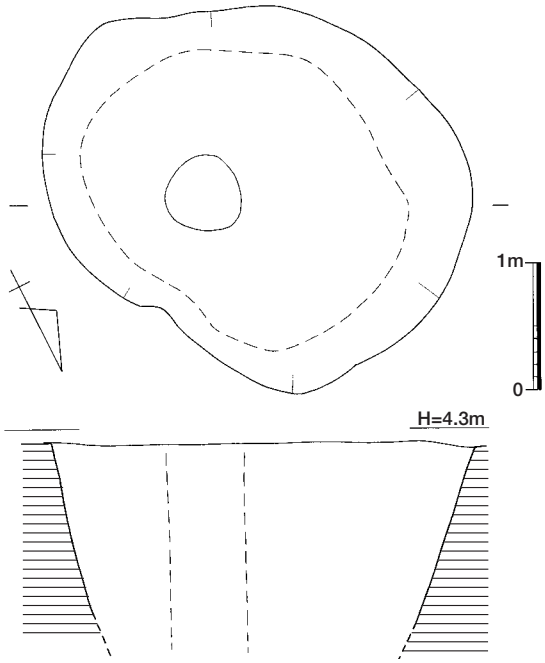


Fig.52　SE-3005遺構実測図（1 /60）

SE－4203（Fig. 60）SE-2401とほぼ重複しており、4面の時点で掘削しているが本来は3面で検出可能な遺構である。掘方壁面は角度をもっており、井戸枠は直径60cmで最下部に方形の板状の仕切り痕が残る。出土遺物は少量でほとんどが小片である。

2）方形竪穴遺構

SK－3006（Fig. 61）方形竪穴遺構。3面で検出、掘削を行ったが、掘削完了と測量は4面の時点である。平面形は

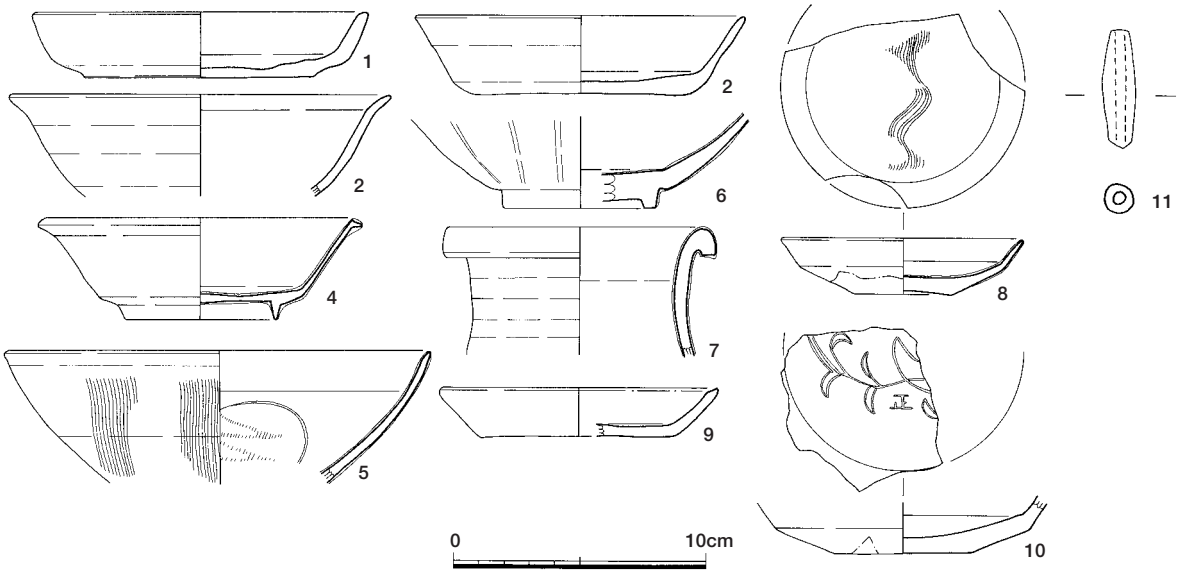


Fig.53　SE-3005出土遺物実測図（１ / ３）

整った四辺形で床面４隅にピットがある。壁はほぼ直に立ち上がるが、明褐色砂質土で崩壊しやすい地山土質からみて板などの土留めが施工されていたはずである。

出土遺物（Fig. 62）１～３は白磁碗。１は玉縁口縁で体部は直線的。２・３は体部が丸く、端部を丸めて小玉縁とする。４は土師器皿。底部はヘラ切り後ナデ。５は土師器坏。底部はヘラ切り後ナデで板状痕が残る。６は瓦器椀。外面は横ミガキ、内面は交差ミガキ。７は陶器壺。内面は化粧土の上から施釉され、外面は胎土上に直接施釉される。８は陶器鉢。口縁は外側に折り返して帯状に作る。内面に施釉され、外面は露胎。９は石鍋。滑石製で取っ手が２ヶ所つく。外面は縦ケズリ。

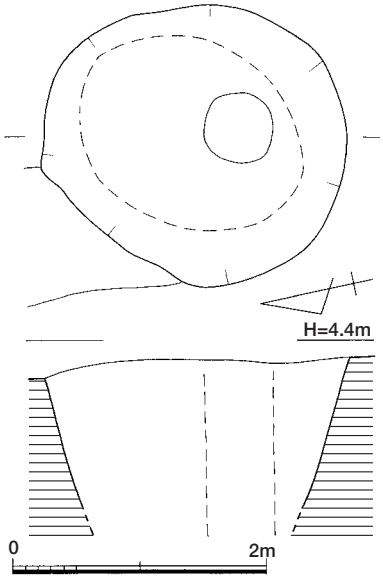


Fig.54　SE-3048遺構実測図（１ /60）

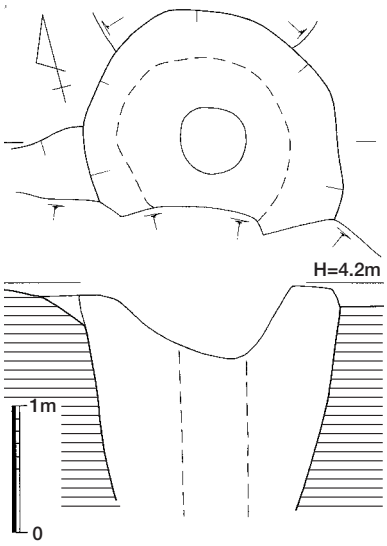


Fig.55　SE-3052遺構実測図（１ /60）

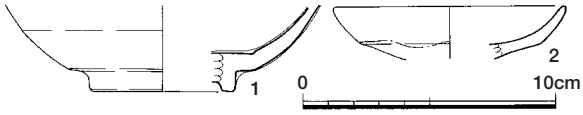


Fig.56　SE-3048出土遺物実測図（１ / ３）

SK－3049（Fig. 63）方形竪穴遺構。平面形はだれて隅丸方形を呈する。床面は平坦で、当初は隅にごく浅いピット状の凹みを検出したが、砂質土のため雨で流れて確認不能になってしまった。壁は緩く立ち上がり、平面形とあわせて遺構廃

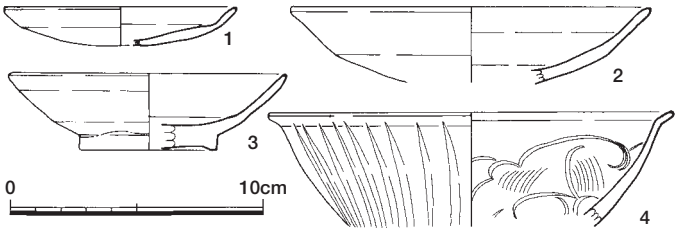


Fig.57　SE-3052出土遺物実測図（１ / ３）

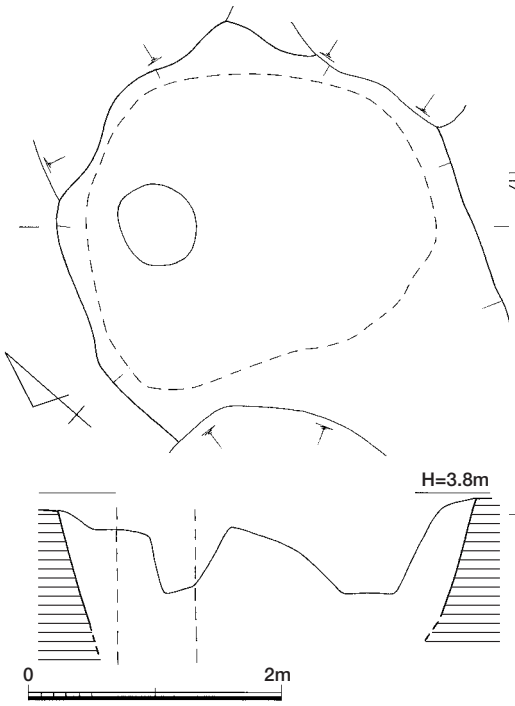


Fig.58　SE-3104遺構実測図（1 /60）

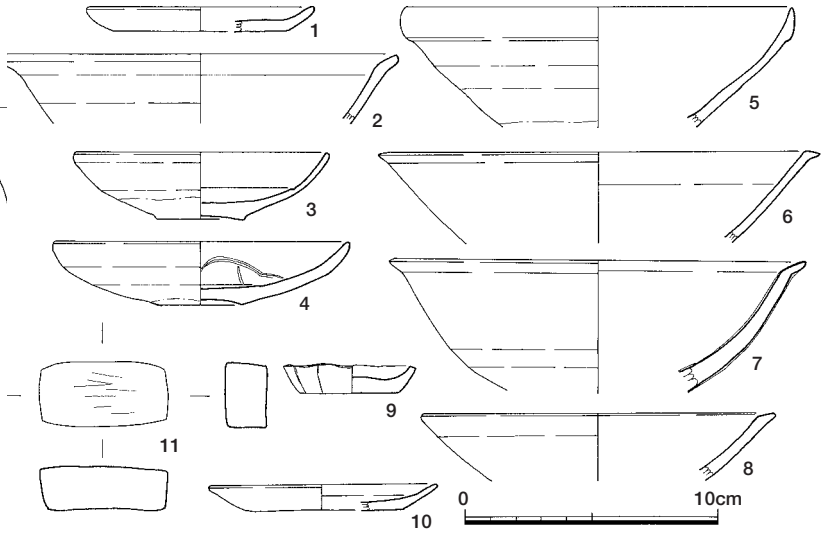


Fig.59　SE-3104出土遺物実測図（1 / 3）

絶後自然崩壊・埋没したものと考えられる。

出土遺物（Fig. 64）

1は白磁碗。玉縁口縁で、体部は直線的に開く。2は土師器椀。内面に部分的に横ミガキが入る。3・4は白磁碗底部。3は高台が高く、4は高台が低く体部が丸くなるもの。

SK－3102（Fig. 65）

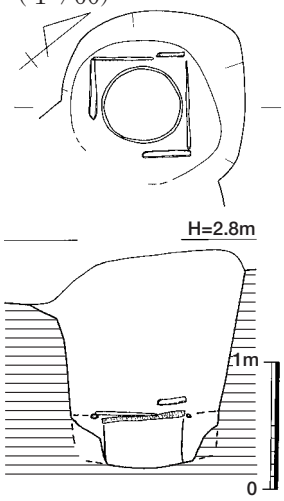


Fig.60　SE-4203遺構実測図（1 /60）

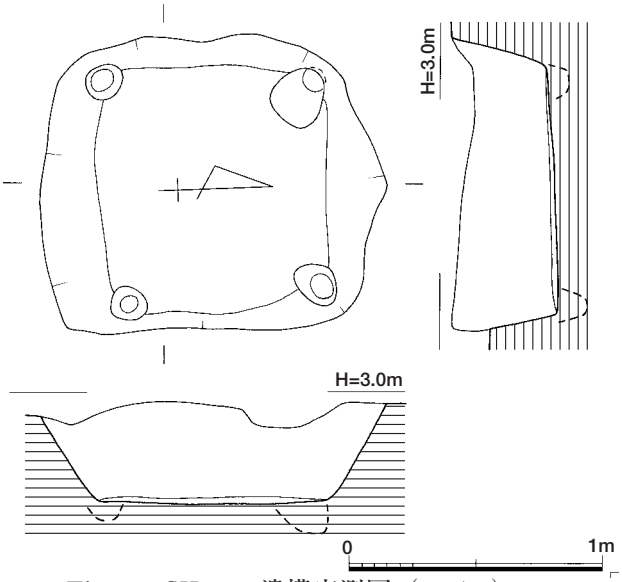


Fig.61　SK-3006遺構実測図（1 /60）

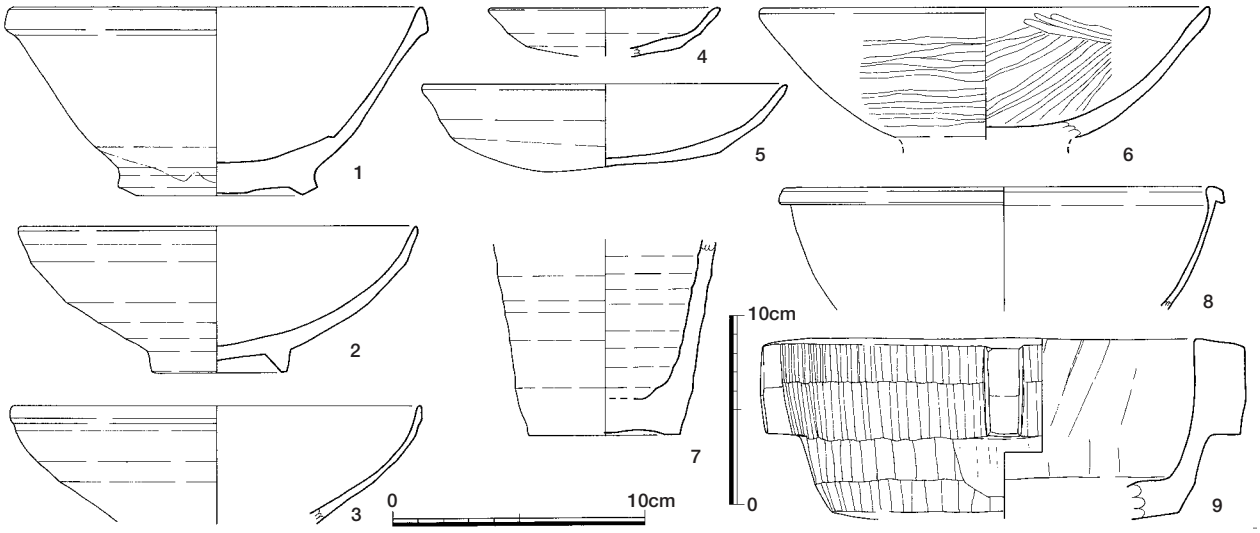


Fig.62　SK-3006出土遺物実測図（1～7：1 / 3　8・9：1 / 4）

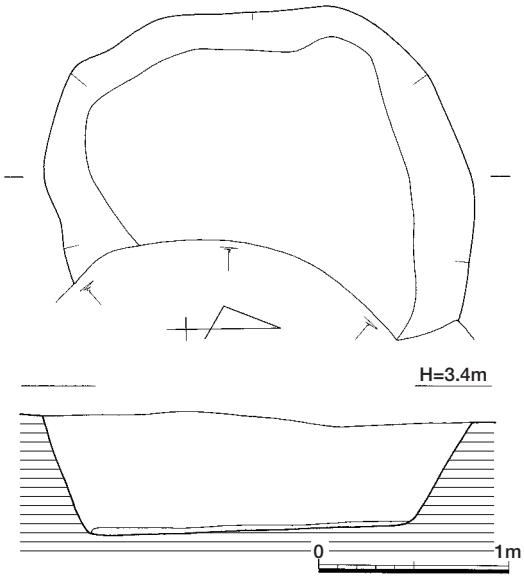


Fig.63　SK-3049遺構実測図（1 /60）

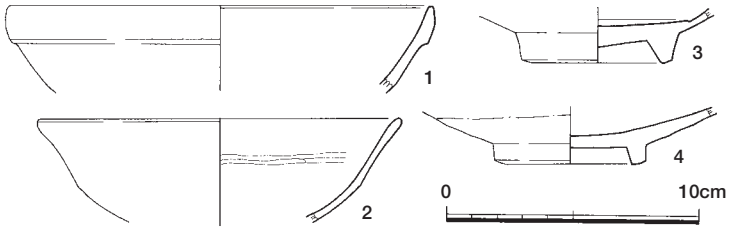


Fig.64　SK-3049出土遺物実測図（1 / 3）

大型の土坑で、平面形は隅丸方形に近いとみられる。床面は平面で、壁はやや開き気味に立ち上がる。大型の方形竪穴遺構の可能性があるためここで述べる。出土遺物（Fig. 66）1は土師器皿。底部はヘラ切り後ナデ。2は白磁皿。見込みに段をもち、全体に厚く釉がかかる。3は白磁皿。口縁部は短く外反し、見込みに段をもつ。4・5は土師器坏。いずれも底部は回転ヘラ削り後ナデで板状痕が残る。体部は緩く開き、4は端部がやや外反する。

3）土坑

SK－3001（Fig. 68）西側を撹乱に切られるが、平面形は長方形で、長軸方向に細長い形である。断面は箱形で、床面は緩く北に傾斜する。形状から見て土壙墓の可能性が高いが、遺構内から人骨や副葬品は出土していない。

出土遺物（Fig. 67）1は白磁碗。口縁は玉縁状で、体部は直線的に開く。見込みに段がつく。釉は厚く施釉される。2は青磁碗。体部は底部から緩く屈曲して開き、口縁は緩く外反する。外面に縦方向縦方向篦描文、内面に横方向沈線が入る。3は高麗青磁の碗とみられ、高台は厚く、体部は丸い。見込みと畳付に砂目痕がつく。4は瓦器椀底部。高台は粘土貼り付けで低い。5は陶器鉢。口縁内側に突帯状の張り出しがつく。

SK－3026（Fig. 69）平面形は略楕円形。床面は平坦で、南側の壁が緩く立ち上がり、他の壁は角度をもつ。

出土遺物（Fig. 70）1は土師器坏。

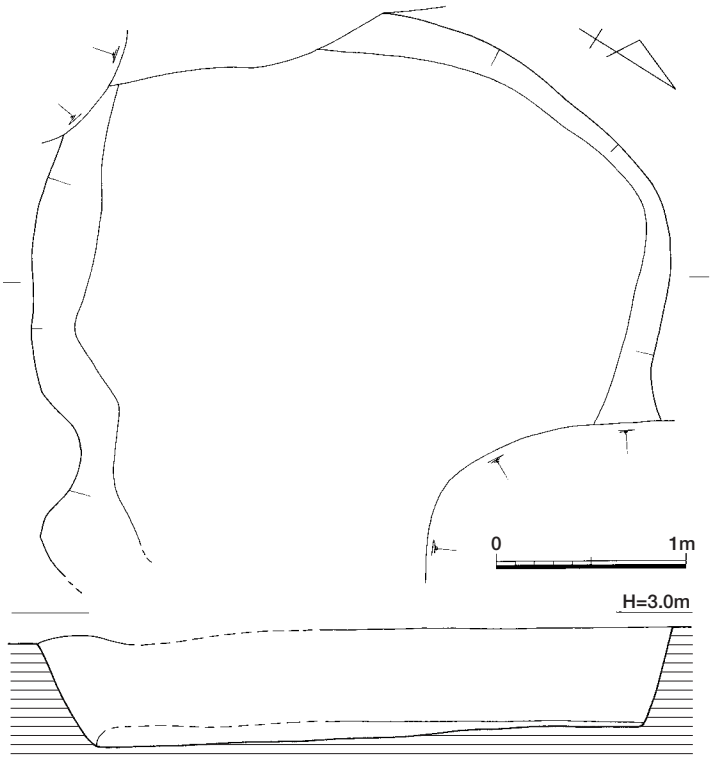


Fig.65　SK-3102遺構実測図（1 / 3）

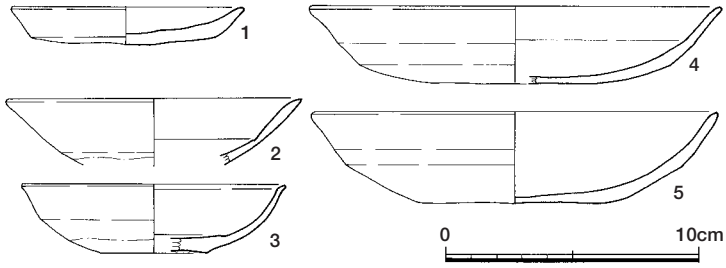


Fig.66　SK-3102出土遺物実測図（1 / 3）

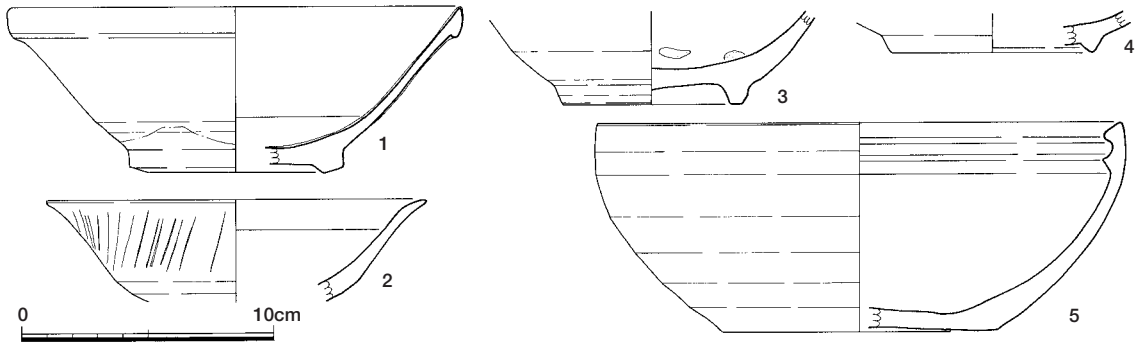


Fig.67　SK-3001出土遺物実測図（1～4：1／3　5：1／4）

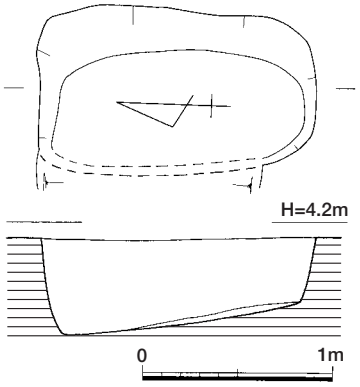


Fig.68　SK-3001遺構実測図（1 /40）

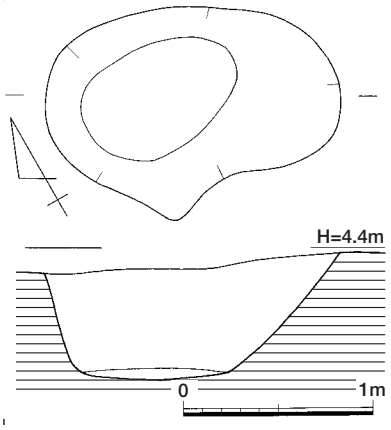


Fig.69　SK-3026遺構実測図（1 /40）

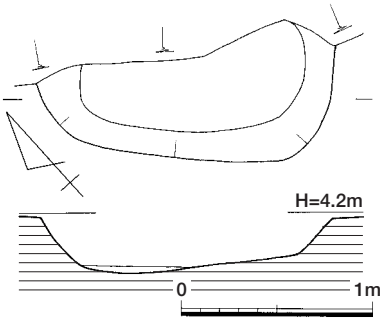


Fig.71　SK-3035遺構実測図（1 /40）

底部は糸切りで、体部は丸く立ち上がる。2は白磁皿。内面見込みに線描で文様を描く。3・4は白磁碗。3は体部はやや丸味を持ち、端部は直口する。4は口縁端部がごく短く外反する。

SK－3035（Fig. 71）平面形は隅丸長方形とみられ、長軸方向に細長い形である。断面は箱形で、床面は平坦である。SK-3001と形態や法量的に近いものとみられ、土壙墓の可能性が高い。

出土遺物（Fig. 72）1は土師器坏。口縁はやや外湾する。底部は回転ヘラ削り後ナデ。2は青磁碗。釉は高台内部まで全面に施釉され、内面と畳付に砂目痕がつく。高麗青磁とみられる。3は陶器盤。口縁は外反し、体部は内湾しながら開く。内面は施釉され暗褐色で鉄絵が描かれる。外面は露胎。

(3) 第2面（12世紀中頃～12世紀後半）

1）井戸

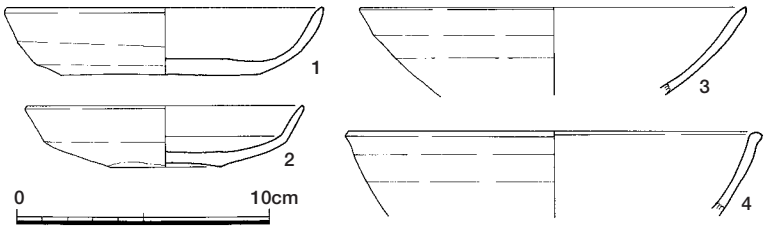


Fig.70　SK-3026出土遺物実測図（1／3）

SE－2055（Fig. 74）掘方平面形は円形で、断面は壁面がほぼ直に立ち上がる。井戸枠は掘方中央からやや外れた位置にあり、井戸枠断面はわずかに傾いている。井戸枠直径は60cmである。

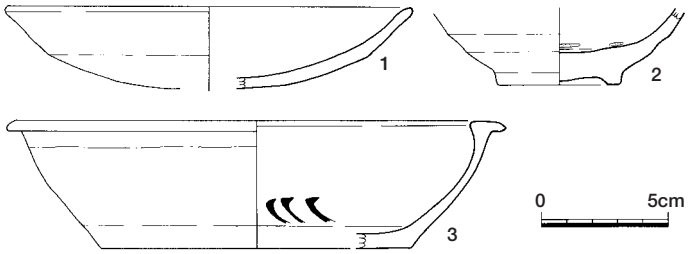


Fig.72　SK-3035出土遺物実測図（1／3）

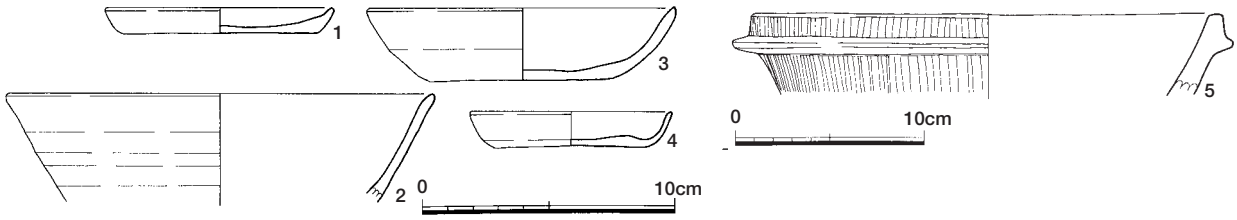


Fig.73　SE-2055出土遺物実測図（1～4：1／3　5：1／4）

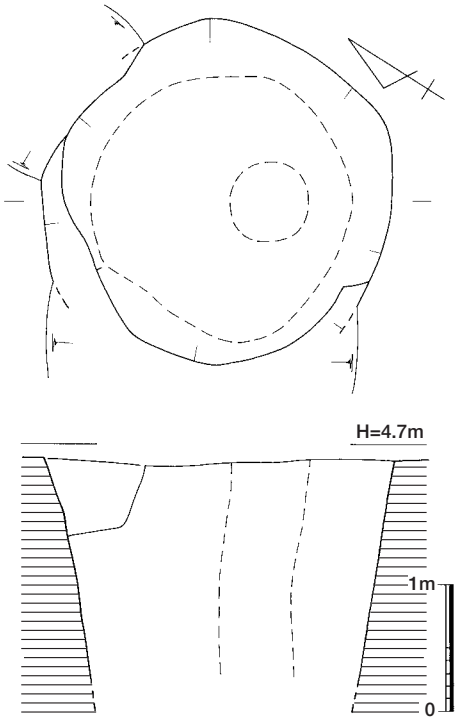


Fig.74　SE-2055遺構実測図（1 /60）

出土遺物（Fig. 73）1・2は井戸掘方出土。1は土師器皿。底部は糸切りで板状痕が残る。2は青磁碗。体部は直線的に開く。釉は暗灰緑色で、透明。高麗青磁とみられる。3・4は井戸枠内出土。3は土師器坏。底部は糸切りで底径は小さく、体部は内湾する。井戸枠内出土。4は土師器皿。底部は糸切り、体部は底部から内湾して直立する。5は石鍋。滑石製で、体部は直線的に開き、外面に突帯を削り出す。外面は縦ケズリ成形。

SE－2203（Fig. 75）平面形は楕円形とみられる。断面は鉢形を呈し、掘方壁面は角度がついて開く。調査区範囲内では井戸枠は検出できなかった。

出土遺物（Fig. 76）1・2は土師器皿。底部は糸切りで、体部は底部から緩く屈曲して立ち上がる。2は底部は糸切りで板状痕が残る。3は土師器坏で底部は糸切り

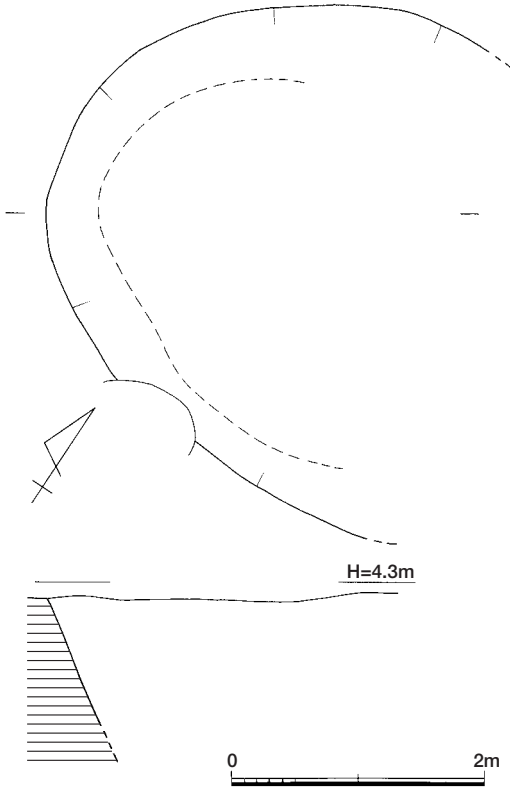


Fig.75　SE-2203遺構実測図（1 /60）

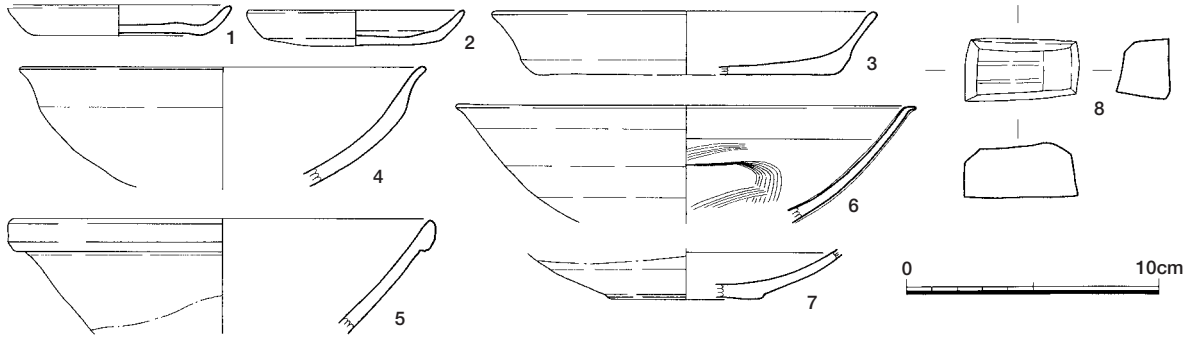


Fig.76　SE-2203出土遺物実測図（1 / 3）

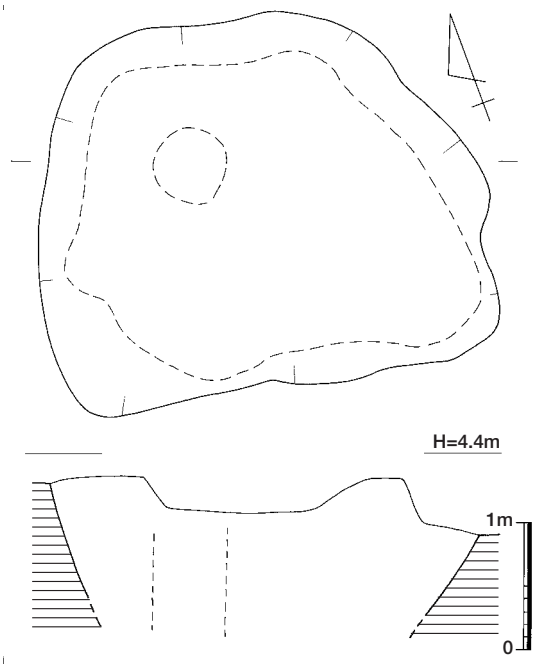


Fig.77　SE-2206遺構実測図（１ /60）

で体部は外反して立ち上がる。4 は土師器椀で口縁部は横ナデて外反する。5・ 6 は白磁碗。5 は口縁は玉縁状で体部は直線的に開く。6 は内面に櫛描文を施文する。釉は青白色。7 は青磁皿。内面見込みに段をもつ。８は滑石製石製品。石鍋破片を再加工したもので、上面に 2 条の擦痕が残る。

SE−2206（Fig. 77）掘方平面形は台形に近い隅丸四辺形で、掘方断面は鉢状を呈し壁面は緩く立ち上がる。井戸枠は掘方中央からかなり外れた位置にある。井戸枠直径は60cm を測る。

出土遺物（Fig. 78）いずれも掘方・井戸枠内混在で取り上げている。1 は土師器皿。底部はヘラ削り後ナデ。2・ 3 は白磁小碗。4 は青磁碗。厚く施釉され、見込みに段を持ち、見込みの釉を輪状に掻き取る。5 ～８は白磁碗。5 は体部が直線的に開き、口縁は玉縁状になる。6 は高台が低いもの、7 は高台が高く細いものでいずれも見込みに段をもつ。8 は見込みに櫛描文を施文する。

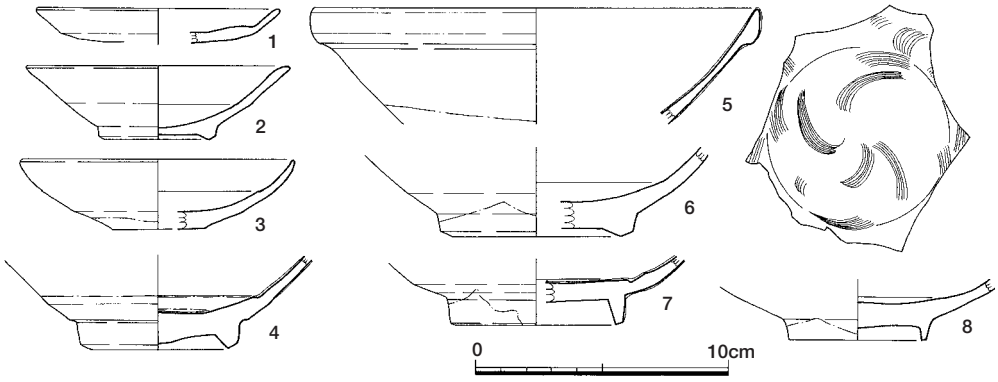


Fig.78　SE-2206出土遺物実測図（１ / ３）

SE − 2207（Fig. 79）掘方平面形は調査区内の部分では半円形を呈する。壁は直に近い角度で立ち上がるが、調査区壁際で検出・掘削しているために平面、壁面とも若干掘りすぎた感がある。調査区内では井戸枠は検出されていない。

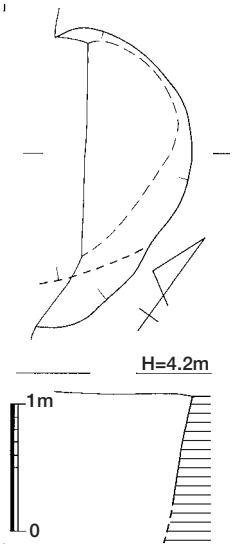


Fig.79　SE-2207遺構実測図（１ /60）

出土遺物（Fig. 80）１・２は土師器皿。いずれも底部はヘラ切り後ナデで板状痕跡が残る。3 ～ 5 は白磁碗。３は白磁皿。体部は丸く、口縁は短く外反する。４は体部が丸く、

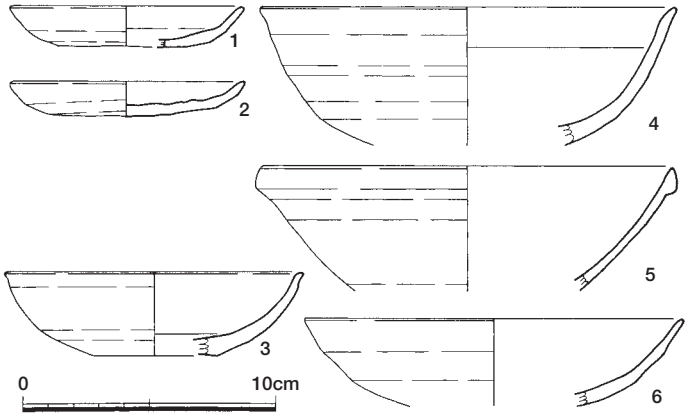


Fig.80　SE-2207出土遺物実測図（１ / ３）

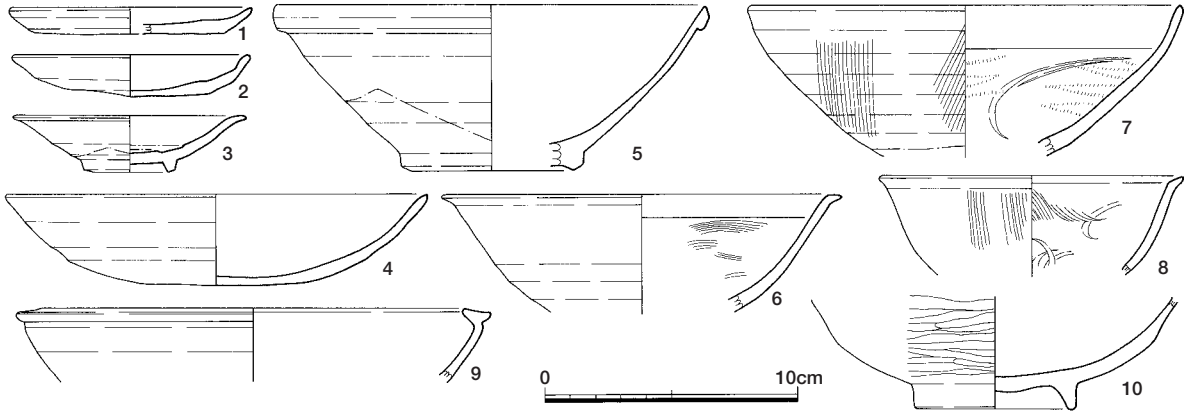


Fig.81　SE-2275出土遺物実測図（1～8・10：1／3　9：1／4）

口縁は短く軽く外反する。5は直線的に開く体部に玉縁状の口縁をもつ。6は土師器坏。底部はヘラケズリとみられる。

SE－2275　掘方はSE-2206などの遺構や撹乱に切られており平面形は不明確である。断面は箱形を呈し、壁はやや急に立ち上がる。掘削段階で井戸枠は検出できていない。

出土遺物（Fig. 81）1・2は土師器皿。1は底部糸切りで扁平な形になる。2は底部ヘラ切り後ナデで板状痕が残る。体部は丸く開く。3は白磁皿。見込みの釉を輪状に掻き取る。4は土師器坏。底部は回転ヘラ削りで、体部は緩く開く。5・6は白磁碗。5は体部がやや丸味を帯び、口縁は玉縁状を呈する。6は丸味を持つ体部で口縁は短く外反する。内面に櫛描文を施文する。7・8は青磁碗。7は外面に縦櫛描文、内面に片彫りによる花文と櫛描点描文を施文する。8は口縁が短く外反し、外面に縦櫛描文、内面に片彫りによる草花文と櫛描文を施文する。9は陶器鉢。口縁は内湾して外側に折り返す。全体に釉の表面が細かく粉を吹いており、二次比熱を受けたとみられる。10は土師器椀。外面は横ミガキ、内面はナデ。

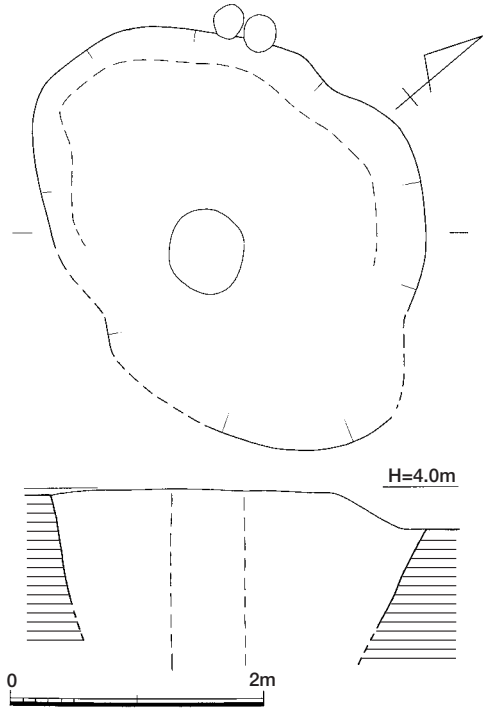


Fig.82　SE-2319遺構実測図（1／60）

SE－2319（Fig. 82）

2区と3区にわたって検出され、平面形は楕円形を呈する。掘方壁面はやや急角度で立ち上がる。井戸枠は2区壁際で検出され、掘方ほぼ中央に位置する。井戸枠径は60cmを測る。

出土遺物（Fig. 83）

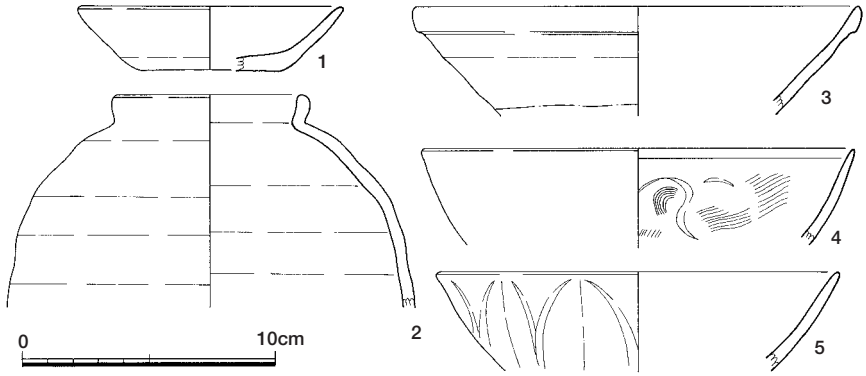


Fig.83　SE-2319出土遺物実測図（1／3）

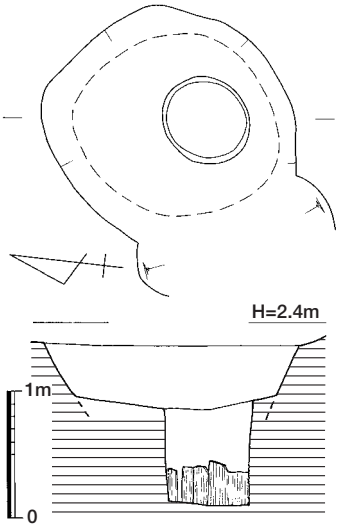


Fig.84　SE-2401遺構実測図（1 /60）

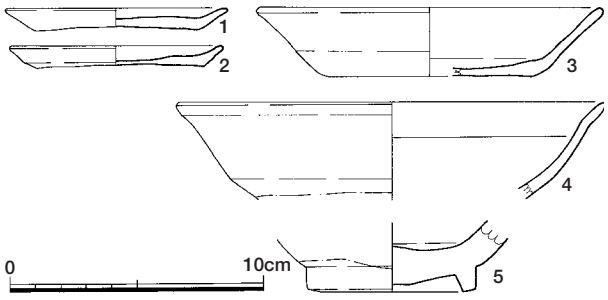


Fig.85　SE-2401出土遺物実測図（1 / 3）

いずれも掘方からの出土。1は土師器坏。底部は糸切りで、全体に小ぶり。2は陶器壺。頸部は締まり、口縁は短く直立する。3は白磁碗で、口縁は玉縁状で体部は直線的に開く。4・5は青磁碗。4は内面に片彫りと櫛描文を施文する。5は外面に鎬蓮弁文を施文する。

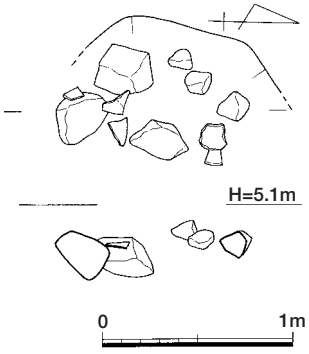


Fig.86　SX-2001遺構実測図（1 /40）

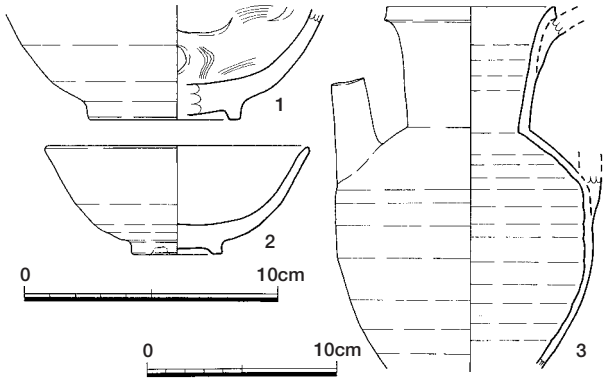


Fig.87　SX-2001出土遺物実測図（1 / 3）

SE－2401（Fig.84）2面で検出した井戸であるが、井戸枠内上層で出土した馬骨の検出のために井戸本体の掘削が遅れ、図示した状況は第4面掘削時のものである。掘方は円形で、壁はやや開き気味に立ち上がる。井戸枠は掘方中央からやや外れた位置で検出され、井戸枠直径は70cmである。枠内最下層で縦方向の板材を検出し、桶枠だったとみられる。板材は状態が悪く、取り上げられていない。最下面で水がしみ出す状態である。

出土遺物（Fig.85）1・2は井戸枠内最下層出土の土師器皿。いずれも底部糸切りで扁平な形態。3は土師器坏。底部は糸切りで、体部は直線的に開く。4・5は白磁碗。口縁

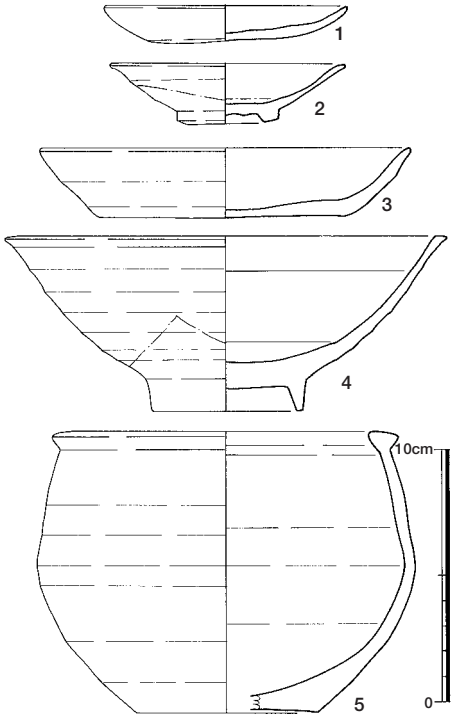


Fig.88　SK-2052出土遺物実測図（1 / 3）

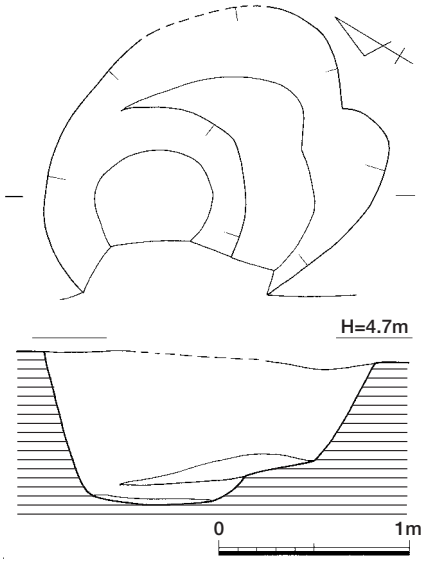


Fig.89　SK-2052遺構実測図（1 /40）

はやや外反気味で、内面に沈線が回る。5は見込みに浅く段を作る。なお、井戸枠内上層出土の馬骨についてはP．49で報告している。

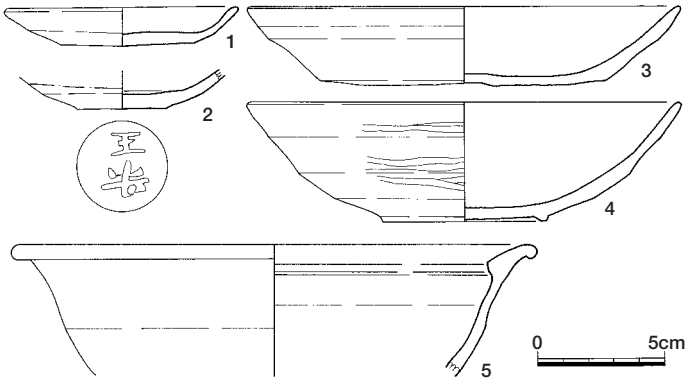


Fig.90　SK-2054出土遺物実測図（1 / 3）

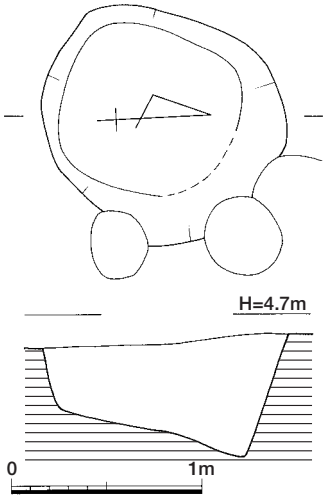


Fig.91　SK-2054遺構実測図（1 /40）

2）土坑・その他の遺構

SX－2001（Fig．86）2面掘り下げ時に検出した遺構で、遺構掘方はほとんど検出できていない。遺構内で石材と遺物が散在している状態である。石材はほぼ同レベルで検出され、遺物レベルもほぼ揃うことから、この高さが本来の掘方の床面レベルとみられる。

出土遺物（Fig．87）1・2は青磁碗。1は内面に片彫りと櫛描文を施文する。2は小型で、高台内側に砂が付着し、釉は青白色不透明でやや粉っぽい。高麗青磁とみられる。3は白磁水注。胴部肩は明瞭に屈曲し、頸部は緩く外反して口縁端部は横ナデて面取りする。取っ手は肩部屈曲部と口縁部で接合する。釉は灰白色で厚め。全体に二次被熱を受ける。

SK－2052（Fig．89）平面形は複数の楕円形が重なったような形状で、複数の遺構が重複して検出されている可能性もある。床面は二段掘り状で、最下面は円形をなす。

出土遺物（Fig．88）1は土師器皿。底部は糸切りで、体部は底部から緩く屈曲して開く。2は白磁皿。見込みの釉を輪状に掻き取る。3は土師器坏。底部は糸切りで、体部と底部の屈曲は甘い。4は白磁碗。体部は直線的に開き、口縁は外側に短く突き出す。見込みに段をもち、内面に沈線を回す。釉は薄緑色透明。5は陶器壺。体部は下ぶくれで口縁部は

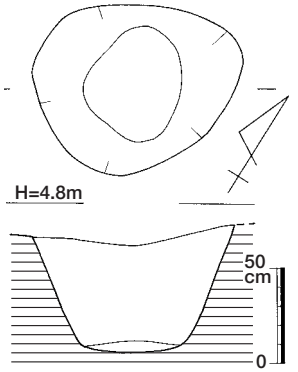


Fig.92　SK-2057遺構実測図（1 /40）

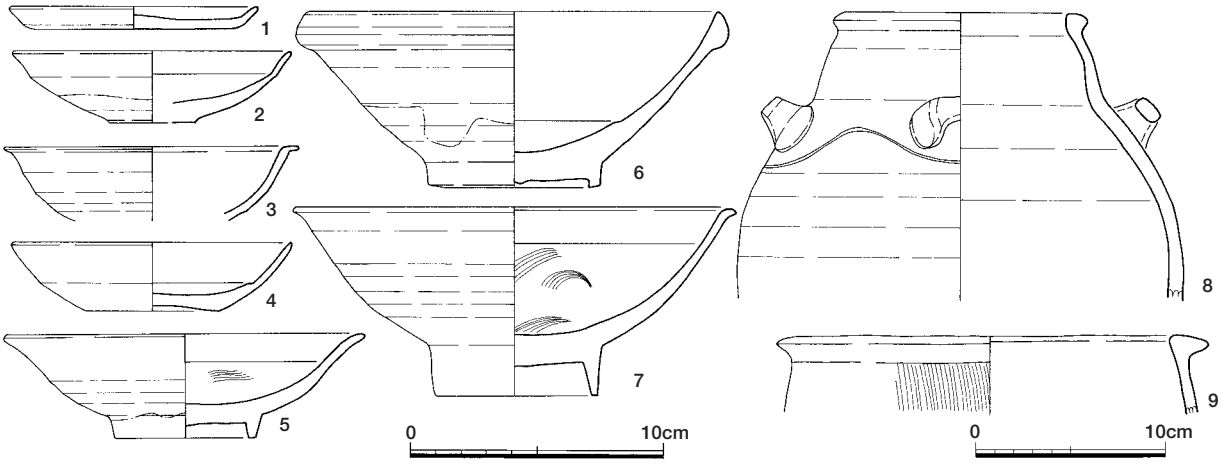


Fig.93　SK-2057出土遺物実測図（1～8：1 / 3　9：1 / 4）

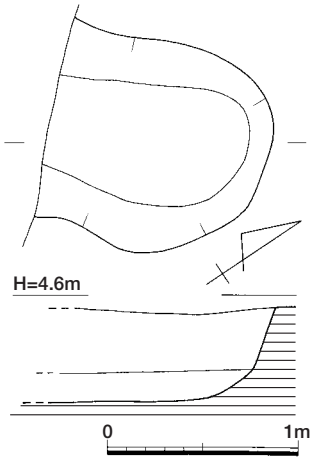


Fig.94　SK-2131遺構実測図（1 /40）

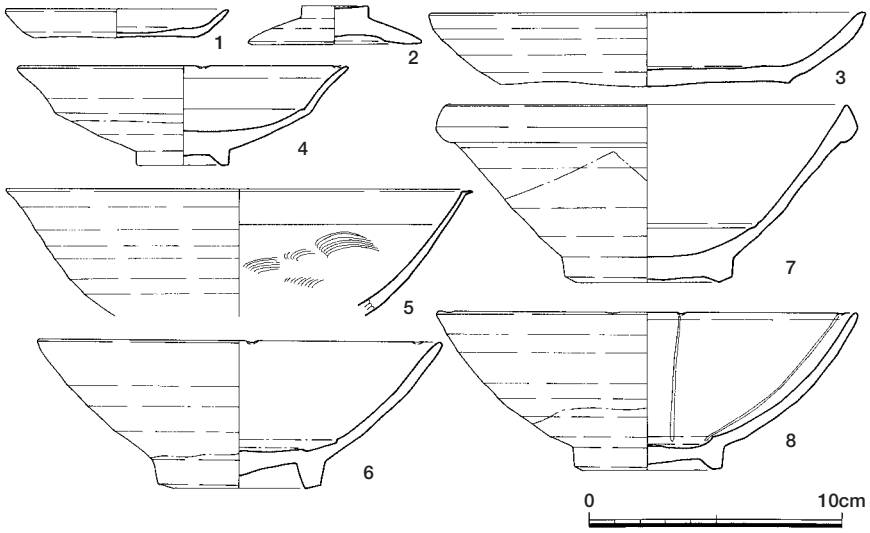


Fig.95　SK-2131出土遺物実測図（1 / 3）

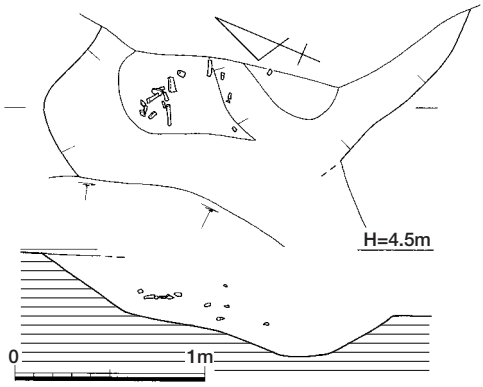


Fig.96　SK-2138遺構実測図（1 /40）

断面三角形を呈する。内外面とも施釉され、釉は薄灰白色不透明。

SK－2054（Fig. 91）平面形は隅丸方形に近い円形を呈する。床面は大きく傾斜し、壁は開き気味に立ち上がる。

出土遺物（Fig. 90）1は土師器皿。底部は糸切りで、体部は大きく開く。2は白磁皿。底面に「王□」の墨書がみられる。3は土師器坏。底部は糸切りで板状痕が残る。体部は大きく開く。4は瓦器碗。外面は横ナデ後部分的な横ミガキ、内面はナデ。5は陶器鉢。口縁部は鋤先状につくる。外面は露胎、内面は緑釉を施釉する。

SK－2057（Fig. 92）平面形は楕円形で、床面は直軸と直口方向に長い楕円形を呈する。床面は平坦で、壁は緩く開いて立ち上がる。

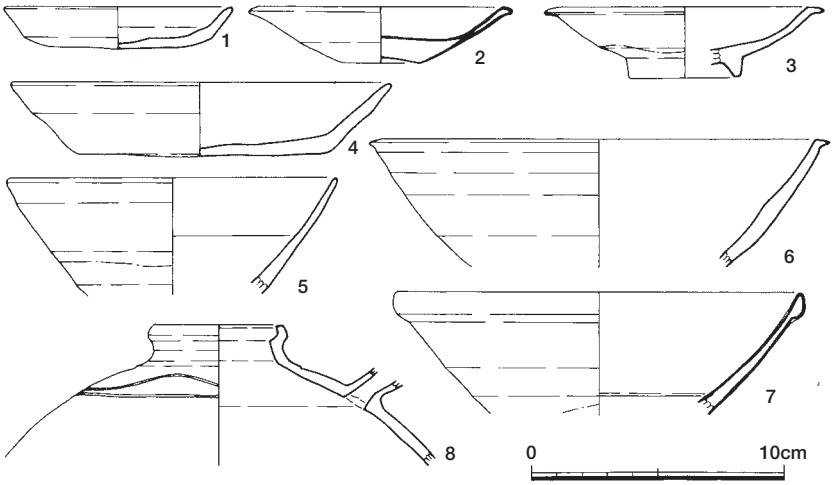


Fig.97　SK-2138出土遺物実測図（1 / 3）

出土遺物（Fig. 93）1は土師器皿。底部は糸切りで全体に扁平である。2・3は青磁小碗。2は口縁が屈曲して外湾する。釉は黄緑色透明。3は体部が丸く、口縁が短く外反する。釉は薄緑色透明。4～7は白磁碗。4は底部が上げ底で露胎で他の面は施釉される。釉色は緑がかった乳白色で不透明。見込みに段をもつ。5は全体に扁平で、内面に櫛描文を施文する。釉色は青白色不透明。6は直線的

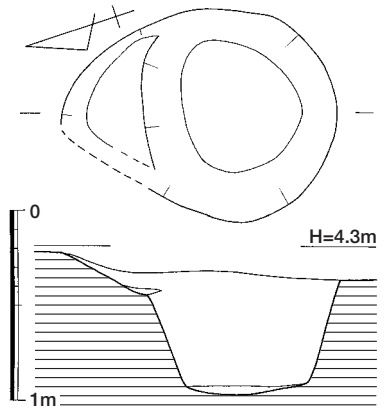


Fig.98　SK-2204遺構実測図（1 /40）

に開く体部に玉縁口縁をもつ。釉は乳白色不透明。7は高台が高く、口縁端部が外反する。内面は櫛描文を施文する。釉は薄緑白色透明。高台内側に「十」字を施文する。8は陶器四耳壺。頸部はほとんど締まらず、口縁端部に粘土を貼り付け肥厚させる。釉は外面緑褐色、内面灰黒色。9は弥生土器甕口縁部破片。断面三角形口縁で外面は縦ハケ。弥生中期前半の遺物である。

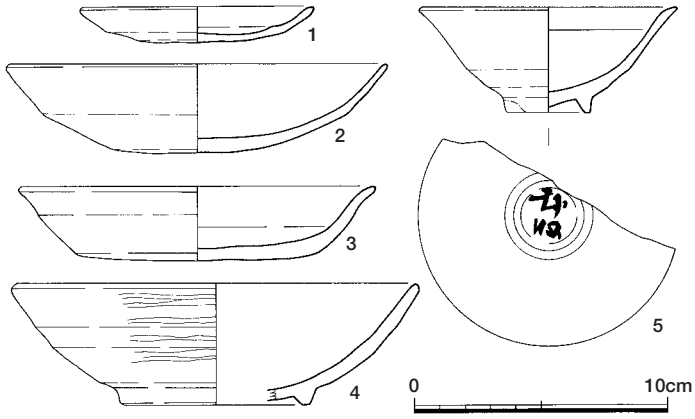


Fig.99　SK-2204出土遺物実測図（1 / 3）

SK－2131（Fig. 94）西半分を欠くが、長楕円形の遺構とみられる。全体に割竹形を呈し、床面は丸味を帯びる。遺構形状からみて土壙墓の可能性もある。

出土遺物（Fig. 95）1は土師器皿。底部は糸切りで体部は大きく開く。2は白磁蓋。外面は露胎、下面に施釉される。釉は乳白色不透明。3は土師器坏。底部は糸切りで、底部と胴部の境界に一部段がつく。4は青磁皿。体部は屈曲し、底部は外反する。口縁部輪花と内面白堆線で6分割し、内面に段をもつ。5～7は白磁碗。5は内面に櫛描文を施文する。釉は灰白色透明で厚く施釉される。6は口縁部に6分割の輪花をもつ。釉は暗灰白色不透明で見込みの釉を輪状に掻き取る。7は体部が直線的に開き、口縁部に玉縁をもつ。見込みに段をつくる。釉はくすんだ乳白色で不透明。8は青磁碗。口縁部の輪花と内面の白堆線で6分割に描き、見込みは一段下がる。釉は黄緑色で半透明。

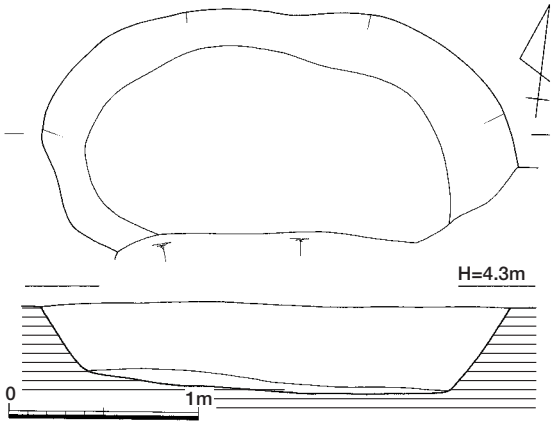


Fig.100　SK-2205遺構実測図（1 /40）

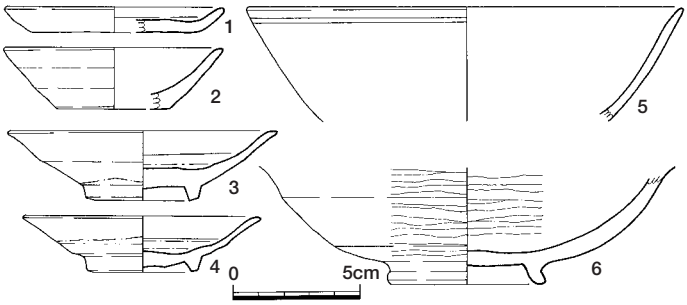


Fig.101　SK-2205出土遺物実測図（1 / 3）

SK－2138（Fig. 96）遺構平面形は楕円形あるいは不整形を呈するとみられる。床面は二段掘り状に緩く傾斜する。遺構内部から動物骨が出土している。

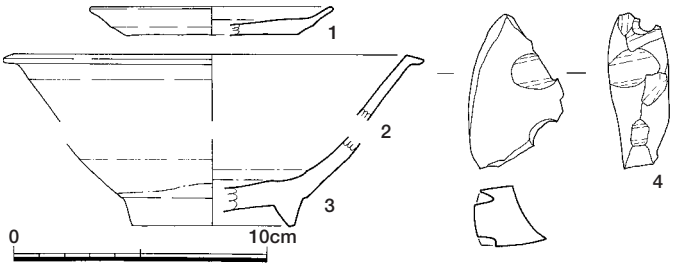


Fig.102　SK-2315出土遺物実測図（1 / 3）

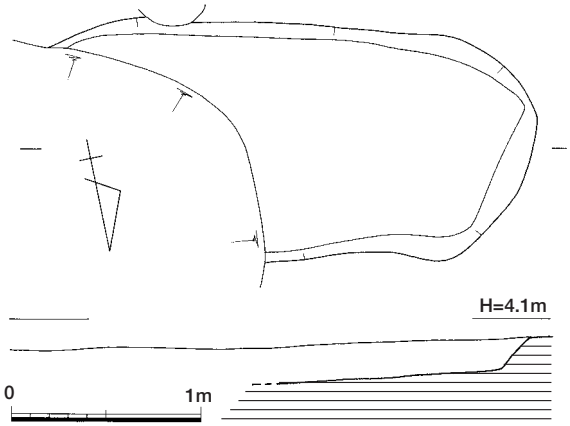


Fig.103　SK-2315遺構実測図（1 /40）

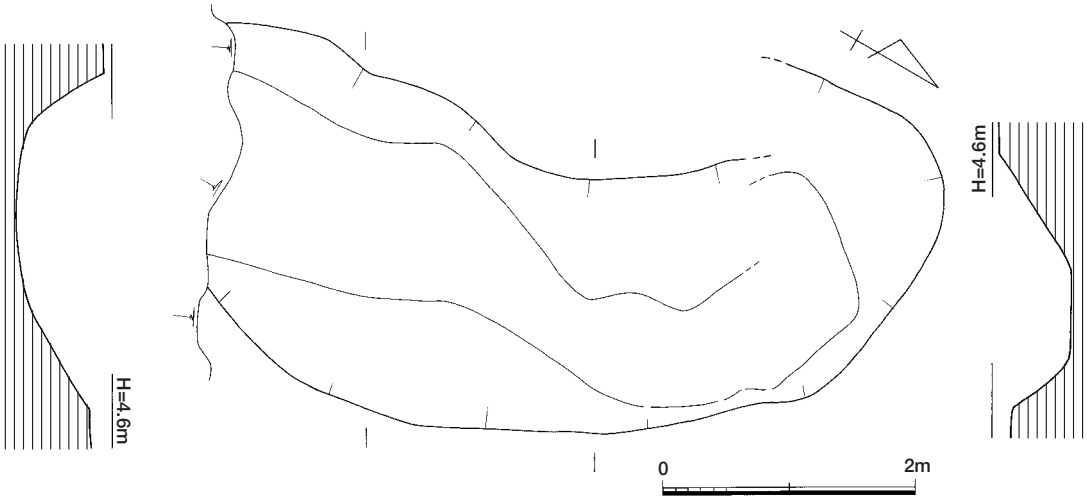


Fig.104　SD-1102遺構実測図（1 /60）

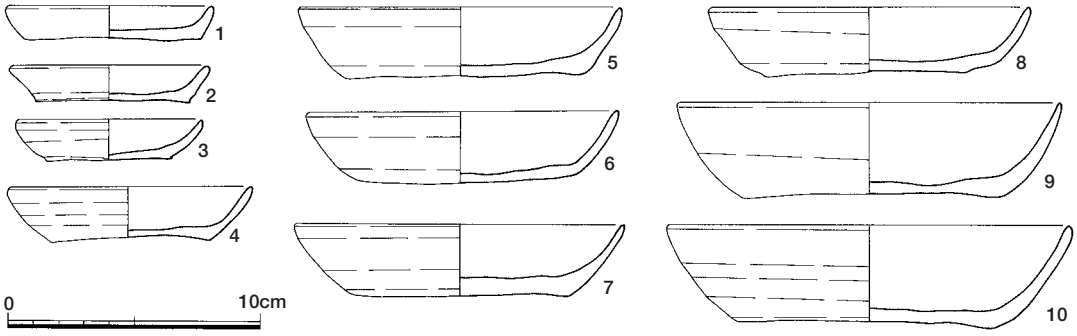


Fig.105　SD-1102出土遺物実測図（1 / 3）

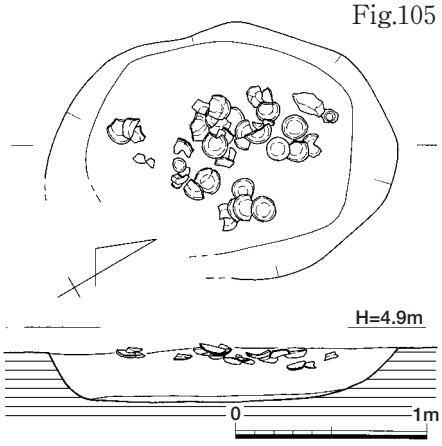


Fig.106　SK-1020遺構実測図（1 /40）

出土遺物（Fig. 97）1は土師器皿。底部はヘラ切り後ナデで板状痕が残る。2は白磁皿。底部は上げ底で厚く、口縁は短く外反する。釉は薄緑色透明で厚い。3は青磁皿。口縁端部は短く外反する。釉は暗青白色不透明。4は土師器皿。底部は糸切りで、体部は底部から緩く屈曲して開く。5は青磁碗。体部は直線的に開き、内面に段がつく。釉は薄青灰色。6・7は白磁碗。6は口縁が短く外反する。釉は乳白色で薄い。7は玉縁状口縁で内面に段がつく。釉は青白色透明で厚い。8は陶器注口壺。外面肩部に沈線を施文し、口縁は屈曲して短く直立する。

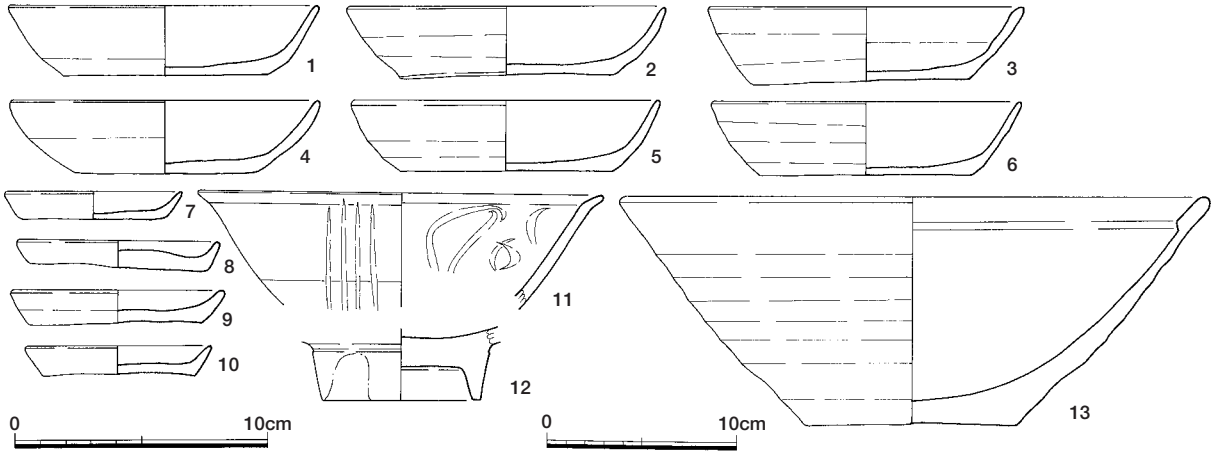


Fig.107　SK-1020出土遺物実測図（1～12：1 / 3　13：1 / 4）

SK－2204（Fig. 98）平面形は楕円形で、二段掘り状を呈し、最下面は略円形である。床面は緩く凹み、壁面はほぼ直に立ち上がる。

出土遺物（Fig. 99）1は土師器皿。底部はヘラ切り後ナデで板状痕が残る。2・3は土師器坏。2は底部はヘラ切り後ナデで板状痕が残る。3は底部は回転ヘラ削り後ナデで板状痕が残る。4は瓦器碗。外面は横ナデ後横ミガキ、内面はナデ。5は青磁皿で高台内側に「□綱」の墨書がある。

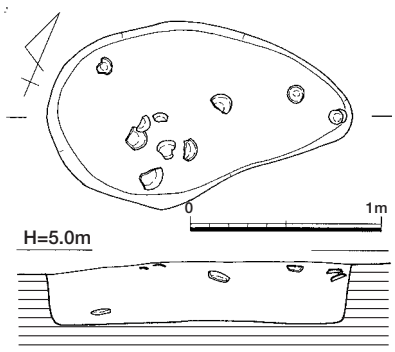


Fig.108　SK-1029遺構実測図（1 /40）

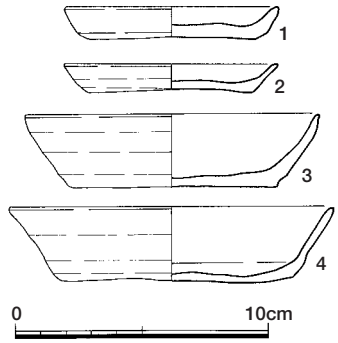


Fig.109　SK-1029出土遺物実測図（1 / 3）

SK－2205（Fig. 100）平面形は長楕円形を呈するとみられる。床面はほぼ平坦で、壁面は緩く開いて立ち上がる。全体にだれた形で、廃棄土坑とみられる。

出土遺物（Fig. 101）1は土師器皿。底部は糸切りで板状痕が残る。2は瓦器皿。体部は直線的に開く。3は白磁皿。4は青磁皿。3・4とも見込みの釉を輪状に掻き取る。5は白磁碗。口縁直下にケズリ状の段が付く。6は土師器椀。体部内外面は横ミガキ。

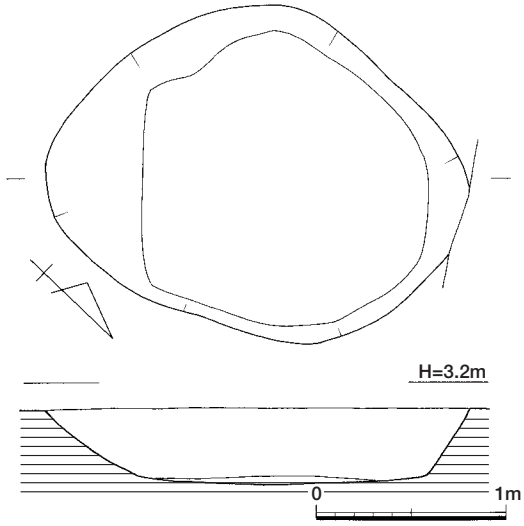


Fig.110　SK-1001遺構実測図（1 /60）

SK－2315（Fig. 103）平面形は長方形になるとみられる。断面形は浅く皿状を呈し、床面は平坦で壁は緩く開いて立ち上がる。

出土遺物（Fig. 102）1は土師器皿。底部は糸切りで板状痕が残る。2・3は白磁碗。2は口縁部は外側に屈曲し、上面は外傾する。3は見込みの釉を輪状に掻き取る。

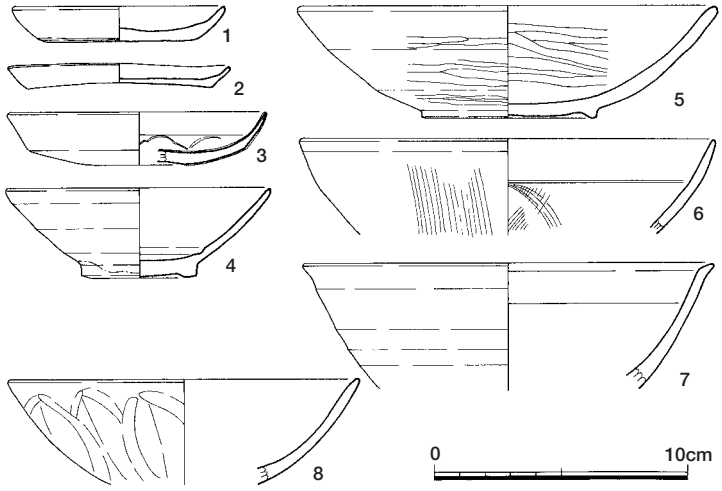


Fig.111　SK-1001出土遺物実測図（1 / 3）

(4) 第1面（13世紀前半～13世紀後半）

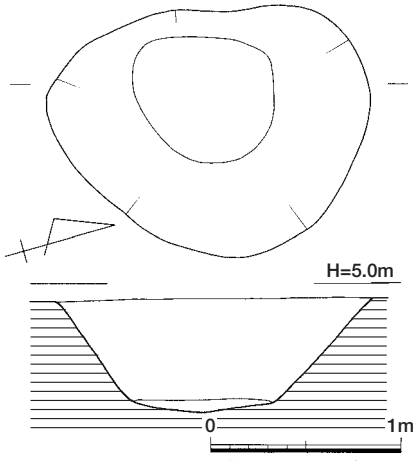


Fig.112　SK-1011遺構実測図（1 /40）

1）土器溜

SD－1102（Fig. 104）2区と3区にまたがって検出された溝状遺構。遺構内から土師器皿・坏を主体にパンケース40箱前後の量の土器が出土している。遺構内の土器の密度は極めて高く、

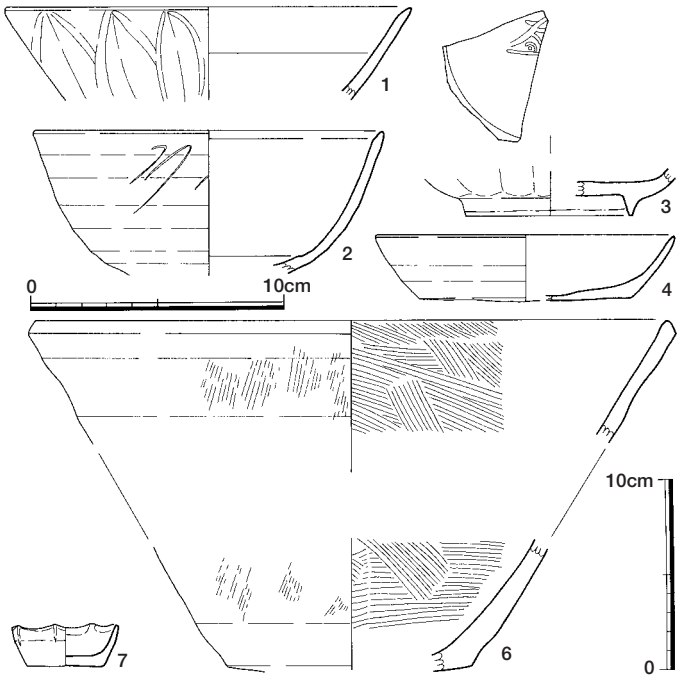


Fig.113　SK-1011出土遺物実測図(1～4・7：1／3　5・6：1／4)

土器投棄時点では溝内は土器で満たされていて、その後土砂の流入で土器の隙間に土が入り込んだような様相を呈する。また検出された土器はほとんどが上向きで重なっており、原位置で割れた破片が極めて多いことから、遺構外から土器を不規則に投げ込んだものではないと考えられる。

出土遺物（Fig. 105）出土遺物のほとんど全ては坏と皿で、法量的に3種類程度に分類でき、形態的な偏差はほとんどみられない。

SK－1020（Fig. 106）平面形は楕円形で、断面は鉢形を呈する。床面は平坦で、遺構内から土師器坏を主とする遺物が床面からやや浮いた状態で検出される。出土遺物のレベルが揃っていることから、土器投棄時期はほぼ同時だったと考えられる。

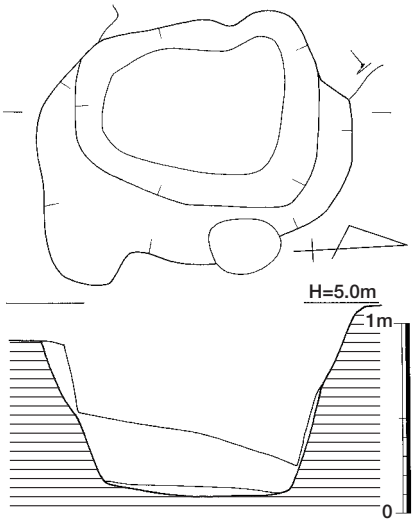


Fig.114　SK-1012遺構実測図(1 /40)

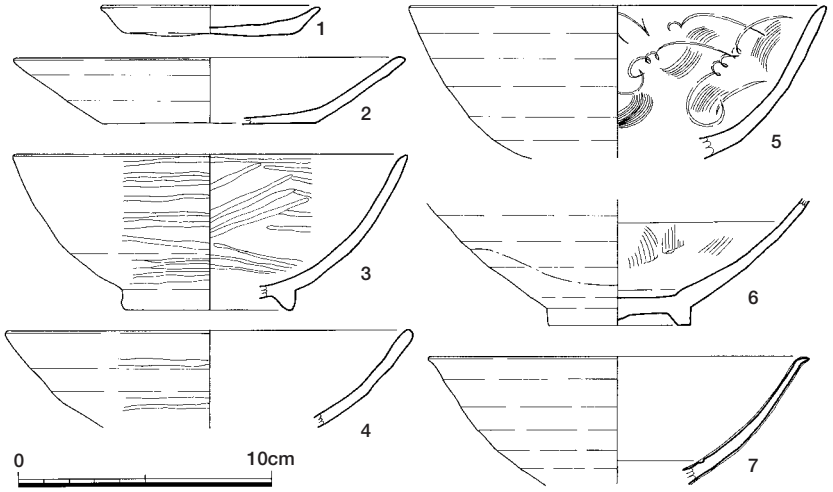


Fig.115　SK-1012出土遺物実測図（1 / 3）

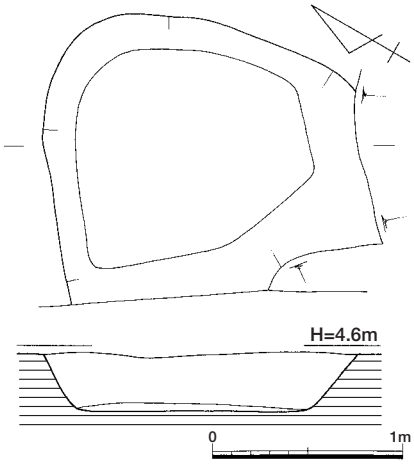


Fig.116　SK-1115遺構実測図(1 /40)

出土遺物（Fig. 107）1～6は土師器坏。ほぼ同形同大で、底部は糸切り、体部は底部から屈曲して内湾気味に開く。7～10は土師器皿。法量的には7のようなやや小型のものと8～10とに分類できる。いずれも底部は糸切りで全体に扁平。11は青磁碗。内面に片彫りによる花文を描く。外面は片彫りによる縦条文。12は青磁碗底部。見込みに櫛描文が施文される。13は陶器擂鉢。内面に9条1組の擂り目を施す。外面は赤褐色、内面は暗灰色を呈し、備前焼とみられる。

SK－1029（Fig. 108）平面形は楕円形で、断面形は箱形を呈

し、床面は平坦で壁は直に立ち上がる。遺構内から土師器皿・坏がまとまって出土しているが、検出状況は各土器のレベルがそろっておらず、徐々に埋没・投棄を繰り返したものと考えられる。

出土遺物（Fig. 109）1・2は土師器皿でいずれも底部は糸切り。1は器壁が厚く、体部は直に立ち上がる。2は体部がやや外反しながら立ち上がる。3・4は土師器坏。底部は糸切りで、3は外面底部端に粘土返りがつく。4は体部と底部の境界をナデて調整する。

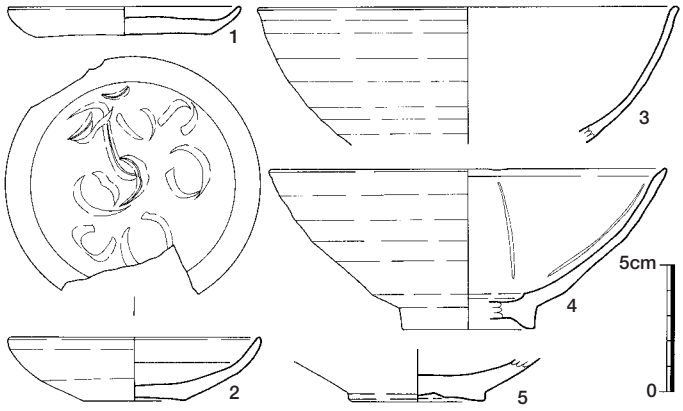


Fig.117　SK-1115出土遺物実測図（1 / 3）

2）土坑

SK－1001（Fig. 110）円形の遺構で、床面は平坦で壁は緩く開いて立ち上がる。覆土は暗灰褐色で遺構面の土質と極めて近く、検出・掘削は困難であった。遺構の性格は不明だが、廃棄土坑としてはやや形態的に整いすぎる感がある。方形竪穴土坑的な遺構が崩れたものである可能性もある。

出土遺物（Fig. 111）1・2は土師器皿。いずれも底部糸切り。1は底部と体部の境界に粘土が返り、体部は内湾する。2は体部が短く外反し、全体に扁平な形を呈する。3は青磁皿。体部は内湾しながら立ち上がる。内面見込みに片彫りで花文を施文する。4は白磁皿。見込みは一段低く段が付く。釉は薄緑色透明。5は瓦器椀。外面は横ナデ後横ミガキ。内面は横ミガキ。6は青磁椀。内面に片彫りと櫛描文を施文する。外面には縦櫛描文を施文する。7は白磁椀。口縁は短く外反し、内面に沈線を回す。釉は薄緑色で透明。8は青磁椀。外面に非常に粗い鎬蓮弁文を施文する。釉は薄青色で半透明。

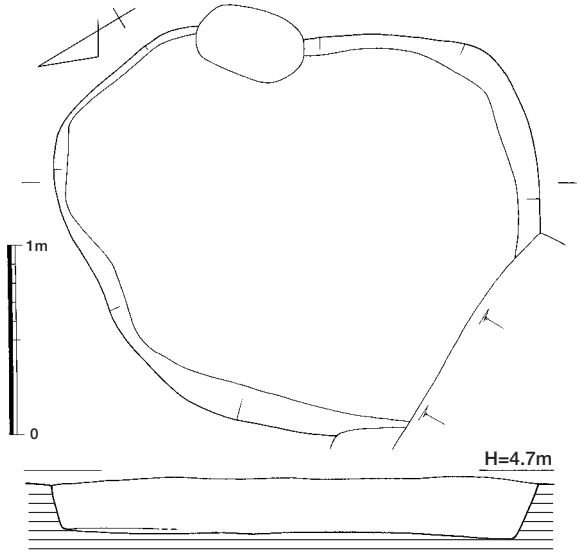


Fig.118　SK-1118遺構実測図（1 /40）

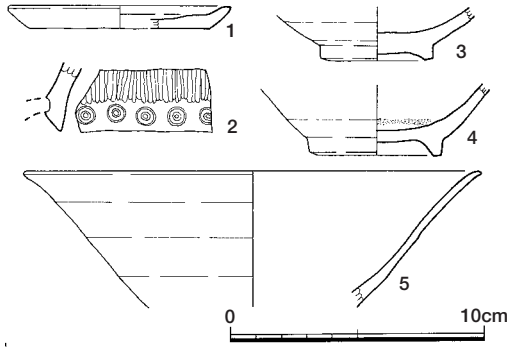


Fig.119　SK-1118出土遺物実測図（1 / 3）

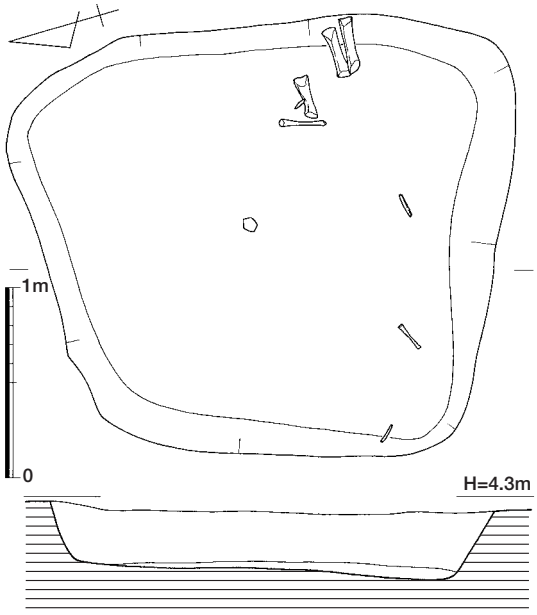


Fig.120　SK-1201遺構実測図（1 /40）

SK－1011（Fig. 112）平面形は楕円形に近い不整形

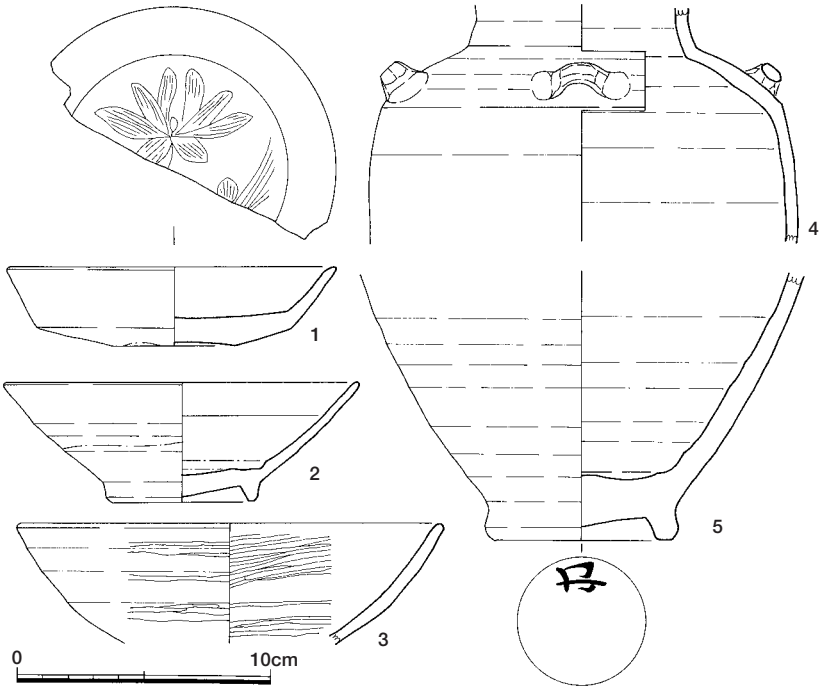


Fig.121　SK-1201出土遺物実測図（１／３）

で、下端は隅丸方形に近い形である。壁面は緩く開いて立ち上がる。遺構平面形や遺物内容からみて、建物遺構の一部というよりも廃棄土坑的な要素が強いと考えられる。

出土遺物（Fig. 113）１～３は青磁碗。1は外面にかなり粗い鎬蓮弁文を施文する。内面に段をつくる。2は外面に箆描きで線を書く。内面は見込みに段をもつ。釉は灰緑色半透明でやや厚め。3は外面に花弁文を彫り、内面に箆描きで魚文を描く。4は土師器坏で、底部は糸切りで板状痕が残る。5・６は陶器鉢で本来は同一個体であったとみられる。内面はハケ、外面はハケ後ナデ。7は陶器合子。口縁は波状ににに仕上げる。底部は糸切り。

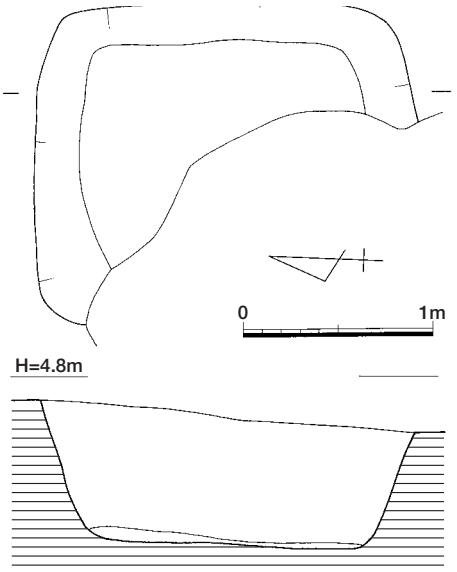


Fig.122　SK-1203遺構実測図（１/40）

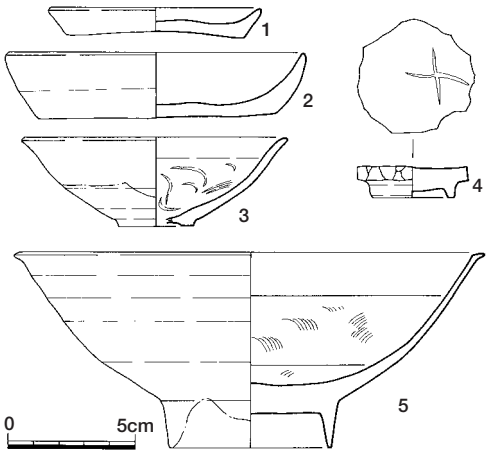


Fig.123　SK-1203出土遺物実測図（１／３）

SK － 1012（Fig. 114）

撹乱に切られていて形状がかなり崩れているが、下端形態から本来は隅丸方形であったと考えられる。床面は平坦で壁は角度をつけて立ち上がる。土壙墓とみられるが、遺構内からは人骨は出土していない。

出土遺物（Fig. 115）１は土師器皿。底部糸切りで、全体に扁平。2は土師器坏。底部は糸切りで径が小さく、体部は直線的に開く。搬入

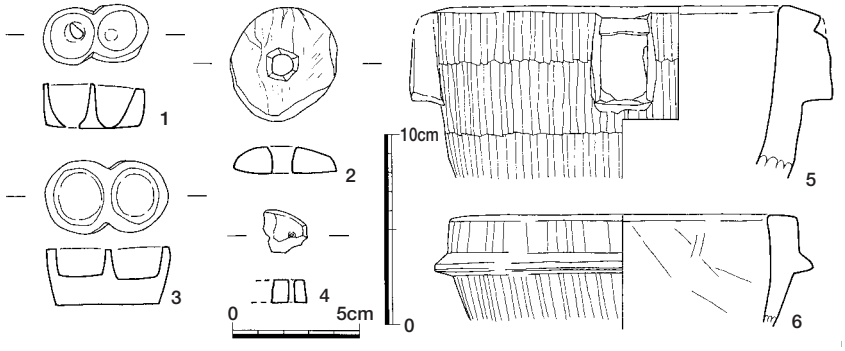


Fig. 124　包含層出土遺物実測図１（１～４：１／３　５・６：１／４）

品とみられる。3・4は瓦器椀。3は外面に横ナデ後横ミガキ、内面は交差ミガキ。4は外面は横ナデ後部分的なミガキで、内面はナデ。5・6は青磁碗。5は内面は片彫りと櫛描文を施す。釉は緑色透明。6は内面に縦方向の櫛描文を施文し、見込みを一段削り込む。釉は緑色透明。7は白磁碗。見込みに段をつくり、口縁は短く外反する。釉は灰白色透明で厚い。

SK－ 1115（Fig. 116）平面形は隅丸方形に近い形を呈する。床面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。廃棄土坑的な性格の遺構とみられる。

出土遺物（Fig. 117）1は土師器皿。底部と体部の境界は丸く、全体に扁平な形である。2は白磁皿。内面に片彫りで花文を描く。釉は薄緑色透明で底部のみ露胎。3は白磁碗。体部は丸く、口縁はごく短く外反する。釉は薄緑色透明。4・5は青磁碗。4は口縁部に5輪の輪花をつくり、内面は白堆線で区分する。内面見込みは一段削り込む。釉は薄黄緑色半透明。5は蛇目高台で、畳付、高台内側まで釉を背有される。釉は濃緑色半透明。越州窯産品とみられる。

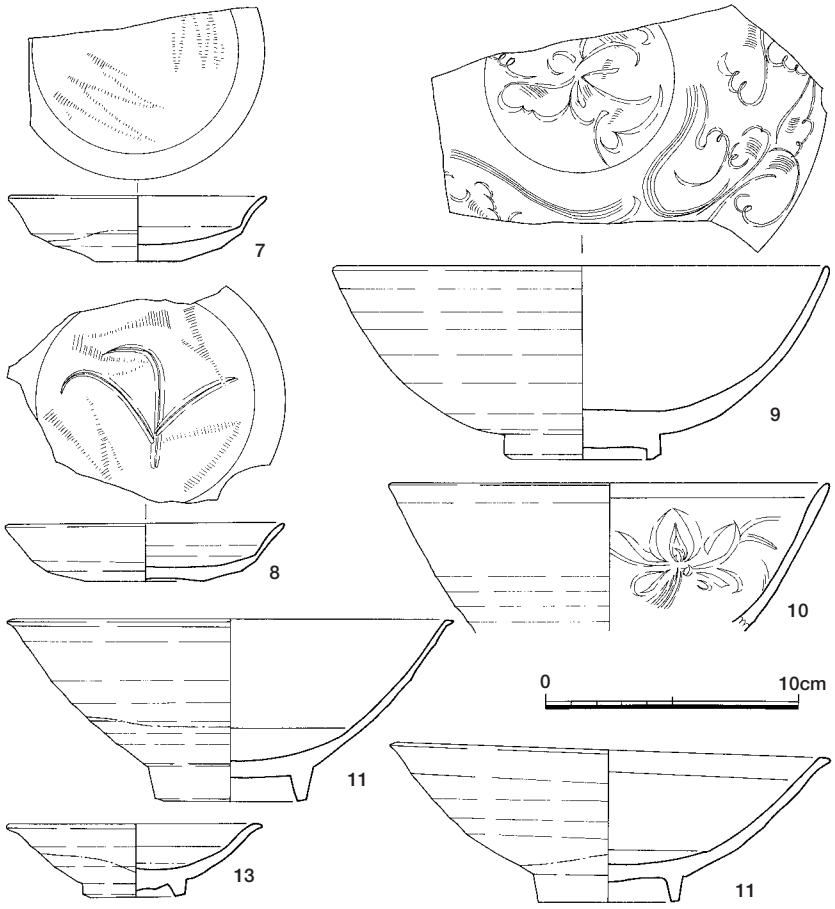


Fig.125　包含層出土遺物実測図2（1／3）

SK－1118（Fig. 118）平面形は台形に近い不整形で、床面は平坦で壁は直に立ち上がる。廃棄土坑とみられるが、確証はない。

出土遺物（Fig. 119）1は土師器皿。底部糸切りで体部は大きく開き、扁平な形になる。2は古墳時代の土師器二重口縁壺の口縁部。外面に連続竹管文を施文し、縦ミガキを施す。3・4は青磁碗で、いずれも高麗青磁の可能性がある。3は畳付に砂が付着する。内面のみ施釉され、外面は露胎で釉は暗青緑灰色を呈する。4は見込みに輪状の砂目痕がつく。釉は暗青灰色。5は白磁碗。体部は直線的で公園部付近は軽く外反する。釉は薄緑色半透明でやや粉っぽい。

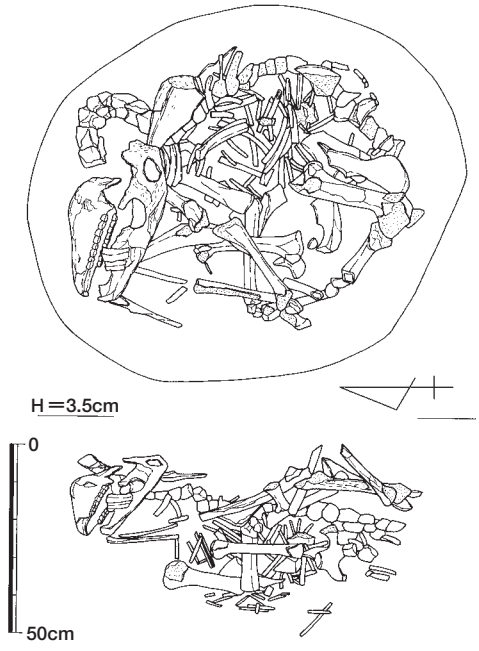


Fig.126　SE-2401馬骨実測図（1／20）

Tab.1　出土動物骨一覧

	地区	層位	大分類	小分類	部位名	左右	部分１	部分２	成長度	切痕	火熱	備考	時代
001	１区４面	SK1006西側	魚類		椎骨		椎体のみ	椎体長1.31cm	不明		青色化	刃物痕があるが新しい可能性が高い	古墳～古代
002	１区４面	SK1006西側	羊足類	ハイガイ	殻		周辺部欠損		小型	なし	なし	幅3.5cm	古墳～古代
003	１区４面	SK1006西側	哺乳類	シカ	歯	?	Ｍ１か Ｍ２		歯冠高1.74cm	なし	なし	元は１個だが細片化	古墳～古代
004	１区検出時		哺乳類	ウシ	脛骨	右	近位端欠損		骨化済み	全体に細かなカットマーク	なし	近位端欠損はイヌの咬痕による	13C
005	２区	４面上包含層	哺乳類	ウシ？	歯		細片		若？			歯冠ほぼ摩滅　乳歯か	古墳～古代
006	２区	４面上包含層	哺乳類	ウマ	中手骨？		幹部のみ	側面欠損	不明	切跡らしきものあり	不明	端部にイヌの咬痕	古墳～古代
007	２層　攪乱	３ T	哺乳類	ウシ	脛骨	右	近位部		骨化済み	ナタ痕・切痕有り		細片化	不明
008	３区	２面上包含層	魚類		椎骨		一部欠損					マグロ・カツオ等の大型魚類	13C 前半～後半
009	３区	２面上包含層	哺乳類		骨片				不明	あり	なし		13C 前半～後半
010	３区	２面上包含層	哺乳類		頭蓋骨片				不明	なし		中～小型種	13C 前半～後半
011	３区	２面上包含層	哺乳類	ウシ・ウマ	長骨		幹部のみ		不明	なし	なし	イヌ咬痕	13C 前半～後半
012	３区	２面上包含層	哺乳類	ウマ	左上顎歯３本		Ｐ２～Ｍ１		歯冠高1.86cm　成獣			日本小型ウマ標本と同じ大きさ	13C 前半～後半
013	３区	２面上包含層	哺乳類	ウマ	中手中足骨		遠位端		骨化済み	なし	不明		13C 前半～後半
014	３区	３面上包含層	魚類	マダイ	前鋤骨		上後鋤骨側棘切断	右半分切断	大型	あり	不明	梨割	12C 前半～中頃
015	３区	３面上包含層	哺乳類		長骨		幹部細片			なし			12C 前半～中頃
016	３区	３面上包含層	哺乳類	イノシシ・シカ	長骨		幹部のみ	細片	不明	不明	不明	表面ほとんど剥落	12C 前半～中頃
017	３区	３面上包含層	哺乳類	ウシ	下顎歯　１本		一部欠損						12C 前半～中頃
018	３区	３面上包含層	哺乳類	ウシ	中足骨		両端欠損		不明	不明	不明	イヌ咬痕　ネズミ咬痕　表面遺存不良	12C 前半～中頃
019	３区	３面上包含層	哺乳類	ウシ・ウマ	長骨		幹部のみ		不明	なし	不明	ねずみ咬痕	12C 前半～中頃
020	３区	３面上包含層	哺乳類	ウマ	右下顎歯		Ｐ３～Ｍ２のどれか		若～成獣	不明	不明	周囲エナメル質細片化	12C 前半～中頃
021	３区	３面上包含層	哺乳類	ウマ	上顎切歯　４本		左Ｉ１、右Ｉ１～Ｉ３		Ｉ２歯冠高5.4cm				12C 前半～中頃
022	３区	３面上包含層	哺乳類	ウマ	中足骨		近位端欠損		骨化済み	不明	不明	イヌ咬痕　表面剥落多い　遠位端新しい欠損	12C 前半～中頃
023	３区	３面上包含層	哺乳類	ウマ？	歯							細片	12C 前半～中頃
024	３区	３面上包含層	哺乳類	ウマ（ウシも）	細片								12C 前半～中頃
025	３区	３面上包含層	哺乳類	ヒト	肩甲骨	右	遠位部	遠位端欠損	不明	なし	不明		12C 前半～中頃
026	３区	４面上包含層	哺乳類										
027	３区	４面上包含層	哺乳類	ウシ	臼歯	左上顎	３本	１本は細片化	成～老獣	なし		残存歯冠高　3.1cm、5.0cm、5.4cm	古墳～古代
028	３区	４面上包含層	哺乳類	ウシ	左上顎歯		１本						古墳～古代
029	３区	４面上包含層	哺乳類	ウシ	上顎歯		Ｍ１か Ｍ２		歯冠高4.58cm				古墳～古代
030	３区	４面上包含層	哺乳類	ウシ？	上顎歯？							細片化	古墳～古代
031	３区	４面上包含層	哺乳類	ウマ	切歯		細片化						古墳～古代
032	SD2405		哺乳類	イノシシ	脛骨	右	近位部欠損		骨化済み	遠位部後面内側	なし	Bd3.31cm	12C 半～後半
033	SD2405		哺乳類	ヒト	上腕骨	左	幹部のみ		不明	なし	なし		12C 半～後半
034	SE2206		哺乳類	ウシ	右下顎歯１本		Ｐ４		歯冠高3.06cm	なし	なし	咬耗少ない	11C 後半～12C 前半
035	SE2206		哺乳類	ウシ	左上顎歯１本		Ｍ１～Ｍ３のどれか			なし	なし		11C 後半～12C 前半
036	SE2206		哺乳類	ウシ	左上顎歯１本		Ｐ２		歯冠高3.08cm	なし	なし	ほとんど咬耗無し	11C 後半～12C 前半
037	SE2206		哺乳類	ウシ	歯破片		細片					複数分あると思われる	11C 後半～12C 前半
038	SE2275		哺乳類		脛骨０ｒ大腿骨			内側のみ	未骨化	なし	なし	大きさ　イヌ・ネコ大	12C 中～後半
039	SE2275		哺乳類	不明	橈骨？	右	近位部	外側のみ	骨化済み	外面にあり	なし		12C 中～後半
040	SE2275		哺乳類	ウマ	上顎歯	右	Ｐ３～Ｍ１		Ｍ１歯冠高3.79cm	なし	なし		12C 中～後半
041	SE2275		哺乳類	ウマ	上顎歯	左	Ｐ２～Ｍ１とその周辺骨		Ｍ１歯冠高3.25cm	なし	なし		12C 中～後半
042	SE2275		哺乳類	シカ	距骨	右	遠位部		骨化済み	なし	なし		12C 中～後半
043	SE2306	掘方	哺乳類	イノシシ	下顎牙				大型		なし	細工痕跡なし　遺存不良	
044	SE2306	掘方	哺乳類	ウマ	上顎歯				残存長5.7cm			遺存不良	
045	SE2401		哺乳類		長骨		端部骨髄						13C 前半
046	SE2401		哺乳類	ウマ	下顎歯		１本		歯冠高4.25cm			遺存悪い	13C 前半
047	SE2401		哺乳類	ウマ	上顎歯	右	４本	Ｐ４～Ｍ３か	若？	なし	なし	Ｍ３？残存歯冠高7.12cm　短い物でも６ cm 以上	13C 前半
048	SE2401		哺乳類	ウマ	上腕骨		近位端関節面か		未骨化	なし	なし		13C 前半
049	SE2401		哺乳類	ウマ	切歯		１本		咬耗なし		なし		13C 前半
050	SE2401		哺乳類	ウマ	切歯	右	下顎　２本	Ｉ１とＩ２		なし	なし	遺存悪い　Ｉ１残存歯冠高4.74cm	13C 前半
051	SE2401		哺乳類	ウマ	長骨		幹部小片のみ		不明	なし	なし		13C 前半
052	SE2401		哺乳類	ウマ	脛骨	右	遠位端		骨化済み	なし	不明		13C 前半
053	SE2401		哺乳類	ウマ？	歯		乳歯か		若獣			歯根近くまで咬耗している	13C 前半
054	SE2401		哺乳類	ウマ？	肋骨		小片		不明	なし	なし		13C 前半
055	SE2401	Ｂ－１	哺乳類	ウマ	脛骨	右	近位端		近端骨化済み	なし	なし	遺存悪い　表面剥落　近端前側未骨化	13C 前半
056	SE2401	Ｂ－10（１）	哺乳類	ウマ？	寛骨	右	寛骨臼後半から坐骨前半		骨化済み	不明	不明		13C 前半
057	SE2401	Ｂ－10（１）	哺乳類	ウマ？	寛骨	左	寛骨臼周辺のみ		骨化済み	不明	不明		13C 前半
058	SE2401	Ｂ－10（２）	哺乳類	ウマ	寛骨	左	腸骨			不明	なし	遺存不良	13C 前半
059	SE2401	Ｂ－100	哺乳類	ウマ	肋骨		中央部		不明	不明	不明	水洗い	13C 前半
060	SE2401	Ｂ－101	哺乳類	ウマ	肋骨小片				不明		なし	イヌ咬痕か	13C 前半
061	SE2401	Ｂ－102	哺乳類	ウマ	肋骨		中央部		不明	なし	なし		13C 前半
062	SE2401	Ｂ－103	哺乳類	ウマ？	肋骨片	左	遠位端		不明	切痕？	なし	イヌの咬痕？	13C 前半
063	SE2401	Ｂ－104	哺乳類		肋骨小片か				不明		なし		13C 前半
064	SE2401	Ｂ－105	哺乳類	ウマ	肋骨				不明	なし	なし	イヌ咬痕か	13C 前半
065	SE2401	Ｂ－106	哺乳類	ウマ	肋骨		遠位部			なし	なし		13C 前半
066	SE2401	Ｂ－106	哺乳類	ウマ	肋骨片	右	遠位部		不明	なし	なし		13C 前半
067	SE2401	Ｂ－107	哺乳類？									小片	13C 前半
068	SE2401	Ｂ－108	哺乳類	ウマ	肋骨片		遠位部		不明	なし	なし	イヌの咬痕？	13C 前半
069	SE2401	Ｂ－109	不明										13C 前半
070	SE2401	Ｂ－11	哺乳類	ウマ	下顎	右	Ｐ２～Ｍ３部分		若獣	なし	不明	Ｐ３　6.71cm、Ｐ４　7.3、Ｍ１　7.37、Ｍ２　7.4cm Ｐ～Ｍ全部あり	13C 前半
071	SE2401	Ｂ－11	哺乳類	ウマ	下顎	左	下顎歯～下顎角まで　先端欠損			なし	不明	Ｐ２　5.28cm、Ｐ３　6.67cm、Ｐ４　7.41cm、 Ｍ２　7.44cm　Ｍ３　6.65cm　ＰからＭ全部あり	13C 前半
072	SE2401	Ｂ－11	哺乳類	ウマ	下顎	左	切歯	Ｉ１～Ｉ３	若獣			Ｉ３咬耗なし	13C 前半
073	SE2401	Ｂ－11	哺乳類	ウマ	下顎		一部頭蓋骨含む	細片		なし	なし	遺存悪い	13C 前半
074	SE2401	Ｂ－111	哺乳類	ウマ	肋骨小片		遠位端		不明	あり	なし	幅1.46cm	13C 前半
075	SE2401	Ｂ－112	哺乳類		肋骨？				不明	なし	なし	小片	13C 前半
076	SE2401	Ｂ－113	哺乳類	ウマ	肋骨		中央？		不明	なし	なし		13C 前半
077	SE2401	Ｂ－114	哺乳類	ウマ	肋骨		遠位側			細かな切痕	なし		13C 前半
078	SE2401	Ｂ－115	哺乳類	ウシ・ウマ	肋骨片		遠位側が			なし	なし	イヌの咬痕らしき傷あり	13C 前半
079	SE2401	Ｂ－116	哺乳類	ウマ	肋骨片		遠位側		不明	なし	なし	イヌの咬痕？	13C 前半
080	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	右下顎歯		Ｉ３		咬耗ほとんどなし				13C 前半
081	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	右上顎歯		Ｐ３～Ｍ２のどれか		歯冠高5.96cm	不明	不明	Ｌ＝2.82cm、Ｂ＝2.59cm	13C 前半
082	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	右上顎歯		Ｐ２		歯冠高5.91cm	不明	不明	Ｌ＝3.4cm、Ｂ＝2.29cm	13C 前半
083	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	下顎		下顎角			不明	不明		13C 前半
084	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	下顎	左	関節突起	外面のみ		なし	不明		13C 前半
085	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	下顎	左	下顎枝	近位端欠損	不明	なし	不明		13C 前半
086	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	後鋤骨		後鋤顎周辺		不明	不明	不明	遺存不良	13C 前半
087	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	左上顎歯		Ｐ４		歯冠高5.58cm	不明	不明	Ｌ＝2.98cm、Ｂ＝2.49cm	13C 前半
088	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	左上顎歯		Ｍ２		歯冠高5.89cm		不明	Ｌ＝2.78cm、Ｂ＝2.63cm	13C 前半
089	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	左上顎歯		Ｐ２	周辺上顎骨	歯冠高5.93cm	なし	不明	Ｌ＝3.43cm、Ｂ＝2.33cm	13C 前半
090	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	左上顎歯		Ｐ３		歯冠高7.01cm	不明	不明	Ｌ＝2.63cm、Ｂ＝2.47cm	13C 前半
091	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	左上顎歯		Ｍ３		歯冠高7.2cm				13C 前半
092	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	左上顎歯		Ｍ１		歯冠高5.89cm	なし	不明	Ｌ＝2.81cm、Ｂ＝2.67cm	13C 前半
093	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	手根骨	左						遺存不良	13C 前半
094	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	上顎	左	頬部			不明	不明	遺存不良	13C 前半
095	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	上顎切歯		右Ｉ１・左Ｉ１～Ｉ３	歯根欠損	Ｉ３咬耗少ない				13C 前半
096	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	中手骨	左	近位端のみ		骨化済み			遺存不良	13C 前半
097	SE2401	Ｂ－12	哺乳類	ウマ	頭蓋・下顎		小片多数					遺存不良	13C 前半
098	SE2401	Ｂ－13	哺乳類	ウマ	肩甲骨	右	中央部			不明	不明	遺存不良	13C 前半
099	SE2401	Ｂ－13	哺乳類	ウマ	肩甲骨	左	遠位端	後側		不明	不明	遺存不良	13C 前半
100	SE2401	Ｂ－13	哺乳類	ウマ	肋骨片	右	近位部のみ　４本	２個は近端欠損	骨化済み	不明	不明	細片化	13C 前半
101	SE2401	Ｂ－14	哺乳類	ウマ	椎骨		椎体３～４個分					遺存悪い	13C 前半
102	SE2401	Ｂ－15	哺乳類	ウマ	椎骨		椎体４～５個分		肋半数未骨化	不明	不明	関節は連結１個、他はズレ、一カ所は90度ズレ	13C 前半
103	SE2401	Ｂ－16	哺乳類	ウマ	肩甲骨		肩甲棘根本部	小片	不明	なし	なし		13C 前半
104	SE2401	Ｂ－16	哺乳類	ウマ	椎骨　７個分		椎体のみ（１個のみ椎弓・棘突起一部残）		椎窩ほとんど未骨化	なし	なし	椎頭は半分骨化済み　現生資料より GL 短い　幅はほぼ同じ	13C 前半
105	SE2401	Ｂ－17	哺乳類	ウマ？	骨小片								13C 前半
106	SE2401	Ｂ－18	哺乳類	ウマ	椎骨		椎体　５個分		不明	不明	不明	出土時は関節が分離、かなりズレていた	13C 前半
107	SE2401	Ｂ－19	哺乳類	ウマ	仙骨		椎体のみ　２個体分		椎頭窩未骨化	なし		遺存不良	13C 前半
108	SE2401	Ｂ－19	哺乳類	ウマ	椎骨　４個体		椎体	肋骨少量	椎頭窩未骨化多い	なし		遺存不良	13C 前半
109	SE2401	Ｂ－１北	哺乳類	ウマ？	長骨		幹部のみ		不明	なし	なし	細片化	13C 前半
110	SE2401	Ｂ－２	哺乳類	ウマ	大腿骨	右	近位部		骨化済み	なし	なし	Dc4.61cm	13C 前半
111	SE2401	Ｂ－２	哺乳類	ウマ	大腿骨	右	遠位端		骨化済み	なし	なし	細片化　計測不能	13C 前半
112	SE2401	Ｂ－20	哺乳類	ウマ？	仙骨		一部		椎頭窩未骨化	なし	なし	遺存不良	13C 前半
113	SE2401	Ｂ－21	哺乳類	ウマ	椎骨		尾椎小片					遺存不良	13C 前半
114	SE2401	Ｂ－21	哺乳類	ウマ	椎骨		腰椎１個	仙骨一部	腰椎骨化済み			仙骨は各椎が分離　遺存不良	13C 前半
115	SE2401	Ｂ－21	哺乳類	ウマ	椎骨		尾椎		椎窩未骨化				13C 前半
116	SE2401	Ｂ－22	哺乳類	ウマ	肋骨片		中央部		不明	なし	なし	細片化	13C 前半
117	SE2401	Ｂ－23	哺乳類	ウマ	肋骨片		中央部		不明	なし	なし	細片化	13C 前半
118	SE2401	Ｂ－24	哺乳類	ウマ	肋骨	右？	中央部		不明	なし	なし	細片化	13C 前半
119	SE2401	Ｂ－25	哺乳類	ウマ	肋骨片		中央部		不明	なし	なし	細片化	13C 前半
120	SE2401	Ｂ－27	哺乳類	ウマ	肋骨片	左	中央部		不明	なし	なし	細片化	13C 前半
121	SE2401	Ｂ－28	哺乳類	ウマ？	肋骨	左	近位部のみ	近位端欠損	不明	切痕か咬痕か不明	なし	遺存悪い	13C 前半
122	SE2401	Ｂ－29①	哺乳類	ウマ	腰椎		ＶＬ６	椎体のみ	椎頭窩未骨化	なし	なし		13C 前半
123	SE2401	Ｂ－29②	哺乳類	ウマ？	仙骨	右	仙骨翼？		済み	なし	なし		13C 前半
124	SE2401	Ｂ－３	哺乳類	ウマ	距骨	左			骨化済み	なし	なし	表面剥落　遺存不良	13C 前半
125	SE2401	Ｂ－３	哺乳類	ウマ	踵骨	左	遠位端欠損	表面剥落	骨化済み	なし	なし	遺存不良	13C 前半
126	SE2401	Ｂ－30	哺乳類	ウマ？	仙骨		VS の４か５	椎体と棘突起根元	椎頭窩未骨化	不明	なし	切痕は新しい可能性有り	13C 前半
127	SE2401	Ｂ－31①	哺乳類	ウマ？	仙骨？		VS の４か５？	椎体と椎弓板の一部	椎頭窩未骨化	一部刃物による切断	なし	切痕は新しい可能性有り	13C 前半
128	SE2401	Ｂ－31②	哺乳類	ウマ？	仙骨？		椎窩関節板		椎窩未骨化	不明	不明		13C 前半
129	SE2401	Ｂ－32	哺乳類	ウマ	橈骨？		幹部のみ		不明	なし	不明	細片化	13C 前半
130	SE2401	Ｂ－33	哺乳類	ウマ？	肋骨	右？	近位部	近位端欠損	不明	なし	なし		13C 前半
131	SE2401	Ｂ－34	哺乳類	ウマ	肋骨		近位部	近位端欠損	不明	なし	なし	残存長6.3cm、幅1.9cm	13C 前半
132	SE2401	Ｂ－35	哺乳類	ウマ	肋骨		幹部		不明	なし	なし	残存長10.5cm、幅２ cm	13C 前半
133	SE2401	Ｂ－36	哺乳類	ウマ	肋骨		遠位部		不明	なし	なし		13C 前半
134	SE2401	Ｂ－37	哺乳類	ウマ	肋骨		近位部小片		不明	なし	不明		13C 前半
135	SE2401	Ｂ－39	哺乳類	ウマ	上腕骨	左	遠位部		骨化済み	なし	なし		13C 前半
136	SE2401	Ｂ－39	哺乳類	ウマ	橈骨	左	近位部		骨化済み	なし	なし		13C 前半
137	SE2401	Ｂ－４	哺乳類	ウマ	指骨（基節骨）		近位部		骨化済み	不明	不明	表面遺存不良	13C 前半
138	SE2401	Ｂ－40	哺乳類	ウマ	手根骨	右			骨化済み	なし	なし	５個程	13C 前半
139	SE2401	Ｂ－40	哺乳類	ウマ	中手骨	右							13C 前半
140	SE2401	Ｂ－40	哺乳類	ウマ	中手骨	左	Mc II		骨化済み	あり	なし	022に付く	13C 前半
141	SE2401	Ｂ－40	哺乳類	ウマ	中手骨	左？			骨化済み	なし	なし	遠位部２つに破損	13C 前半
142	SE2401	Ｂ－41	哺乳類	ウマ	手根骨				骨化済み	なし	なし		13C 前半
143	SE2401	Ｂ－41	哺乳類	ウマ	手根骨				骨化済み	なし	なし		13C 前半
144	SE2401	Ｂ－41	哺乳類	ウマ	手根骨	右	完形		骨化済み	なし	なし		13C 前半
145	SE2401	Ｂ－42	哺乳類	ウマ	不明							遺存不良	13C 前半
146	SE2401	Ｂ－43	哺乳類	ウマ	大腿骨		近位端小片	関節臼のみ	未骨化	なし	なし		13C 前半
147	SE2401	Ｂ－43	哺乳類	ウマ	肋骨		幹部小片		不明	あり	不明	遺存不良	13C 前半
148	SE2401	Ｂ－44	哺乳類	ウマ？	肋骨片				不明	不明	不明	極小片	13C 前半
149	SE2401	Ｂ－45	哺乳類	ウマ	寛骨	左	恥骨後枝欠損	腸骨一部欠損	骨化済み　一部未骨化	あり	なし	筋肉粗面の発達弱い	13C 前半
150	SE2401	Ｂ－46	哺乳類	ウマ？	肋骨	右？	近位部小片		不明	なし	なし		13C 前半
151	SE2401	Ｂ－47	哺乳類	ウマ？	肋骨		遠位部小片		不明	なし	なし	幅1.44cm	13C 前半
152	SE2401	Ｂ－48	哺乳類	ウマ？	肋骨		遠位部？小片		不明	なし	なし		13C 前半
153	SE2401	Ｂ－49	哺乳類	ウマ	肋骨		小片			なし	なし		13C 前半
154	SE2401	Ｂ－５	哺乳類	ウマ	手・足根骨		破片４点		不明	なし	なし		13C 前半
155	SE2401	Ｂ－５	哺乳類	ウマ？	長骨		幹部			なし			13C 前半
156	SE2401	Ｂ－50	哺乳類	ウマ	肩甲骨	右	遠位部		骨化済み	なし	なし		13C 前半
157	SE2401	Ｂ－51	哺乳類	ウマ？	肋骨		遠位部小片			なし	なし		13C 前半
158	SE2401	Ｂ－52	哺乳類	ウマ？	肋骨		小片		不明	なし	なし		13C 前半
159	SE2401	Ｂ－53	哺乳類	ウマ？	肋骨		中央部小片		不明	なし	なし	幅1.76cm	13C 前半
160	SE2401	Ｂ－54	哺乳類	ウマ	肋骨		小片			なし	なし		13C 前半

161	SE2401	B－55	哺乳類	ウマ	肋骨		小片		不明	なし	なし		13C 前半
162	SE2401	B－56	哺乳類	ウマ？	肋骨		小片			なし	なし		13C 前半
163	SE2401	B－57	哺乳類	ウマ	肋骨		小片		不明	なし	なし		13C 前半
164	SE2401	B－58	哺乳類	ウマ	中足骨		Mt II		骨化済み	なし	なし		13C 前半
165	SE2401	B－59	哺乳類	ウマ	肋骨片					なし	なし		13C 前半
166	SE2401	B－59	哺乳類	ウマ？	肋骨		中央部小片			なし	なし	幅1.56　イヌ咬痕あり	13C 前半
167	SE2401	B－6	哺乳類	ウマ	中足骨	右	遠位部		遠位端骨化済み	破片に切痕あるが本体と接合しない		II・IV未骨化　犬咬痕	13C 前半
168	SE2401	B－61	哺乳類	ウマ	肋骨片		近位側		不明	なし	なし		13C 前半
169	SE2401	B－62	哺乳類	ウマ	胸椎		椎体後半欠損	椎弓板あり	椎頭骨化済み	なし	なし		13C 前半
170	SE2401	B－63	哺乳類	ウマ	肋骨片	左？	中央部		不明	なし	なし		13C 前半
171	SE2401	B－64	哺乳類	ウマ	肋骨片	右	中央部		不明	細かな切痕あり	なし		13C 前半
172	SE2401	B－65	哺乳類	ウマ	肋骨片	左			不明	なし	なし		13C 前半
173	SE2401	B－66	哺乳類	ウマ	大腿骨	左	近位関節面欠損	遠位外側顆欠損	近端未骨化　遠端済み	近位側に集中	なし	SD3.32cm	13C 前半
174	SE2401	B－67	哺乳類	ウマ	肋骨片		遠位部側		不明	なし	なし		13C 前半
175	SE2401	B－68	哺乳類	ウマ	肋骨片		遠位端		不明	なし	なし		13C 前半
176	SE2401	B－69	哺乳類	ウマ	椎骨		尾椎	椎体のみ	椎頭窩未骨化	なし	なし		13C 前半
177	SE2401	B－7	哺乳類	ウマ	指骨	右	基節骨	近位部	骨化済み			遺存悪い	13C 前半
178	SE2401	B－70	哺乳類	ウマ？	肋骨片		遠位端		不明	切痕？	なし		13C 前半
179	SE2401	B－71	哺乳類	ウマ？	肋骨片				不明	なし	なし		13C 前半
180	SE2401	B－72	哺乳類	ウマ？	肋骨片		遠位側か？		不明	なし	なし		13C 前半
181	SE2401	B－74	哺乳類	ウマ	肋骨片				不明	なし	なし		13C 前半
182	SE2401	B－74	哺乳類	ウマ？	肋骨片		中央部		不明	なし	なし	ウマにしては細い	13C 前半
183	SE2401	B－76	哺乳類	ウマ	肋骨片		中央部		不明	なし	不明		13C 前半
184	SE2401	B－77	哺乳類	ウマ？	肋骨		中央部		不明	内面にあり	なし	細い	13C 前半
185	SE2401	B－79	哺乳類	ウマ	肋骨小片		中央部		不明	なし	なし		13C 前半
186	SE2401	B－8	哺乳類	ウマ	中手・中足骨		遠位部		骨化済み	不明	不明	遺存悪く細片化	13C 前半
187	SE2401	B－80	哺乳類	ウマ	肋骨小片		中央部		不明	なし	なし		13C 前半
188	SE2401	B－81	哺乳類	ウマ？	肋骨		中央部		不明	なし	なし		13C 前半
189	SE2401	B－83	哺乳類	ウマ？	肋骨片		中央部		不明	なし	なし		13C 前半
190	SE2401	B－84	哺乳類	ウマ	尺骨	右	一部欠損		近端未骨化	なし	不明		13C 前半
191	SE2401	B－84	哺乳類	ウマ	肋骨片					なし	なし		13C 前半
192	SE2401	B－84	哺乳類	ウマ	肋骨片					なし	なし		13C 前半
193	SE2401	B－85	哺乳類	ウマ	肋骨小片		中央部		不明	なし	なし		13C 前半
194	SE2401	B－87	哺乳類	ウマ	大腿骨	右	近位端のみ	大転子一部欠損	骨化まもない	なし	なし		13C 前半
195	SE2401	B－87	哺乳類	ウマ	橈骨	右	遠位側細片化		骨化済み	細かな切痕	なし	Bp7.16cm、Bd6.05cm	13C 前半
196	SE2401	B－88	哺乳類	ウマ	上腕骨	右	近位部一部欠損		遠端骨化済み　近端未骨化	あり　遠端にナタ痕	なし	Bd 約6.7cm	13C 前半
197	SE2401	B－88	哺乳類	ウマ？	肋骨片		中央部分	不明	なし	なし			13C 前半
198	SE2401	B－89	哺乳類	ウマ？	肋骨片		中央部		不明	なし	なし	ウマにしては表面凹凸少ない	13C 前半
199	SE2401	B－9	哺乳類									中型動物	13C 前半
200	SE2401	B－92	哺乳類	ウマ？	椎骨		尾椎		椎頭窩未骨化	なし	なし	径1.5cm　長さ2.3cm	13C 前半
201	SE2401	B－93	哺乳類	ウマ？	肋骨片		中央部		不明	なし	なし		13C 前半
202	SE2401	B－94	哺乳類	ウマ	肋骨	右	遠位部		不明	内面にあり	なし	切痕と言うより引っ掻いた感じ	13C 前半
203	SE2401	B－95	哺乳類	ウマ	肋骨？				不明	不明	不明	軟骨部分か	13C 前半
204	SE2401	B－96	哺乳類	ウマ	肋骨片				不明	なし	なし	イヌ咬痕？	13C 前半
205	SE2401	B－97	哺乳類	ウマ	肋骨	右	中央部		不明	有り	なし	幅1.74cm	
206	SE2401	B－98	哺乳類	ウマ	肋骨小片				不明	なし	なし	イヌ咬痕？	13C 前半
207	SE2401	B－98	哺乳類？									径1.5cm　スポンジ状	13C 前半
208	SE2401	B－99	哺乳類	ウマ	肋骨小片				不明	あり	なし		13C 前半
209	SE2401	掘方最下層	哺乳類	ウシ	左上顎歯		M１～M３のどれか		残存歯冠高8.3cm	不明		エナメル質細片化	13C 前半
210	SE2401	最下層	哺乳類									径７cm　スポンジ状	13C 前半
211	SE2401	最下層	哺乳類		肋骨片？								13C 前半
212	SE3005	掘方	哺乳類	イヌ？	中手・足骨		近位部	細片化					12C 中～後半
213	SE3005	掘方	哺乳類	イノシシ・シカ	長骨小片							イヌ咬痕あり	12C 中～後半
214	SE3005	掘方	哺乳類	ウマ	右上顎歯　１本		Ｐ３～Ｍ２のいずれか		歯冠高4.86cm				12C 中～後半
215	SE3104		哺乳類		肋骨		中央部					小動物　大きさはイタチ程度	11C 後半～12C 前半
216	SE3203		魚類	マダイ	前上顎骨	左				なし	不明		11C 後半～12C 前半
217	SE3203		哺乳類		長骨		幹部小片		不明	なし	なし		11C 後半～12C 前半
218	SE3203		哺乳類	シカ	踵骨	左	両端欠損		骨化済み	前面に解体痕	不明		11C 後半～12C 前半
219	SK1002		魚類	マダイ	第１血管間棘		先端欠損			なし	白色化？		13C 前半～後半
220	SK1002		哺乳類	ネコ・テン？	大腿骨	右	遠位端	外側顆欠損	骨化済み	なし	黒色化	ネコ大でテンに似ている	13C 前半～後半
221	SK1003		哺乳類		小片								13C 前半～後半
222	SK1003		哺乳類	ウシ	上顎歯		エナメル質片						13C 前半～後半
223	SK1003	NO.11	哺乳類		細片								13C 前半～後半
224	SK1003	NO.01	哺乳類	ウシ	中足骨	左	近位部		骨化済み	あり	なし	ネズミ？の咬痕あり　かなり小型	13C 前半～後半
225	SK1003	NO.01	哺乳類	シカ	距骨		一部側面欠損		骨化済み		なし	ネズミ？引っ掻き痕あり	13C 前半～後半
226	SK1003	NO.02	哺乳類	ウシ	中手・中足骨		遠位部		骨化済み	あり	なし	細片	13C 前半～後半
227	SK1003	NO.05	哺乳類		指骨（基節骨）		近位部	右半分	骨化済み	不明	不明		13C 前半～後半
228	SK1003	NO.06											13C 前半～後半
229	SK1003	NO.07	哺乳類		長骨小片		幹部のみ					遺存悪い	13C 前半～後半
230	SK1003	NO.09	哺乳類		長骨細片								13C 前半～後半
231	SK1003	NO.10	哺乳類		長骨小片					なし			13C 前半～後半
232	SK1003	NO.12										イヌの咬痕あり	13C 前半～後半
233	SK1009		哺乳類		上腕骨		近位部	後側のみ	未骨化	なし	なし	タヌキ大	13C 前半～後半
234	SK1009		哺乳類	シカ	距骨	右	ほぼ完形		骨化済み	上面中央部	なし	GL3.89cm.009と同一個体	13C 前半～後半
235	SK1009		哺乳類	シカ	大腿骨？	右？	近位部	近位端欠損	骨化済み	あり	なし	前面に細かなカットマーク　割れ口スパイラル	13C 前半～後半
236	SK1009		哺乳類	シカ	中手骨	右	近位側欠損		骨化済み	なし	なし	Ｂｄ　2.79cm	13C 前半～後半
237	SK1009		哺乳類	シカ	中足骨	右？	遠位部のみ	遠位端欠損	骨化済み	なし	なし		13C 前半～後半
238	SK1009		哺乳類	シカ	脛骨	右？	近位部	近位端欠損	不明	あり	なし	遺存不良　未洗い	13C 前半～後半
239	SK1009		哺乳類	シカ	踵骨	右	近端欠損	遠位端欠損	骨化済み	外面側	なし		13C 前半～後半
240	SK1009		哺乳類	シカ	踵骨	右	完形		骨化済み	近位外面にあり	なし	GL7.42cm、GB2.26cm	13C 前半～後半
241	SK1012	下層黒色土	哺乳類		長骨片							中～大型動物　細片化	13C 前半～後半
242	SK1014		哺乳類	イノシシ	尺骨	右	近位部		骨化済み	なし	なし		13C 前半～後半
243	SK1017		哺乳類	ウシ・ウマ	上腕骨	左？	遠位部	遠端関節欠損	不明	なし	なし	細片化	13C 前半～後半
244	SK1025		哺乳類		長骨		細片化		不明	あり	なし	複数本混在している	13C 前半～後半
245	SK1028		哺乳類		小片							担当者所見は人骨	13C 前半～後半
246	SK1028		哺乳類		長骨		幹部のみ		不明	あり	なし	ウシ・ウマ大型獣	13C 前半～後半
247	SK1030		哺乳類	ウシ	上顎歯				不明	なし	なし	細片	13C 前半～後半
248	SK1102	下層	哺乳類		上腕骨		遠位端	細片	不明	あり	不明	ネズミ咬痕	13C 前半～後半
249	SK1201		哺乳類	イヌ	下顎	右	下顎枝欠損		咬耗進んでいる	不明	不明	Ｍ１　Ｌ＝2.03cm	13C 前半～後半
250	SK1201		哺乳類	イヌ	上腕骨	左	大転子欠損		骨化済み	あり	なし	GLC　14.14cm	13C 前半～後半
251	SK1201		哺乳類	ウシ・ウマ	手足根骨		一部欠損		骨化済み	なし	なし		13C 前半～後半
252	SK1201	NO 3	哺乳類	ウマ	上腕骨	右	遠位部		骨化済み	あり	なし	遠端にイヌ咬痕	13C 前半～後半
253	SK1201	NO 1	哺乳類	ウマ	中足骨	右	遠位部		骨化済み	なし	なし	遺存悪い　イヌ咬痕	
254	SK1201	NO14	哺乳類	ウマ	脛骨	右	近位端欠損	遠位端僅かに欠く	骨化済み	あり	なし	Bd　6.87cm　イヌ咬痕あり	13C 前半～後半
255	SK1201	NO15	哺乳類	ウマ	上腕骨？	右	両端欠損	幹部のみ	骨化済み	不明	不明	細片化しつつある　やや小型か	13C 前半～後半
256	SK1201	NO 2	？		細片								13C 前半～後半
257	SK1201	NO 6	？										13C 前半～後半
258	SK1201	NO 7	哺乳類		長骨		幹部のみ		不明	なし	なし		13C 前半～後半
259	SK1201	NO 9	哺乳類	ウシ・ウマ	長骨		骨片						13C 前半～後半
260	SK1202		哺乳類	ウシ・ウマ	歯　小片							歯冠高1.14cm　100と同一個体か？	13C 前半～後半
261	SK1202		哺乳類	ウマ	歯		細片化		乳歯？			小型　歯冠高2.5cm	13C 前半～後半
262	SK1214		貝類	マガキ	殻　（深い方）					もろい		遺存長　9.5cm　遺存不良	13C 前半～後半
263	SK1214		腹足類									中～大型種	13C 前半～後半
264	SK1214		哺乳類	ウシ	脛骨	右	近位部	内側関節面欠損	骨化済み	細かな切痕有り	なし		13C 前半～後半
265	SK1214		哺乳類	ウシ	脛骨	右	遠位端		骨化済み	あり	なし	全体にナタ痕と細かな切痕	13C 前半～後半
266	SK1214		哺乳類	ウシ・ウマ	頸椎		後関節突起	左右一体		不明	なし		13C 前半～後半
267	SK1214		哺乳類	ウシ？	大腿骨	左	遠位端	前半部欠損	未骨化	あり	なし		13C 前半～後半
268	SK1214		哺乳類	ウマ	肩甲骨	右	遠位端		骨化済み	内面にあり	不明	内面側にイヌの咬痕らしきものあり	13C 前半～後半
269	SK1214		哺乳類	ウマ	切歯		上顎？					左Ｐ１～Ｐ３　右Ｐ２？	13C 前半～後半
270	SK1214		哺乳類	ウマ	中手骨	左	近位部		骨化済み	あり	なし	前面に無数の切痕　イヌ咬痕	13C 前半～後半
271	SK1214		哺乳類	ウマ	頭蓋骨		後頭顆		不明	なし	なし	左右一対　イヌ咬痕か	13C 前半～後半
272	SK1214		哺乳類	ウマ？	頸椎		椎体後半	後関節突起	骨化済み	新しい	なし		13C 前半～後半
273	SK1214		哺乳類	シカ	脛骨	左	遠位部		骨化済み	遠位端外面	不明		13C 前半～後半
274	SK1214		哺乳類	不明	脛骨	右	遠位部欠損		近端未骨化　幼獣	全体に細かな切痕	不明	イヌ咬痕	13C 前半～後半
275	SK1214		哺乳類	ウマ	右下顎歯　１本		Ｐ４かＭ１		歯冠高約5.3cm			遺存不良	
276	SK2002		哺乳類	シカ	角片				不明	白色化		鋸で薄鉾状に切断　骨角器原料か	12C 中～後半
277	SK2051		哺乳類	ウシ	上顎歯							細片化	12C 中～後半
278	SK2054		哺乳類	ウマ	長骨		幹部小片		不明	なし	なし	ややスパイラル	12C 中～後半
279	SK2054		爬虫類	スッポン？						なし	不明		11C 後半～12C 前半
280	SK2056		哺乳類	イノシシ	脛骨	右	遠位部		骨化済み	なし	なし	Bd3.29cm　Dd3.38cm	12C 中～後半
281	SK2056		哺乳類	ウシ	距骨	左	ほぼ完形		骨化済み	なし	なし	GL6.34cm　Bd3.98cm	12C 中～後半
282	SK2056		哺乳類	ウシ	足根骨								12C 中～後半
283	SK2056		哺乳類	ウシ	足根骨								12C 中～後半
284	SK2056		哺乳類	ウシ	足根骨	左	近位部		骨化済み	なし	なし	遠位部は調査時に切断	12C 中～後半
285	SK2056		哺乳類	ウシ	中手骨	左	近位部		骨化済み	なし	なし	近位部にイヌの咬痕	12C 中～後半
286	SK2056		哺乳類	ウシ	脛骨	左	近位端欠損		骨化済み	なし	なし	Bd5.6cm	12C 中～後半
287	SK2056		哺乳類	ウシ	踵骨	左	両端欠損		骨化済み	なし	なし		12C 中～後半
288	SK2103		貝類	アワビ・カキ	殻内側小片							僅かに真珠光沢がみられる	12C 中～後半
289	SK2126		哺乳類	ウシ	下顎	右	Ｍ２・Ｍ３と周辺下顎骨体			あり	なし	Ｍ２歯冠高4.45cm、Ｍ３は5.29cm　下顎骨は細片化	12C 中～後半
290	SK2126		哺乳類	ウシ	上顎歯		１～２本分細片		歯冠高約3.3cm				12C 中～後半
291	SK2138	NO 2	哺乳類		小片								12C 中～後半
292	SK2138	NO 4	哺乳類	イノシシ・シカ	脛骨	右？	近位部	前方部欠損	骨化済み	不明	不明	遺存悪い	12C 中～後半
293	SK2138	NO 4	哺乳類	シカ？	上腕骨	左	遠位端のみ		骨化済み	不明	不明	遺存悪い	12C 中～後半
294	SK2138	NO 5	哺乳類	シカ	距骨	左	距骨滑車欠損		骨化済み	なし	なし		12C 中～後半
295	SK2138	NO 6	哺乳類	ウシ	中手・中足骨		遠位端関節部		骨化済み	なし	なし	細片化	12C 中～後半
296	SK2312		哺乳類		歯と上顎一部		細片化						12C 中～後半
297	SK2319		哺乳類	イルカ・クジラ類	椎骨		椎体の１／３のみ		骨化済み	なし	なし		12C 中～後半
298	SK2319	3区側	哺乳類	ウマ	右上顎歯		１本		若獣？			小型　乳歯か？　歯冠高1.83cm	12C 中～後半
299	SK2402		哺乳類	ウマ	上顎歯	右			老獣			歯冠高2.04cm	12C 中～後半
300	SK2406		哺乳類	イノシシ・シカ	脛骨		遠位側	細片化	骨化済み	あり	不明		12C 中～後半
301	SK2410		哺乳類	ウマ	上腕骨	右	大・小結節欠損	遠位端欠損	骨化済み	あり	なし	GLC　24.8cm	12C 中～後半
302	SK3044		哺乳類	シカ	上腕骨	右	遠位部	外側上顆欠損	骨化済み	関節周辺に集中	なし	イヌ咬痕？あり	11C 後半～12C 前半
303	SK3102		哺乳類		長骨		細片化		不明			イヌ？咬耗有り	11C 後半～12C 前半
304	SK3202		哺乳類	イノシシ・シカ？	長骨		細片化					遺存不良	11C 後半～12C 前半
305	SK3202		哺乳類	ウマ	左下顎歯		Ｐ３～Ｍ２のどれか		歯冠高3.74cm				11C 後半～12C 前半
306	SK3202		哺乳類	ウマ	左下顎歯		Ｐ３～Ｍ２のどれか		歯冠高2.4cm				11C 後半～12C 前半
307	SK3202		哺乳類	ウマ	歯		細片					３～４本分	11C 後半～12C 前半
308	SK3202		哺乳類	ウマ	上顎歯	右？	Ｐ３～Ｍ２のどれか		歯冠高5.2cm				11C 後半～12C 前半
309	SK4014	1層	哺乳類	イノシシ	指骨（基節骨）		完形		骨化済み	上下面にあり	灰色化	GL2.14cm と小型	不明
310	SK4014	1層	哺乳類	イノシシ・シカ	中手足骨		一部		骨化済み	なし	灰色化		不明
311	SK4107		哺乳類	ウマ	右下顎歯		中央エナメル質		成獣			外周エナメル質細片化	古墳～古代？
312	SX3205		哺乳類	ウシ	大腿骨	右	両端欠損		不明	不明	不明	表面剥落	11C ～12C
313	SX3205		哺乳類	ウシ	大腿骨	左	両端欠損		不明	なし	なし	表面遺存不良　ネズミ？ひっかき傷	11C ～12C
314	SX3205		哺乳類	ウシ	脛骨	右	両端欠損		不明	なし	なし	表面遺存不良　ネズミ？ひっかき傷	11C ～12C
315	SX3205		哺乳類	ウシ	脛骨	左	両端欠損		不明	なし	なし	表面遺存不良　ネズミ？ひっかき傷	11C ～12C
316	ラベル無し		哺乳類		上腕骨		遠位部		骨化済み	不明	なし	表面遺存悪い	
317	ラベル無し		哺乳類	イノシシ	上腕骨	左	遠位部		骨化済み	あり（多い）	なし		
318	ラベル無し		哺乳類	シカ	距骨	左	一部欠損	表面剥離	骨化済み	なし	不明		
319	不明		爬虫類	スッポン	腹甲板								
320	不明		爬虫類	スッポン	腹甲板								
321	不明		爬虫類	スッポン	腹甲板				不明	なし	なし	細片化	

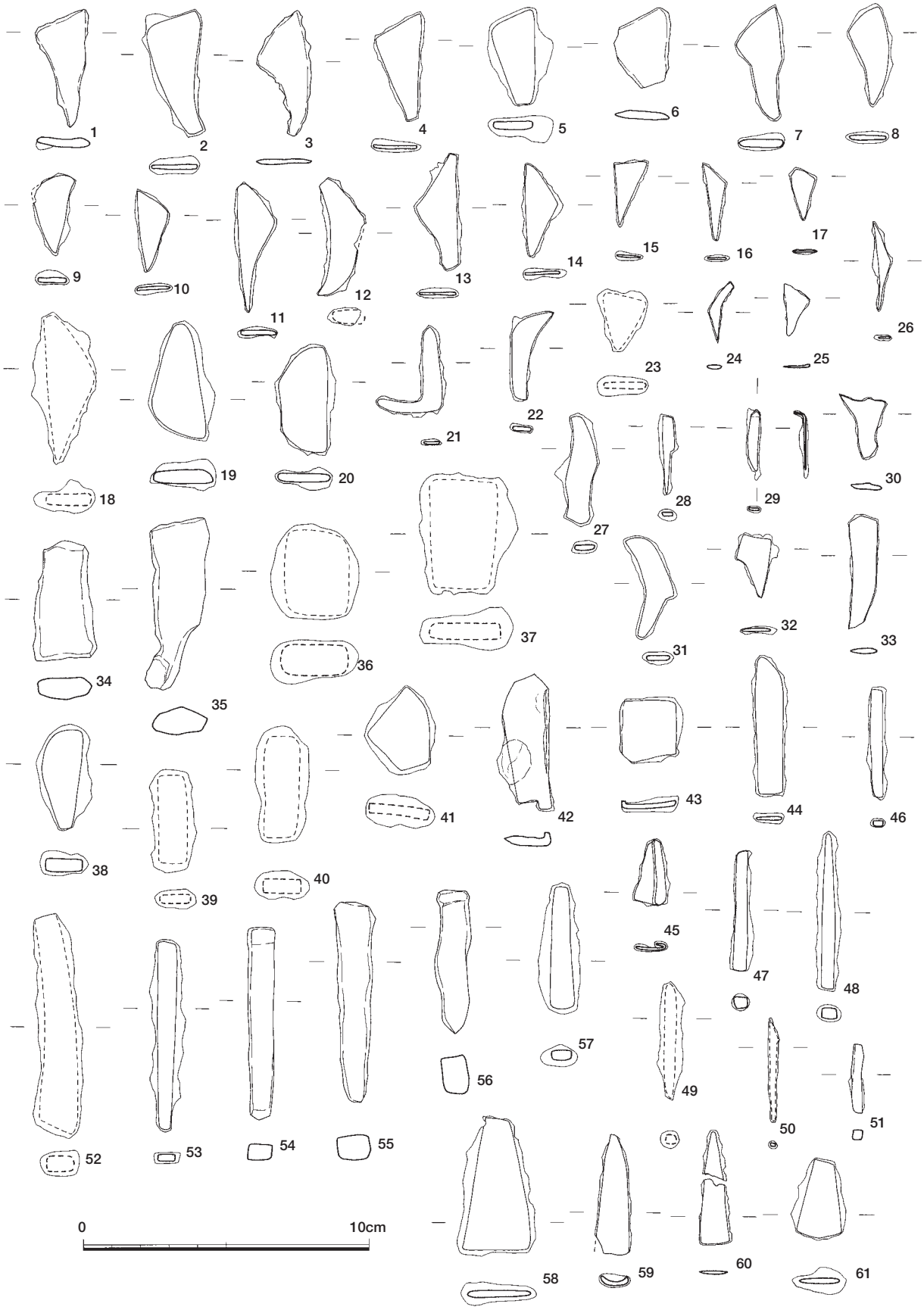


Fig.127　古墳時代鉄器・鉄関連遺物実測図１（１／２）

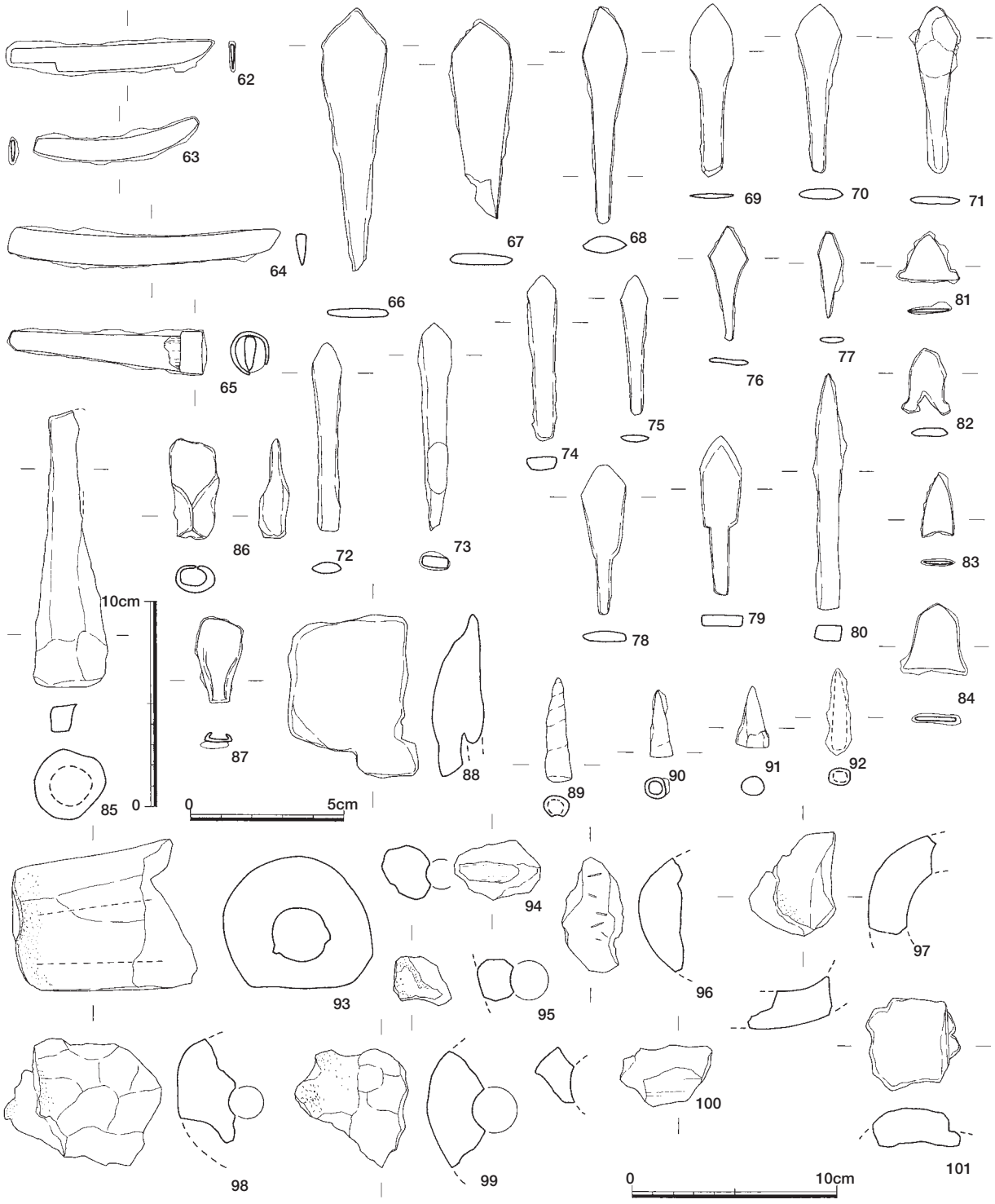


Fig.128　古墳時代鉄器・鉄関連遺物実測図１（62～84・86～92：１／２，85・93～99：１／３）

SK－1201（Fig. 120）隅丸方形に近い平面形で、床面は平坦で壁は緩く開く。遺構内から大型動物の骨が出土しており、廃棄土坑であった可能性が高い。

出土遺物（Fig. 121）１は青磁皿で、内面に線画で花文を描く。底部以外は施釉され、釉は明緑色透明で厚い。2 は青磁碗で、見込みの釉を輪状にかき取る。釉は薄緑色透明。3 は瓦器椀。外面は横ナデ後部分的な横ミガキ、内面は横ミガキ。4 は青磁四耳壺。釉は灰緑色で不透明。5 は白磁壺。高台内側に文字不明の墨書が書かれる。釉は白色不透明でガラス質。

SK－1203（Fig. 122）隅丸方形の土坑で、床面は平坦で壁は緩く立ち上がる。土坑形状が非常に

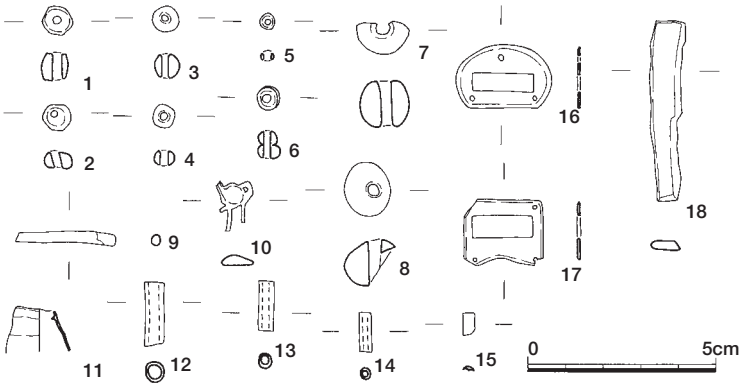


Fig.129　玉・ガラス・銅製品実測図（1 / 2）

整っており、方形竪穴土坑か土壙墓に類するものとみられる。

出土遺物（Fig. 123）1は土師器皿。底部は糸切りで、体部は低く立ち上がり、全体に扁平である。2は土師器坏。底部は糸切りで、体部はやや内湾する。全体に器壁が厚い。3は青磁小碗。内面に片彫りで流雲文を描く。釉は緑色透明。4は青磁碗底部。見込み底部に箆描きで十字文を施文している。破片は周囲を打ち欠いて丁寧に整形しており、文様を意識して打ち欠いたとみられる。瓦玉と同様の用途をもつものだろうか。5は白磁碗。高台は高く、口縁は短く外反する。内面に櫛描文を施文する。釉は薄緑色透明で厚さにムラがある。

(5) 包含層出土遺物（Fig. 124・125）

各遺構から出土した遺物以外に、包含層切り下げ時に多量の遺物が検出されている。以下ではその中から特筆すべき遺物を選んで報告する。1～6は滑石製品。1・2は小杯が2つ連結した形で、1は使用が進んだためか底が薄くなり一部穴が開いている。3は紡錘車。表面に擦痕が残り、全体に歪な形である。4は用途不明滑石製品。本来は板状だったとみられ、小孔が開いている。5・6は石鍋。5は取手が2ヶ所ついており、外面には煤が付着する。6は口縁下に突帯を削り出す。

7・8は青磁皿。いずれも内面に櫛描文を施文し、8は片彫りも施文する。11・12は白磁碗。11は高台が高く、口縁が短く外反するもの。釉は乳白色不透明。13は白磁皿。見込みの釉を輪状にかき取り、内面に段をもつ。9・10は青磁碗。9は体部が丸く、内面に片彫りと櫛描文を施文する。釉は明緑色透明で厚い。10は内面に片彫りで蓮花文を描く。釉は青緑色透明で厚い。12もほぼ同形でやや扁平。釉は薄灰色透明。

(6) その他の遺構・遺物

1）動物遺存体（Fig.126　Tab.1・2　図版13・14）

動物遺存体の同定には比較資料として独立行政法人奈良文化財研究所の松井章氏所蔵の現生標本を

Tab.2　出土ガラス製品・玉製品一覧

	出土位置	材質	形状	色調	観察所見	分析所見	分類	径	厚さ	孔径	重量	備考
1	1区4面上包含層	ガラス	小玉	青紺	内部には孔の長軸に平行な気泡筋が多数並ぶ。表面は多数の円形蝕像に覆われている。小口は一方が平坦、もう一方はやや丸みを帯びる。	Na無、Al低、K＞Ca、Mn強＞Fe	カリガラス	6.9	6.4		0.366	弥生～古墳後期に盛行するガラス。
2	SK－4103	ガラス	小玉	淡青	やや歪な形状。微細な気泡が多量に充満している。気泡は孔の長軸に平行して引き延ばされたり並んでいる。大きな気泡の破裂した孔に顔料と見られる赤色の粒子が残存。	赤色粒子部分ではFeが顕著。	カリガラス	7	4.2		0.251	弥生～古墳後期に盛行するガラス。
3	SE－2301（掘方）	ガラス	小玉	青（半透明）	孔の内部や小口付近に同心円状の蝕像が見られる部分有り。	Si、Pbが顕著、K＜Ca、Al明瞭、Fe、Cu弱	カリウム鉛ガラス？	6.35	5.8		0.4	中世のガラス
4	SK－3025	ガラス	小玉	青（透明）	透明度が高く気泡はほとんど無いため流れは読めないが、小口部分で孔を取り巻くように螺旋状の畝が廻る。	Si、Pbが顕著、他K、Fe、Cu微弱。	カリウム鉛ガラス	5.95	3.85		0.221	中世のガラス
4	SK－1204	ガラス	容器片？	青（半透明）		Si、Pbが顕著、K＞Ca、Fe、Cu	カリウム鉛ガラス				0.038	中世のガラス
5	SK－1142	ガラス	小玉	淡青（半透明）	気泡が極端に少なく流れは読めない。形も整ったドーナツ状で特徴的な部分は無い。	Si、Pbが顕著、K＜Ca、Al明瞭、Fe、Cu弱。	カリウム鉛ガラス	4.6	2.2		0.091	中世のガラス
6	SE－2301（掘方）	ガラス	連玉	青（半透明）	透明感のある部分が少ない上に気泡も少なく、流れは読めない。	Si、Pbが顕著、K＞Ca(ただし両ピークとも微弱)、Fe、Cu。	カリウム鉛ガラス？	5.45	7		0.296	中世のガラス
7	SK－3025	ガラス	丸玉	青（透明）	孔を取り巻くように螺旋状の蝕像が見られる。	Si、Pbが顕著、他K、Fe、Cu微弱。	カリウム鉛ガラス	12.9	11.7	3.65	2.192	中世のガラス
8	SK－3025	土	丸玉					13.5		3.75	2.276	
9	SC－4009　P－1	ガラス	棒状製品	青（透明）		Si、Pbが顕著、K＞Ca、Fe、Cu。	カリウム鉛ガラス	2.85	26.05		0.536	中世のガラス、※「厚さ」は現存長
10	SK－3104	ガラス	不定形	淡青緑		Si、Pbが顕著、K＞Ca、Fe、Cu。	カリウム鉛ガラス				0.343	中世のガラス
11	SK－252	ガラス	容器	青（半透明）		Si、Pbが顕著、K＞Ca、Fe、Cu	カリウム鉛ガラス？				2.379	中世のガラス
12	1区4面上包含層	石	管玉					5.1	16.25		0.664	
13	SC－4010	石	管玉					4.2	13.2		0.348	
14	3区3面上包含層	石	管玉					3.35	10		0.193	
15	3区4面上包含層	石	管玉		孔が二列になる	Si、K、Fe、Al	碧玉					

※分析は福岡市埋蔵文化財センター　比佐陽一郎氏による。

使用させていただくとともに多大なご教示を頂いた。今回出土した動物遺存体は1．哺乳類がウマ、ウシ、イノシシ、シカ、ヒト、イヌ、ネコ or テン、イルカ・クジラ類、2．爬虫類がスッポン、3．貝類が マガキ、アワビ、ハイガイ、4.魚類がマダイ等である。特徴的なものとしては SE-2401 の井筒上層から一頭分まとまって出土したウマで、体の左側を上にし、手足を折り曲げ背中を丸めた窮屈な姿勢で出土した。首は後ろを振り向き左上腕骨の上に頭を置く。骨は肋骨や椎骨に若干のずれがある他はほぼ原位置を保っている。骨は遺存状態が悪く細片化しているが、肋骨や寛骨に解体痕がみられること、また指骨が出土しないことから皮や肉、爪は利用されたものと思われる。骨端の骨化状況から年齢は 3.5 才前後で体高は 120㎝弱と小型である。イルカ・クジラ類が SK-2319 から 1 点出土した。14 世紀になると多量に出土する用になる海棲哺乳類も 13 世紀中頃にはまだ少なく、多くが陸生の哺乳類であり、13 世紀後半から 14 世紀にかけてイルカ・クジラ類の捕獲法や動物観（陸生哺乳類の食料忌避感の強化）などが変化したと考えられる。（屋山洋）

２）古墳時代の鉄器・鉄製品・銅鏡（Fig. 127・128　図版16）

調査区内から出土した鉄器・鉄製品のうち、３面上・４面上包含層から出土した、確実に古墳時代とみられる遺物だけで900点近くにのぼる。その中からごく一部を図示した。１～33は切片状の薄板。三角形を呈するもの（１～19）とそれ以外のものに大別可能である。34～41は切片状厚板。鉄素材として利用された可能性もある。42・43は切断時の返りをもつ。49～51は細棒状を呈する。玉製品等の穿孔に使用された可能性がある。52～57は鉄棒状で、鏨等の製品も含む。58～61は二等片三角形を呈する切片。59は鉈の可能性もある。

62～65は刀子。65は柄に責金具と木質が残る。66～84は鉄鏃とその未製品。前述の三角形切片と形態的に繋がるものもある。85は石突。86・87は小型鉄斧、88は鉄斧残片か。89～92は小型石突状製品。

93～101は鞴羽口。孔径の細いもの（94・95・98・99）と太いもの（97）に大別でき、時期が分けられそうである。97は上面が反り上がり、他部位との接合部近くとみられる。101は差し込み状の段差がみられる。鞴破片は鉄器の量に比べ極端に少ない。

また、２区４面上包含層から破鏡が出土しており、図版16で詳しく報告している。鉄器・鉄製品については中世のものも大量に出土しており、いずれ別の形で報告できればと考えている。

３）ガラス製品・玉製品・銅製品（Fig. 127）

１～６はガラス製臼玉。１・２はカリガラス製で、弥生～古墳後期に盛行するものである。３～６は中世。７は古墳時代の層に混入したとみられるガラス棒で、成分から中世とみられる。玉の素材で

Tab.3　出土銭貨一覧

No.	出土遺構	銭　銘	初鋳年	備　考	No.	出土遺構	銭　銘	初鋳年	備　考	No.	出土遺構	銭　銘	初鋳年	備　考
1	１区４面遺構面	五銖銭（若干大）	前118		23	SE －255（掘方）	開××寳			45	SK －3036	開元通寳	621	
2	１区４面遺構面	五銖銭（若干小）	前118		24	SK －1101	祥符通寳	1002		46	１区２面上包含層	□□□□		折二銭　私鋳銭か
3	１区２面上包含層	半両銭	前175	四銖半両	25	SK －1102（南側）	□□□×			47	１区２面上包含層	熙寧元寳	1068	
4	３区撹乱内	延喜通寳	907	皇朝十二銭	26	SK －1102	嘉祐通寳	1057		48	１区２面上包含層	開元通寳	621	
5	３区撹乱内	乾元大寳	958	皇朝十二銭	27	SK －1102	皇宋通寳	1039		49	１区２面上包含層	元豊通寳	1078	
6	SK －111	宋通元寳	968		28	SK －1102	崇寧重寳	1104	当十銭	50	２区３面上包含層	天禧通寳	1018	
7	SK －111	元豊通寳	1078		29	SK －1102	開元通寳	621		51	調査区外表土	寛永通寳		背足
8	SK －111	皇宋通寳	1039		30	SK －1102	天聖元寳	1023	湾曲	52	SK －1011	元祐通寳	1093	
9	SK －112	開元通寳	621		31	SK －1102	至道元寳	995		53	SK －1011	□□□□		
10	SK －112	祥符通寳	1002		32	SK －1105	淳化元寳	990		54	SK －1011	治平元寳	1064	
11	SK －118	開××寳			33	SK －1118	景徳元寳	1005		55	SK －1011	祥符元寳	1008	
12	SK －121	皇宋通寳	1039	４枚銹着	34	SK －1136	大観通寳	1107	６枚銹着	56	SK －1011	淳化元寳	990	
13	SK －121	元祐通寳	1093	４枚銹着	35	SK －1136	元豊通寳	1078	６枚銹着	57	SK －1011	嘉祐元寳	1057	
14	SK －121	元豊通寳	1078	４枚銹着	36	SK －1136	開元通寳	621	６枚銹着	58	SK －1011			４枚銹着　剥離不能
15	SK －121	皇宋通寳	1039	４枚銹着	37	SK －1136	政和通寳	1111	６枚銹着	59	SK －1011			４枚銹着　剥離不能
16	SK －137	紹聖元寳	1094		38	SK －1136	元豊通寳	1078	６枚銹着	60	SK －1011			４枚銹着　剥離不能
17	SK －213	治平元寳	1064		39	SK －1136	景祐元寳	1034	６枚銹着	61	SK －1011			４枚銹着　剥離不能
18	SK －239	至和元寳	1054		40	SK －1204	皇宋通寳	1039		62	SK －1011			ボタン？と銹着
19	SK －248	嘉祐通寳	1057		41	SK －1214	××元×			63	SK －1011			腐蝕顕著
20	SK －249	元豊通寳	1057	折二銭	42	SK －2201	至道元寳	995		64	SK －1011			細片
21	SK －252	皇宋通寳	1039		43	SK －2319	熙寧元寳	1068		65				
22	SK －252	天禧通寳	1018		44	SK －3025	開元通寳	621		66				

□：判読不能　×：欠損

あろう。10はガラス細工の一部とみられる。11はガラス容器の口縁部とみられ、非常に薄造りである。15の管玉は孔が二列に平行している。

16・17は銅製の帯金具。いずれも１区３面上包含層から出土。18は２区４面上包含層から出土した刀形の金属片で、分析の結果純銅板と判明したものである。製品の制作時切片とも推定される。

４）銭貨（図版15）

調査区内外から計64枚の銭が出土している。特筆すべきものとして１区４面遺構面上から出土した五銖銭２枚と、１区２面上包含層から出土した半両銭、３区試掘トレンチ内の撹乱土中から検出された皇朝十二銭２種が挙げられる。

五銖銭は２枚が癒着した状態で出土し、２枚に挟まれた形で繊維が遺存する。この繊維は分析の結果、植物性のものと推定された。２枚の銭の孔に紐を通してペンダント状にしていたとも考えられる。半両銭は中世の包含層から出土しており、中世期まで流通していたものとみられる。皇朝十二銭２種類は出土状況が不明確だが、P.52　Fig.127の帯金具とともに周囲に公的な性格を持つ施設が存在したことを推定させられる。

その他の銭貨は開元通寶を除いて10世紀から11世紀に初鋳年をもつものが多く、この時期に大量に流入した銭貨が継続して流通していたものとみられる。

第３章　小結

紙幅の制限で、ここで出土した全ての資料に対する問題点を論じることは困難である。以下ではその中から問題点をいくつか提示して今後の課題としたい。

弥生時代の遺構について　今回の調査区で検出された弥生時代の遺構・遺物は住居などの生活遺構ではなく、墓葬や副葬遺物に関連するものである。また比較的広い面積に２基の墓葬しか確認できなかったことなどから、砂丘後背部に散発的な墓葬が存在した状況が想定される。甕棺やその他の土器の時期は弥生時代前期後半～前期末で、これは博多遺跡群の遺構の初出年代を遡らせるものである。さらにこの時期の墓葬が確認できたことから、博多湾岸に広がる他の弥生時代の砂丘遺跡との比較・検討についても幅を持たせることができそうである。

古墳時代の集落について　第４面で検出された住居群は出土した土器から古墳時代初頭～前半の年代が与えられる。久住編年（註）ではSC-4102がⅡＡ期、SC-4105とSC-4204がⅡＡ～ⅡＢ期、SC-4011がⅡＣ期、SC-4009がⅢＡ期、SC-4007がⅢＡ新～ⅢＢ期等となっている。この前後の時期の土器は上層の包含層からも出土せず、この地点では集落がこの時期に限定される。この背景についてはさらに検討する必要がある。

古墳時代・古代の中国・半島系遺物について　三国鏡とみられる破鏡が１点と、五銖銭が２点出土している。また半島系陶質土器破片が７点出土している。これらの遺物は大量に出土した鉄器・鉄製品と何らかの関連が想定される。古墳時代の住居・包含層から鉄生産に関連した製鉄炉、鉄滓などの出土はごくわずかで、同時期に調査区に近接して鉄製産をしていたとは考えにくい。鉄器製作の材料を中国や半島に求めた過程で、中国・半島系の遺物が流入した可能性が考えられないだろうか。

この他にも古墳時代の鉄器・鉄製品、中世の土器溜やSE-2401の馬投棄状態など、様々な問題が今回の調査結果から想起される。今回の調査結果をもとに今後様々な形で検討・論究していきたい。

（註）久住猛雄「北部九州における庄内式併行期の土器様相」庄内式土器研究19　1999

1．1区１面全景（南から）

2．1区２面全景（南から）

3．1区３面全景（南から）

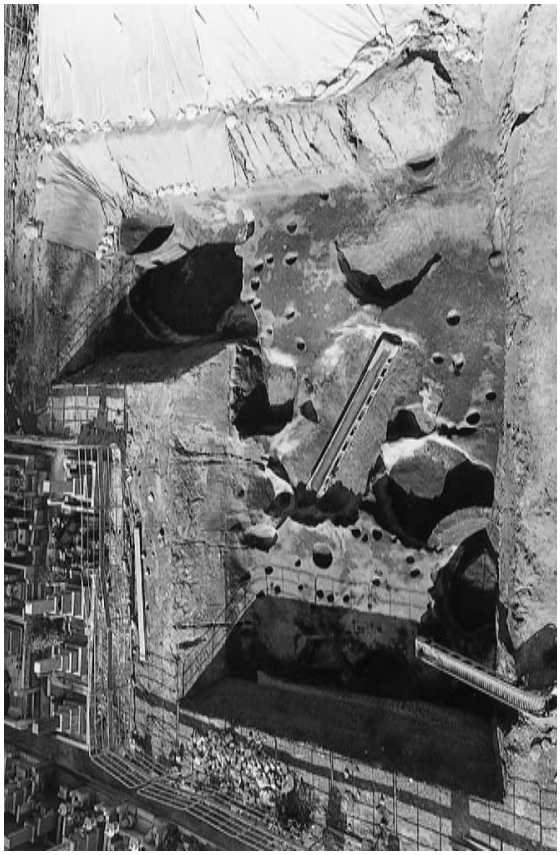
4．1区４面全景（南から）

図版１

図版 2

1．2区 1 面全景（南から）

2．2区 2 面全景（南から）



3．2区 3 面全景（南から）

4．2区 4 面全景（南から）

1．3区１面全景（南から）

2．3区２面全景（南から）

3．3区３面全景（南から）

4．3区４面全景（南から）

図版３

図版 4

1. ST-4001（南から）

2. ST-4018（西から）

3. SX-4002（南から）

1．SC-4007（南から）

2．SC-4009土器検出状況（東から）

3．SC-4009完掘状況（南から）

4．SC-4101（北から）

5．SC-4102土器検出状況（東から）

6．SC-4102土器検出状況（西から）

図版 6

1．SC-4102完掘状況（東から）

2．SC-4202（東から）

3．SC-4204（南から）

4．SE-3006（北から）

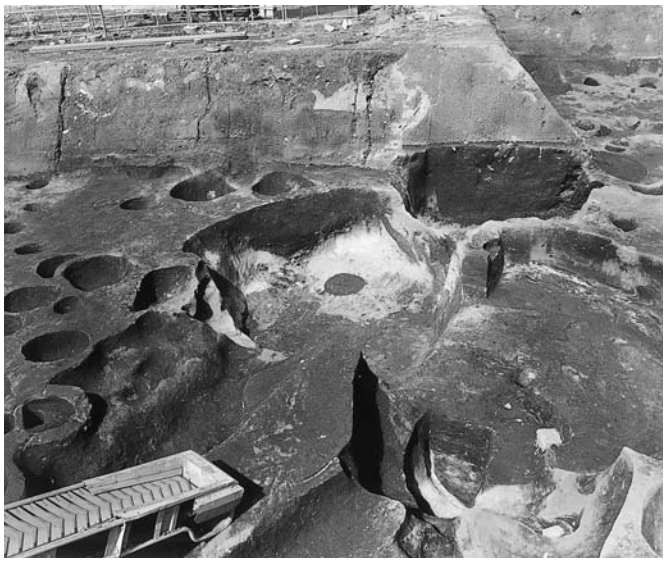
5．SE-3048（南から）

6．SE-3052（南東から）

1．SE-4203（東から）

2．SK-3006（東から）

3．SK-3049（東から）



4．SE-2206（南から）

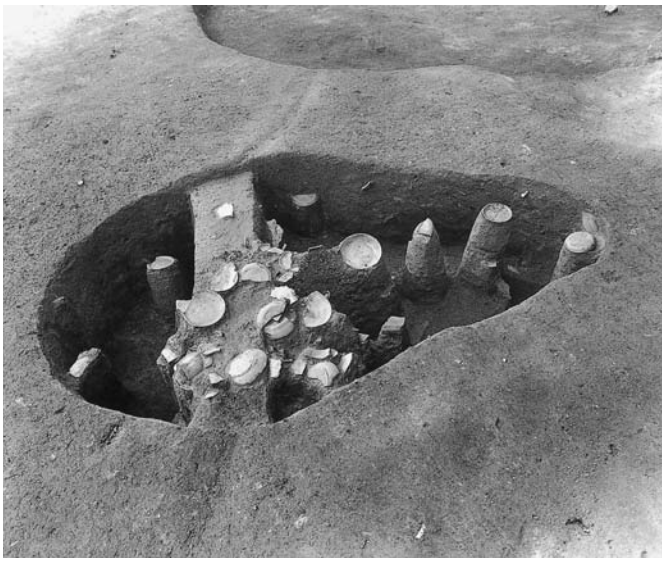
5．SE-2055（北から）

6．SK-2001（南西から）

図版 8

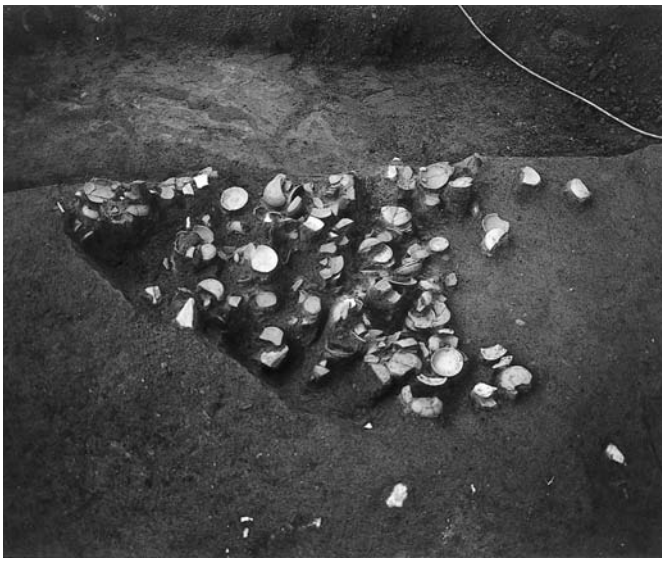
1．SK-2052（東から）

2．SK-1020（東から）



3．SK-1029（東から）

4．SD-1102（南から）



5．SD-1102南側（南から）

6．SD-1102断面（南から）

Fig.6-1

Fig.12-1

Fig.6-2

Fig.18-1

Fig.8-1

Fig.18-4

Fig.10-1

Fig.42-15

図版10

Fig.16-1

Fig.18-2

Fig.18-3

Fig.20-10

Fig.20-11

Fig.20-12

Fig.20-14

Fig.21-17

Fig.21-21

Fig.32-4

Fig.33-10

Fig.35-30

Fig.40-6

Fig.40-7

Fig.42-16

Fig.42-17

Fig.43-21

Fig.43-22

Fig.44-24

Fig.45-32

Fig.45-33

Fig.45-35

Fig.45-37

Fig.45-38

図版12

SE-2306　白磁碗

SE-3104　土師器皿

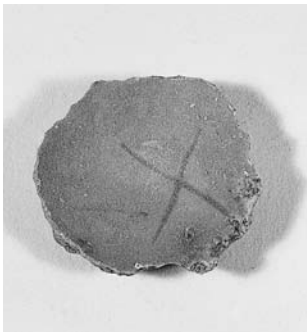
SK-3035　土師器坏

SK-2204　青磁皿

SK-2057　白磁碗

SK-2054　白磁皿

SK-1201　青磁壺


SK-1203　青磁碗

SK-1105　青磁皿

SE-2203　白磁碗

SE-2207　陶器碗

SE-2319　白磁皿

3 区撹乱中　白磁碗

SK-2100　白磁皿

2 区撹乱中　青磁小碗

1 区 2 面上包含層　青磁碗

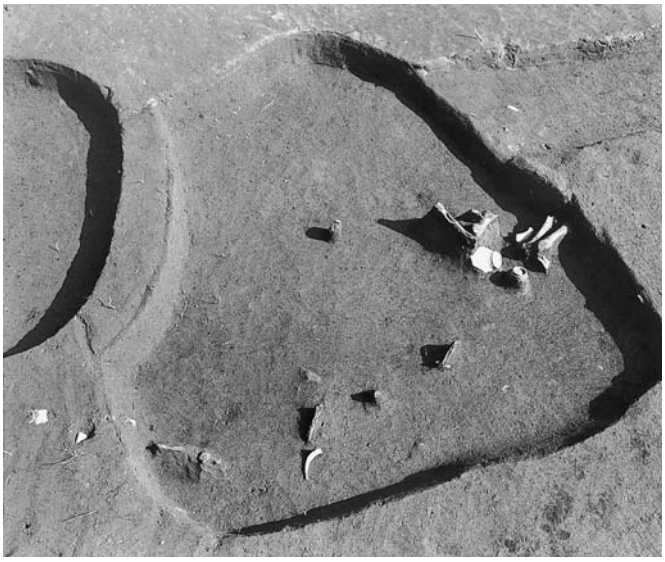
1 区 2 面上包含層　白磁碗

1 区 2 面上包含層　白磁皿

1 区 2 面上包含層　白磁碗

SK-1002　土師器皿
墨書土器

1．SK-3202獣骨出土状況（南から）



2．SK-1201獣骨出土状況（西から）

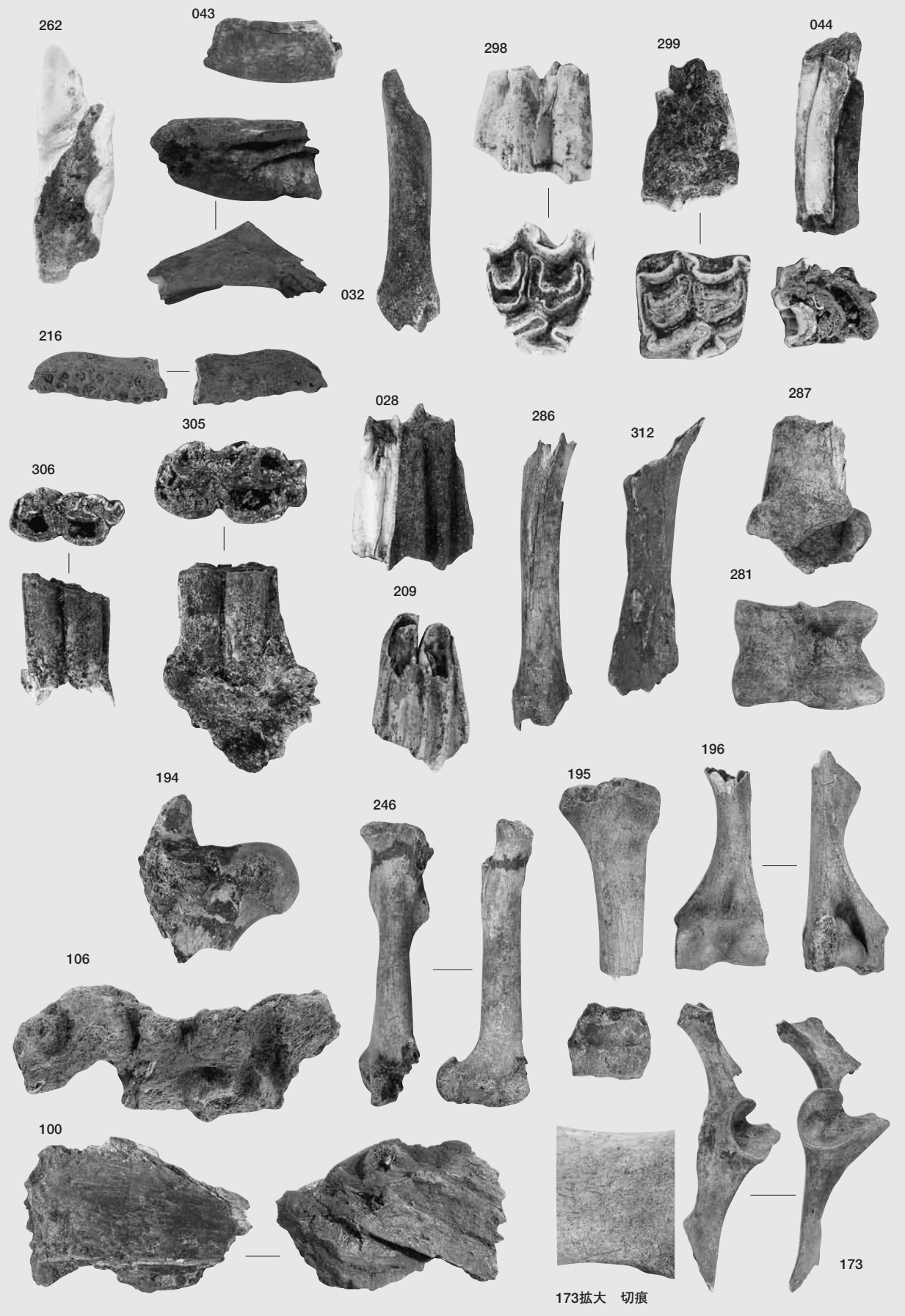
3．SK-2054獣骨出土状況（北から）

4．SK-2056獣骨出土状況（南から）

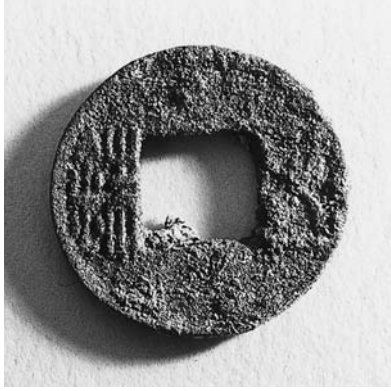
5．SE-2401馬骨出土状況・上層（西から）

6．SE-2401馬骨出土状況・下層（西から）

図版14


262
043
298
299
044
032
216
028
286
312
287
305
306
209
281
194
246
195
196
106
100
173
173拡大　切痕

出土動物骨



1．五銖銭１

2．五銖銭２

3．五銖銭１裏面

4．半両銭

5．乾元大寶

6．延喜通寶

7．五銖銭出土状況（北から）

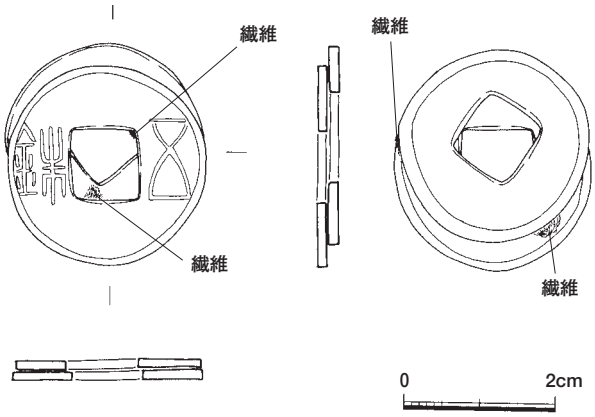


Fig.130　五銖銭出土状態実測図（１／１）

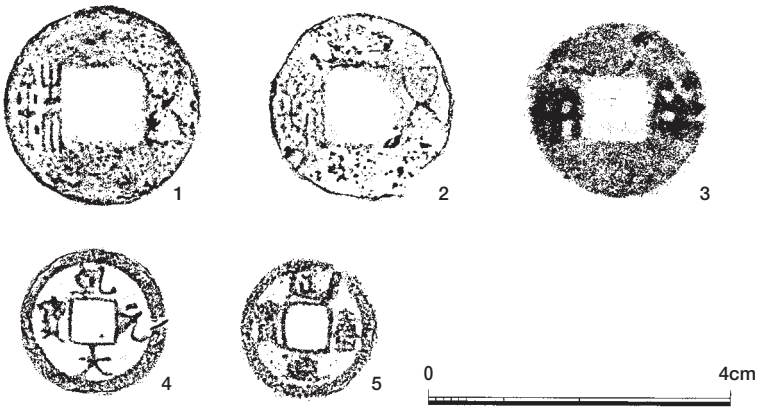


Fig.131　銭貨拓本（１／１）

図版16

1．破鏡（裏面）

2．破鏡（鏡面）

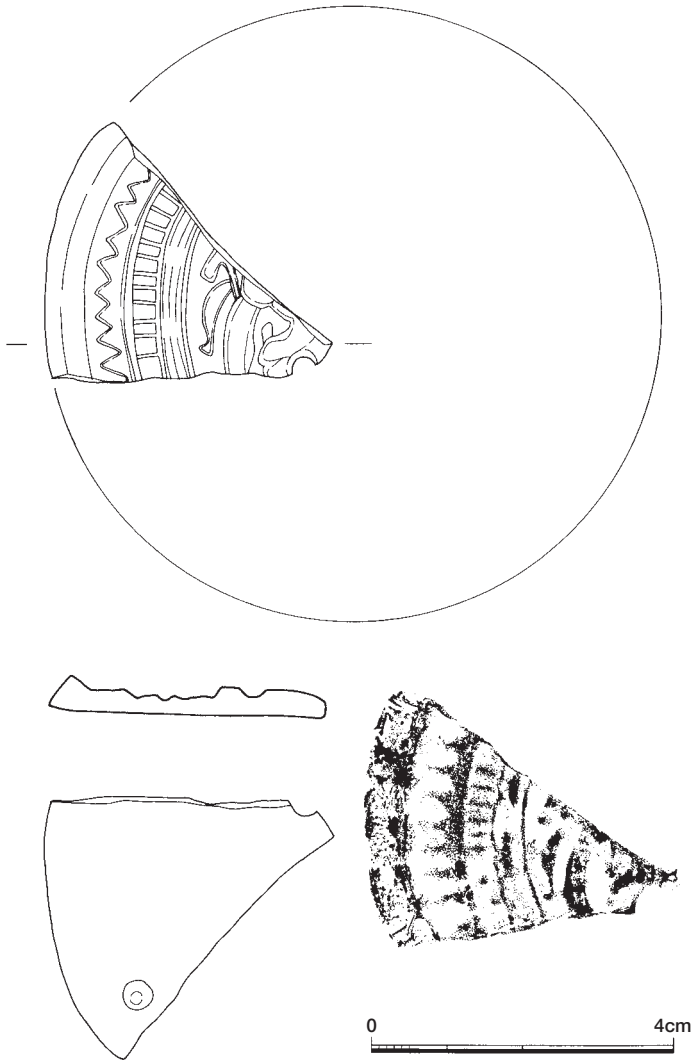


Fig.132　破鏡実測図（１／１）

破鏡が１点出土している。２区４面上包含層の掘り下げ中に検出しており、周囲を精査したが明確な遺構に伴うものではない。復元径は8.2cmで、小型鏡の部類に属する。検出部分は鈕部分を欠くものの全体のほぼ正確な８分の１分割破片である。出土位置の土質は褐色風成砂で、表裏面とも遺存状態は良好で銀色の金属光沢が残り、鏡面は所々銹のため凹凸が生じている。鏡体は厚めで、鏡縁は断面三角形を呈する。外区には鋸歯文を施し、内区には肉厚な浮彫りが施される。内区の紋様は小片の為不明だが、浮彫で獣文が描かれていたと見られる。破断面に１ヶ所穿孔がみられる。鏡面にも穿孔が１ヶ所見られるが貫通していない。手擦れのためであろうか、全体に磨耗している。舶載鏡とみられ、後漢～三国鏡の破鏡と推定されるが、模様が確定されないため、仿製鏡との見方も捨てられない。

報告書抄録

ふりがな	はかた106
書名	博多106
副書名	博多遺跡群第147次調査の報告
巻次	
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第892集
編著者名	大塚紀宜
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	810－8621　福岡県福岡市中央区天神１丁目８－１
発行年月日	平成18年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号				
はかたいせきぐん 博多遺跡群	ふくおかしはかたく 福岡市博多区 ぎおんまち 祇園町４－９	40130	020121	33°35'30"	130° 24'48"	20040604 －20041216	588.6㎡

調査原因	遺跡種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺務所・庫裡 建築	集落	弥生時代・ 古墳時代・ 中世 （12～18世紀）	弥生時代：甕棺墓２・土坑　古墳時代：竪穴住居13　中世：方形竪穴遺構３・井戸14、土器溜３・土坑・柱穴	弥生時代：甕棺・弥生土器，古墳時代：土師器・鉄器・銅鏡・中国銭貨，中世：中国陶磁器・国産陶器・獣骨・銅銭	弥生時代前期の甕棺墓。半両銭・五銖銭等中国古代銭の出土。古墳時代の鉄器・鉄未製品。中世井戸内からの馬骨の出土。

要約

計４面の調査を実施した。第１面は暗褐色砂質土で、土坑などの遺構群が散漫に検出され、土壙墓が多い。調査区西側で検出した土器溜は幅２ｍの溝状遺構内に土師器皿を中心に60箱の遺物が出土する。12～13世紀の遺構面である。

第２面では11～12世紀代の井戸、土坑、溝などの生活遺構を濃密に検出する。１基の井戸枠内から馬骨が１頭分完全な形で出土する。

第３面は暗褐色砂質土の遺構面で標高3.2m程度で、井戸、方形竪穴土坑、土坑など検出した。検出遺構は少なく、大部分の遺構は10～11世紀代とみられる。古代の遺物は少ない。

第４面では弥生時代～古墳時代の遺構を検出する。標高は2.4～3.0mで南に緩く傾斜する。

地山土質は明褐色風成砂で脆く崩れやすい。弥生時代の遺構は甕棺等で、甕棺は２基検出され、弥生前期後半～前期末に属する。甕棺周辺に板付Ⅱｂ式土器が散布する。古墳時代では竪穴住居を13基検出する。住居の年代は古墳時代初頭～前半で、柱穴を４本持ち、ベッド状遺構や壁溝、竈はない。住居床面直上で完形土器が多数出土し、台石と見られる長さ約50cmで上面が平滑な石材もみられる。

遺物総出土量は471箱。第３面遺構面上で後漢～三国の銅鏡破片が出土、また第４面遺構面上で五銖銭が２枚重なって出土する。第３面以下の包含層から鉄器、鉄片が大量に出土する。

博多106

2006年（平成18年）３月31日

発行　福岡市教育委員会
福岡県福岡市中央区天神１丁目８番１号

印刷　新交社印刷
福岡市中央区地行１丁目11番３号